SONY

4-652-842-**01** (1)

はじめに 19

コンピュータの基本操作を練習する 59

本機の使いかたがわからないときに 65

カスタマー登録する／インターネットに接続する 79

困ったときは 87

その他 109

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。また、この取扱説明書では、本機を使う前に必要な準備および基本的な使いかたについて説明しています。

コンピュータを初めてお使いになる方はもちろん、よくご存知の方も、必ずこの取扱説明書からお読みください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

パーソナルコンピューター

PCV-RX71K/RX61K

© 2001 Sony Corporation

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

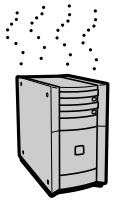
7〜15ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理をご依頼ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したとき**



❶ 電源を切る

❷ 電源コードや接続ケーブルを抜く

❸ VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理を依頼する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

行為を禁止する記号

行為を指示する記号

アース線の接続について

アース接続は必ず電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準（JIS・C-6802）クラス1適合のDVD-ROMドライブ／CD-RWドライブが搭載されています。

著作権について

あなたが本機で録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用することはできません。また、著作者の許可なく、取り込んだ映像・画像・音声に変更・切除その他の改変を加え、著作物の同一性を損うことは禁じられています。コピーガード信号の入った映像は録画することができません。

本機の内蔵モデムについて

本機の内蔵モデムは、諸外国で使用できる機能を有していますが、日本国内で使用する際は、他国のモードを使用すると電気通信事業法（技術標準）に違反する行為となります。工場出荷時の設定は「日本モード」となっておりますので、そのままご使用ください。

高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

本書で使われている画面のイラストについて

本書で使われている画面のイラストは実際のものと異なる場合があります。

- □ 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
- □ 本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は、一切その責任を負いかねます。
- □ 本機の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご参照ください。
- □ 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
- □ 本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。
- □ CD-ROMや音楽CDからのコピーの作成およびその利用は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの作成およびその利用にあたっては、オリジナルCDの使用許諾条件および著作権法を遵守してください。

目次

安全のために 2
目次 4
操作の流れ 6
⚠ 警告・⚠ 注意 7
こんなことができます 16

はじめに

付属品を確かめる 20
各部のなまえ 24
設置する 28
接続する／準備する 30
電源を入れる 47
Windows 2000を準備する 49
電源を切る 56

コンピュータの基本操作を練習する

マウスの使いかた 60

本機の使いかたがわからないときに

どのマニュアルを読む？ 66
オンラインマニュアルの使いかた（画面上の操作説明） 68
「サイバーサポート」ソフトウェアの使いかた 77

カスタマー登録する／インターネットに接続する

カスタマー登録する／インターネットに接続する 80

困ったときは

トラブルを解決するには 88
主なトラブルとその解決方法 90

その他

動画系ソフトウェアの操作の流れ 110
コンピュータウイルスについて 112
リカバリ CDで本機を再セットアップする 118
パーティションサイズを変更する 126
使用上のご注意 131
お手入れ 135
保証書とアフターサービス 137
索引 138

操作の流れ

本機をお使いになる前に必要な準備や操作の大まかな流れを以下に示します。

1 **付属品を確かめる（20ページ）**
箱を開け、この説明書を読みながら本機の付属品がすべてそろっているか確かめます。

2 **各部のなまえ（24ページ）**
本機の各部のなまえを紹介します。

3 **設置する（28ページ）**
本機を設置する場所を決めます。

4 **接続する／準備する（30ページ）**
ディスプレイ、アンテナ、AV機器、キーボード、マウス、テレホンコード、電源コードを接続し、リモコンを準備します。

電話回線にISDN回線をお使いになる場合は
NTT（局番なしの116番）にご相談ください。

5 **電源を入れる（47ページ）**
本機の電源を入れます。

6 **Windows 2000を準備する（49ページ）**
Windows 2000を使うために、名前などを登録します。

7 **電源を切る（56ページ）**
本機の電源を切ります。

必要に応じて下記もご覧ください。

❑ **コンピュータの基本操作を練習する（59ページ）**
マウスの操作を練習します。

❑ **本機の使いかたがわからないときに（65ページ）**
本機の使いかたがわからなくなったときに読むマニュアルやヘルプの使いかたを説明しています。

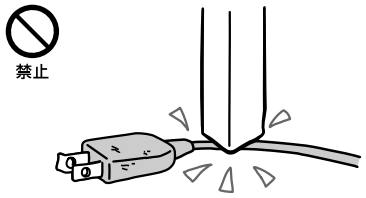
❑ **カスタマー登録する／インターネットに接続する（79ページ）**
登録カスタマー専用のいろいろなサービスを受けられるように、本機をカスタマー登録してください。インターネットに接続するときはその入会手続きをします。

❑ **困ったときは（87ページ）**
本機を操作していてトラブルが発生したときにご覧ください。

❑ **その他（109ページ）**
本機をお使いになる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。

⚠警告 火災 感電 **下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。**

電源コードを傷つけない

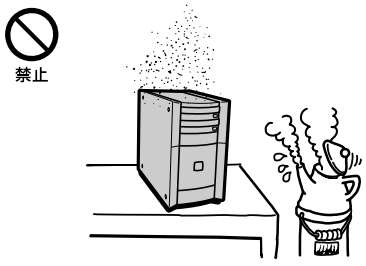


電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

- 設置時に、製品と壁やラック(棚)などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

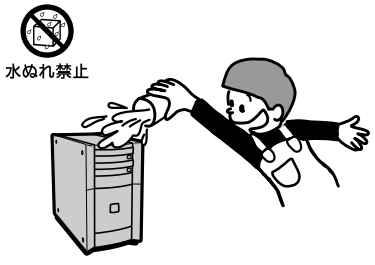
万一、電源コードが傷んだら、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない



上記のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。

内部に水や異物を入れない

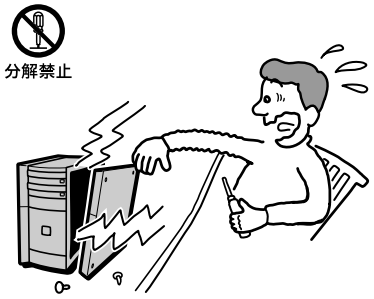


水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に点検・修理をご依頼ください。

警告 火災 感電 **下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。**

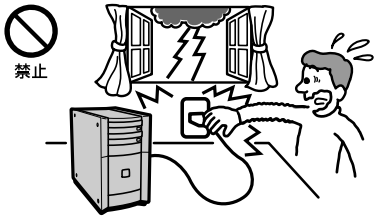
むやみに内部を開けない

- 内部には電圧の高い部分があり、ケースやフロントカバーをむやみに開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の点検、修理はVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- 各種の拡張ボード(基板)を取り付けたりメモリを増設する場合など、コンピュータの内部を開ける必要があるときは、本機の電源コードを抜き、別冊の「接続／拡張マニュアル」の周辺機器の拡張のページで指定された方法に従い、部品や基板などの角で手や指にけがをしないように注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となることがあります。



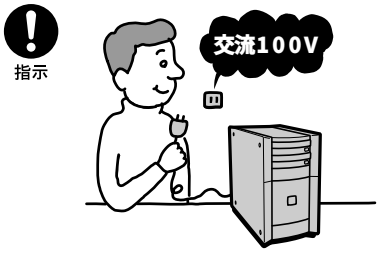
雷が鳴り出したらテレホンコードや電源プラグに触らない

感電の原因になります。



本機は日本国内専用です

交流100Vでお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電、故障の原因となることがあります。



内蔵モデムを一般回線以外の電話回線に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN(デジタル)対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機(PBX)へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。

NETWORK（ネットワーク）コネクタに指定以外のネットワークや電話回線を接続しない

禁止

本機のNETWORK（ネットワーク）コネクタに下記のネットワークや回線を接続すると、コネクタに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホンの回線には、絶対に接続しないでください。

- 10BASE-Tと100BASE-TXタイプ以外のネットワーク
- 一般電話回線
- PBX（デジタル式構内交換機）回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

⚠警告

下記の注意事項を守らないと、
健康を害するおそれがあります。

ディスプレイを長時間継続して見ない

ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

禁止

キーボードを使いすぎない

キーボードやマウスなどを長時間継続して使用すると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやマウスなどを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

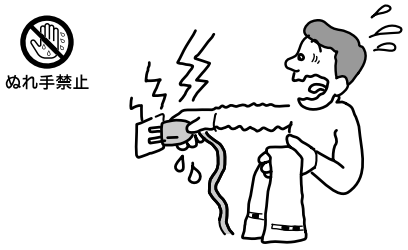
耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

禁止

⚠注意　**下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。**

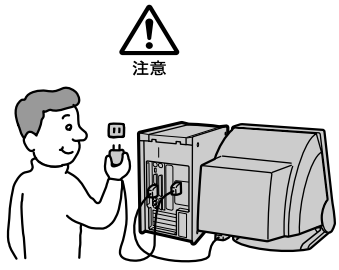
ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。



接続の際は電源を切る

電源コードや接続コードを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。



指定された電源コードや接続コードを使う

取扱説明書に記されている電源コードや接続コードを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。

アース線を接続する

アース線を接続しないと感電の原因となることがあります。アース線を取り付けることができない場合は、販売店にご相談ください。

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しを良くするために次の項目をお守りください。

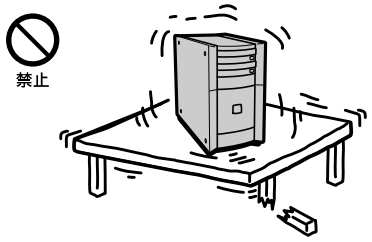
- 壁から10cm以上離して設置する。
- 密閉されたせまい場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物（じゅうたんや布団など）の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あお向けや横倒し、逆さまにしない。

⚠注意

下記の注意事項を守らないと<u>けが</u>をしたり周辺の<u>物品</u>に<u>損害</u>を与えたりすることがあります。

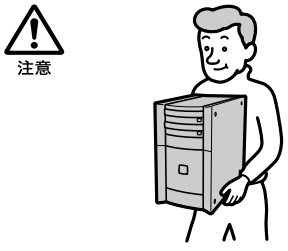
不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度も十分にお確かめください。



運搬時は慎重に

コンピュータを運搬するときは、底面全体を保持し、安定した姿勢で運んでください。前面および後面パネル部分に手をかけて持たないでください。運搬中にバランスを崩すと落下によりけがの原因となることがあります。また、本体と設置面との間に指を挟まないようにご注意ください。

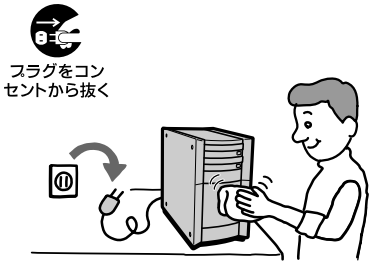


製品の上に乗らない、重い物を乗せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

お手入れの際は電源を切ってプラグを抜く

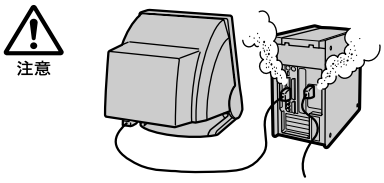
電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



移動させる時は電源コードや接続コードを抜く

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

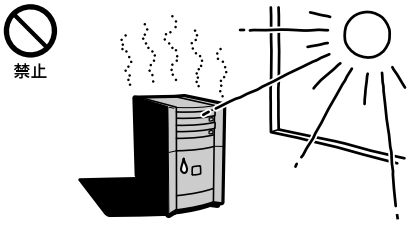
コネクタはきちんと接続する



- コネクタ（接続端子）の内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むとピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。
- アース線のあるコネクタには必ずアースを接続してください。

直射日光の当たる場所や熱器具近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。



電池についての安全上のご注意

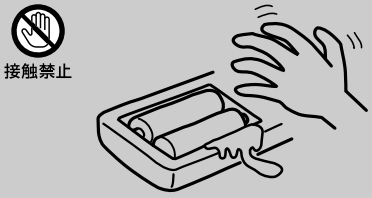
漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

アルカリ電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。

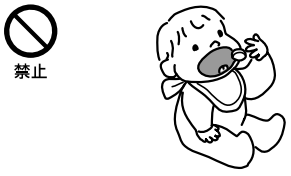


必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で十分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

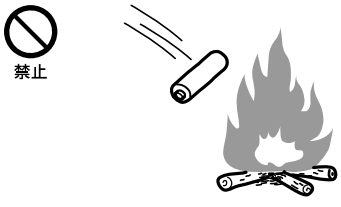
電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。
万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。



電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水で濡らさない

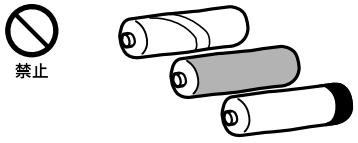
破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



⚠注意

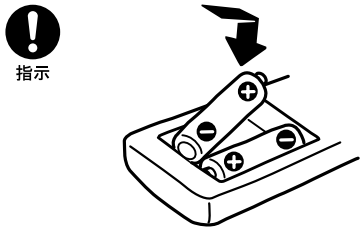
市販のアルカリまたはマンガン電池(単三型)以外の電池を リモコンに使わない、新しい電池と使用した電池 または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



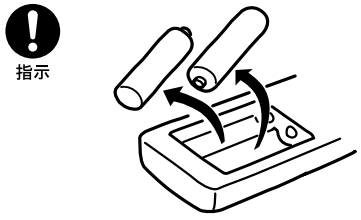
+と–の向きを正しく入れる

+と–を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。
機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

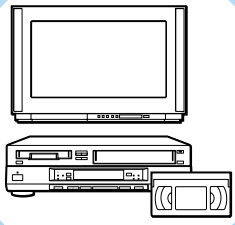
電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



こんなことができます

本機は、デジタルビデオカメラレコーダーやビデオデッキ、テレビなどと組み合わせて使うことを想定して設計された、ソニーならではのコンピュータです。ここでは、本機を使ってできることの例をあげてみましょう。

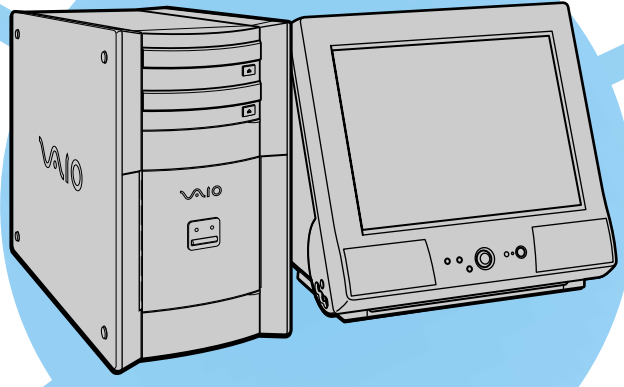
テレビ番組やビデオを録画したり、録画済みの映像を管理できます



付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、テレビ番組や、ビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどから映像を録画することができます。また、録画しながら録画中の映像を再生したり、別の録画済みの映像を再生したりできます。付属のCyberCodeラベルを使ってビデオテープを管理することもできます。

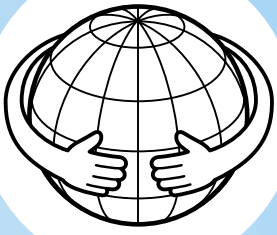
詳しくは、本機オンラインマニュアルの「バイオを楽しむ」内「テレビ番組を録画する」をご覧ください。

コンピュータを使いながらテレビが楽しめます



本機にアンテナをつなぎ、付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使うと、コンピュータを使いながらテレビ番組を楽しむことができます。また、本機に接続したテレビを付属のリモコンで操作できます。

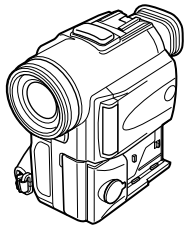
詳しくは、本機オンラインマニュアルの「バイオを楽しむ」内「テレビを見る」をご覧ください。



インターネットを楽しめます

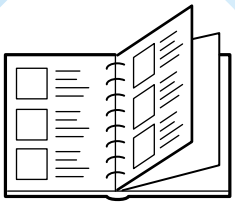
インターネットに接続してホームページを見たり、電子メールをやりとりできます。

詳しくは、「カスタマー登録する／インターネットに接続する」（79ページ）および別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。



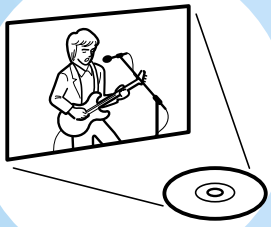
動画を取り込んで加工／編集ができます

本機にi.LINK（IEEE1394）インターフェイスを持つデジタルビデオカメラレコーダーなどをつなぎ、付属の「DVgate」ソフトウェアを使って、デジタル信号のままで動画を取り込めます。取り込んだ動画は不要なシーンを切り取ったり、複数の動画をつなげたりできます。また、アナログ映像も取り込めます。さらに、付属の「Adobe Premiere」や「MovieShaker」ソフトウェアを使って、映像と映像をつなぐオーバーラップ効果やタイトルの挿入など、さまざまなビデオ編集も楽しめます。加工／編集した動画は、CD-RWドライブを使ってCD-RW／CD-Rに記録したり、ビデオテープに録画したりできます。
詳しくは、本機オンラインマニュアルの「バイオを楽しむ」内「動画を編集する」をご覧ください。



静止画を取り込んで自由自在に活用できます

本機にデジタルスチルカメラなどをつなぎ、付属の「DVgate」ソフトウェアを使って静止画を取り込めます。
取り込んだ静止画は、付属の「PictureGear」ソフトウェアを使って加工して楽しむことができます。また、付属の「Adobe Photoshop LE」ソフトウェア（PCV-RX71K）または「Adobe PhotoDeluxe」ソフトウェア（PCV-RX61K）を使って、画質調整や複数の画像の合成、特殊効果の演出など多彩な画像の加工が楽しめます。
詳しくは、本機オンラインマニュアルの「バイオを楽しむ」内「静止画を管理する」をご覧ください。



DVDビデオや音楽CDの再生を楽しめます

付属の「Media Bar」ソフトウェアを使って、DVDビデオを再生して*楽しむことができます。また音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます（一部ソフトウェアを除きます）。
詳しくは、本機オンラインマニュアルの「バイオを楽しむ」内「DVDビデオ／音楽CDを再生する」をご覧ください。

* Manufactured under license from Dolby Laboratories.

GO!

これらの機能をお使いいただくには、最初に、本書に沿ってひと通りの接続や準備を完了しておく必要があります。次ページからの説明に従って、本機の接続と準備を行ってください。
また、それぞれの操作について詳しくは、付属の本機オンラインマニュアルまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

1

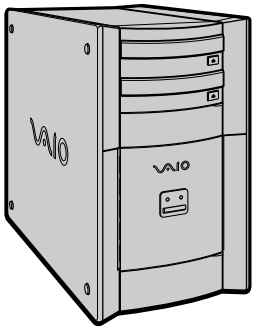
はじめに

この章では、本機を使う際に最初に行う準備について説明します。準備が整うと、本機のいろいろな機能が使えるようになります。

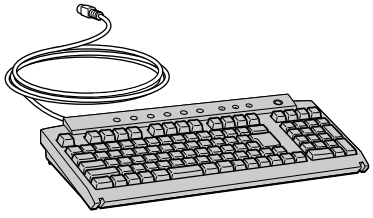
付属品を確かめる

本機を初めて使うにあたって、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。
❑マークにチェックしながら確認すると便利です。
付属品が足りないときや破損しているときは、VAIO（バイオ）カスタマーリンクまたは販売店にご連絡ください。
本書で使用するものについては、本書がついています。

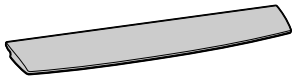
❑ コンピュータ本体（1） 本書



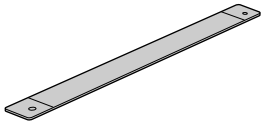
❑ キーボード（1） 本書



❑ パームレスト（1） 本書



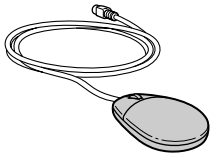
❑ テンプレート（1）



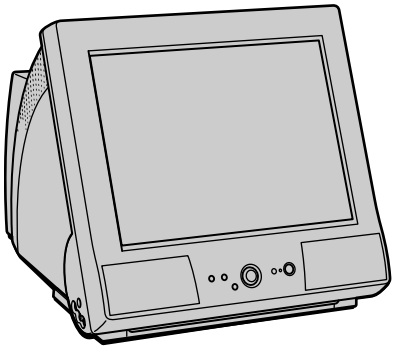
ちょっと一言

パームレストとテンプレートはキーボードの箱の中に入っています。

❑ マウス（1） 本書

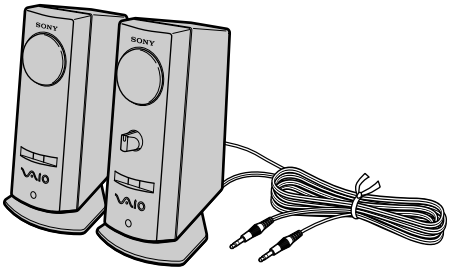


❑ ディスプレイおよびその付属品（1） 本書

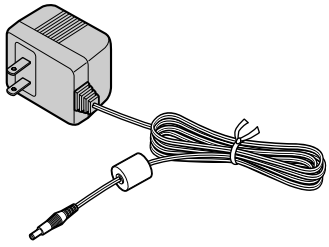


上のイラストはソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200です。お買い求めのコンピュータによって、ディスプレイは付属されていないことがあります。省スペース型のTFT（ティエフティ）液晶デジタルディスプレイPCVA-15XD2など、その他のディスプレイを使うこともできます。ディスプレイによっては別売りのディスプレイケーブルが必要になることがあります。

❑ アクティブスピーカー（1） 本書

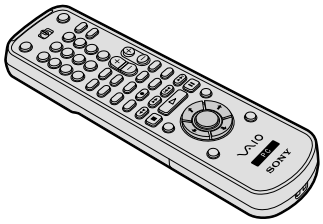


❑ スピーカー用ACアダプタ（1） 本書

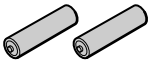


お買い上げのモデルによってはアクティブスピーカーとスピーカー用ACアダプタは付属していないことがあります。

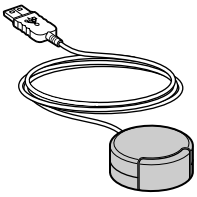
❑ リモコン（1）本書



❑ 単3乾電池（2）本書

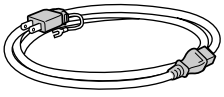


❑ リモコン用
受光ユニット（1）本書

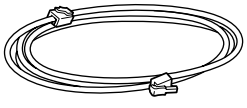


ケーブル

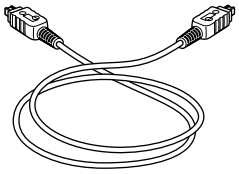
❑ 電源コード（1）本書



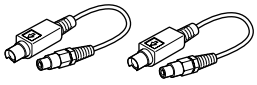
❑ テレホンコード（1）本書



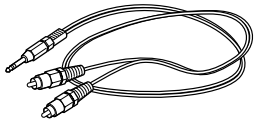
❑ i.LINKケーブル
（4ピン⟷4ピン）（1）



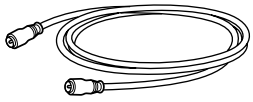
❑ ビデオ接続用
変換コネクタ（2）本書



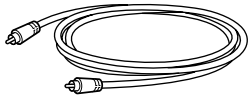
❑ オーディオ接続ケーブル（1）本書



❑ アンテナ接続ケーブル（1）本書



❑ ビデオ接続ケーブル（1）本書



次のページへつづく

説明書および CD-ROM

- ❑ **取扱説明書** 本書 **（本書、1）**
- ❑ **接続／拡張マニュアル（1）**
- ❑ **はじめてのインターネット！（1）**
- ❑ **「DVgate（ディーブイゲート）」取扱説明書（1）**
- ❑ **「Giga Pocket（ギガ　ポケット）」取扱説明書（1）**
- ❑ **「Microsoft®（マイクロソフト） Windows®（ウィンドウズ） 2000 Professional（プロフェッショナル）※」クイックスタートガイド（1）**

  ※以降、Windows 2000と略します。
- ❑ **リカバリ CD-ROM（シーディーロム）パッケージ（1）**

  ご注意

  「Microsoft® Windows® 2000 Professional」クイックスタートガイドとリカバリ CD-ROMは再発行できませんので、大切に保管してください。
- ❑ **「Adobe（アドビ） Premiere（プレミア）」CD-ROM（PCV-RX71Kのみ、1）**
  ユーザー登録はがき（PCV-RX71Kのみ、1）
- ❑ **「Adobe（アドビ） Premiere（プレミア） LE（エルイー）」ユーザー登録はがき（PCV-RX61Kのみ、1）**
- ❑ **「デジタルビデオ編集読本」（CD-ROMつき、1）**

ちょっと一言

- 本機の使いかたについて詳しくは、本機のオンラインマニュアルをご覧ください。使いかたについて詳しくは、「本機のオンラインマニュアルを見るには」（68ページ）をご覧ください。
- 以下のソニー製ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧になるときは、「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアをお使いになるか、「スタート」メニューの「VAIO」の中をご覧ください。使いかたについて詳しくは、「付属ソフトウェアのオンラインマニュアルを見るには」（73ページ）および「「サイバーサポート」ソフトウェアの使いかた」（77ページ）をご覧ください。
  - 「DVDit! LE（ディーブイディーイット エルイー）」ソフトウェア
  - 「DVgate（ディーブイゲート）」ソフトウェア
  - 「Giga Pocket（ギガ　ポケット）」ソフトウェア
  - 「Media Bar（メディア　バー）」ソフトウェア
  - 「MovieShaker（ムービーシェーカー）」ソフトウェア
  - 「Navin' You（ナビン　ユー）」ソフトウェア
  - 「PictureGear（ピクチャーギア）」ソフトウェア
  - 「Smart Capture（スマート　キャプチャー）」ソフトウェア

オンラインマニュアルとは

本機の使いかたやソフトウェアの操作説明などをディスプレイ画面上で読めるようにしたマニュアルのことです。

その他

- ❑ CyberCode（サイバーコード）ラベル（1）
- ❑ VAIOサービス・サポートのご案内（1）
- ❑ VAIOカルテ（1）
- ❑ ソフトウェア使用許諾契約書（1）
- ❑ VAIOカスタマー登録、保証書お申込書（1）
- ❑ その他パンフレット類

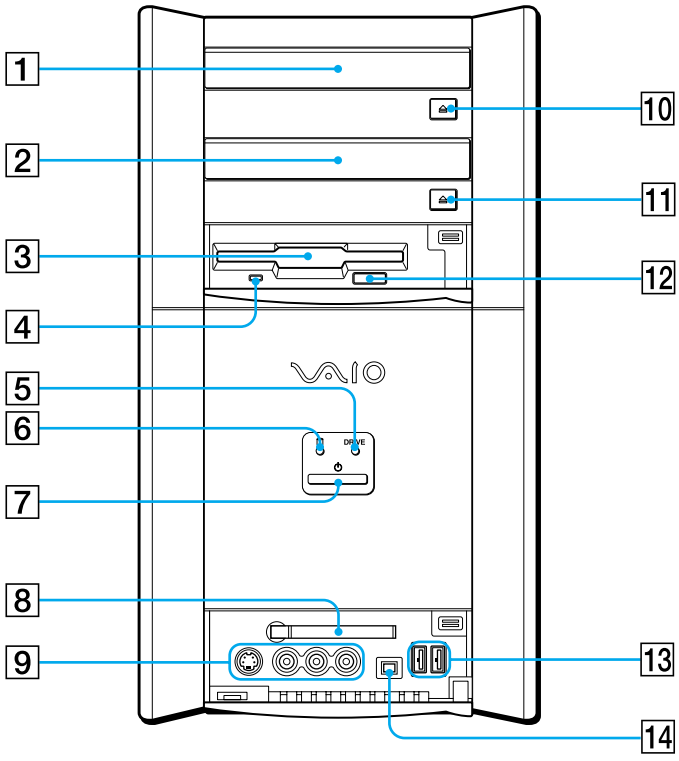
CyberCodeとは

CyberCodeは、ソニー独自の2次元バーコードで、約1,677万通り（24ビット）存在します。このうち、約100万通り（20ビット）のCyberCodeを登録することができます。残りのCyberCodeは、将来のサービス拡張用です。CyberCodeはそれが貼られたものから、対応するコンピュータ上の情報を引き出すためのインデックスの役割をします。

各部のなまえ

ここでは、本機の各部のなまえについて紹介します。各部のなまえと働きについて詳しくは、（　）内のページおよび本機オンラインマニュアルの「各部の説明」をご覧ください。
オンラインマニュアルの見かたについて詳しくは、「本機のオンラインマニュアルを見るには」（68ページ）をご覧ください。

前面



1 DVD-ROMドライブ（120ページ）

2 CD-RWドライブ

3 フロッピーディスクドライブ

4 フロッピーディスクドライブアクセスランプ

5 DVD-ROM／CD-RWドライブアクセスランプ

6 （ハードディスクアクセスランプ）ランプ

7 （電源）ボタンと電源ランプ（47 ページ）

8 PC CARD（PCカード）スロット

9 VIDEO 2 INPUT（映像入力2）コネクタ
S VIDEO（S映像入力）
VIDEO（映像入力）
L/R（音声入力）

10 DVD-ROMイジェクトボタン（120ページ）

11 CD-RWイジェンクトボタン

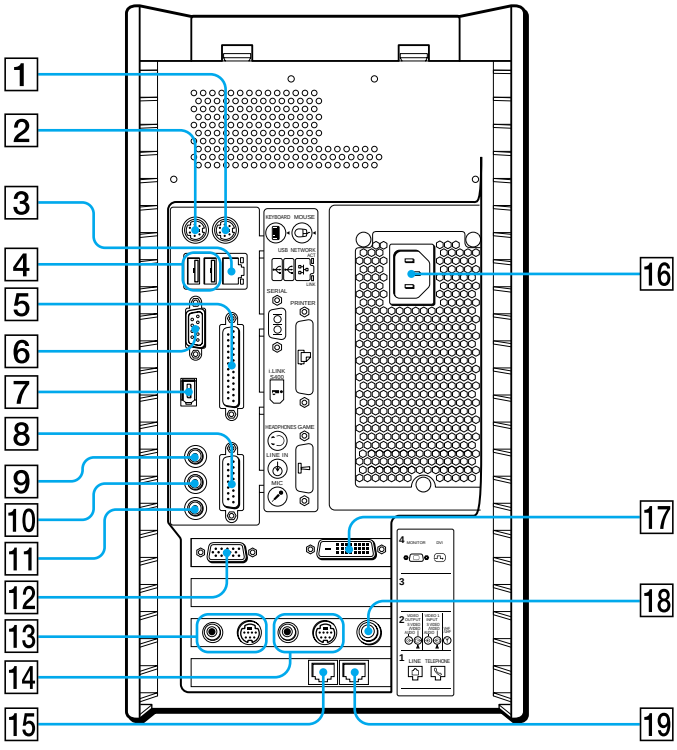
12 フロッピーディスクイジェクトボタン

13 USBコネクタ

14 i.LINK S400コネクタ（4ピン）

後面

PCV-RX71K



1 MOUSE（マウス）コネクタ（39ページ）

2 KEYBOARD（キーボード）コネクタ（39ページ）

3 NETWORK（ネットワーク）コネクタ

4 USBコネクタ（40ページ）

5 PRINTER（プリンタ）コネクタ

6 SERIAL（シリアル）コネクタ

7 i.LINK S400コネクタ（6ピン）

8 GAME（ゲーム）コネクタ

9 HEADPHONES（ヘッドホン）コネクタ（30ページ）

10 LINE IN（ライン入力）コネクタ

11 MIC（マイクロホン）コネクタ（31ページ）

12 MONITOR（モニタ）コネクタ（30ページ）

13 VIDEO OUTPUT（映像出力）コネクタ（38ページ）
- S VIDEO／VIDEO（S映像／映像出力）
- AUDIO（音声出力）

14 VIDEO 1 INPUT（映像入力）コネクタ（38ページ）
- S VIDEO／VIDEO（S映像／映像入力）
- AUDIO（音声入力）

15 LINE（電話回線）ジャック（42ページ）

16 AC INPUT（AC電源入力）プラグ（45ページ）

17 DVIコネクタ（31ページ）

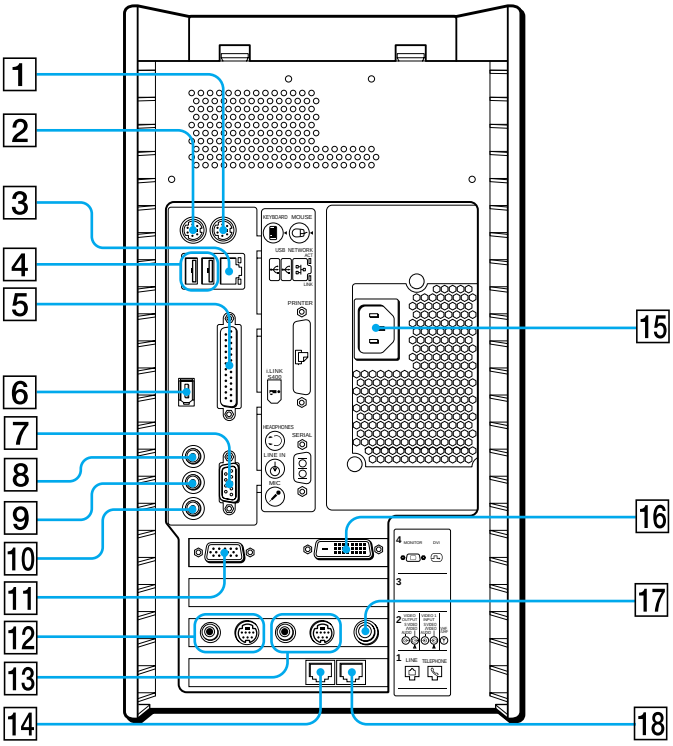
18 VHF／UHF（アンテナ）コネクタ（32ページ）

19 TELEPHONE（電話機）ジャック（41ページ）

次のページへつづく

後面

PCV-RX61K



1 MOUSE（マウス）コネクタ（39ページ）

2 KEYBOARD（キーボード）コネクタ（39ページ）

3 NETWORK（ネットワーク）コネクタ

4 USBコネクタ（40ページ）

5 PRINTER（プリンタ）コネクタ

6 i.LINK S400コネクタ（6ピン）

7 SERIAL（シリアル）コネクタ

8 HEADPHONES（ヘッドホン）コネクタ（30ページ）

9 LINE IN（ライン入力）コネクタ

10 MIC（マイクロホン）コネクタ（31ページ）

11 MONITOR（モニタ）コネクタ（30ページ）

12 VIDEO OUTPUT（映像出力）コネクタ（38ページ）
- S VIDEO／VIDEO（S映像／映像出力）
- AUDIO（音声出力）

13 VIDEO 1 INPUT（映像入力）コネクタ（38ページ）
- S VIDEO／VIDEO（S映像／映像入力）
- AUDIO（音声入力）

14 LINE（電話回線）ジャック（42ページ）

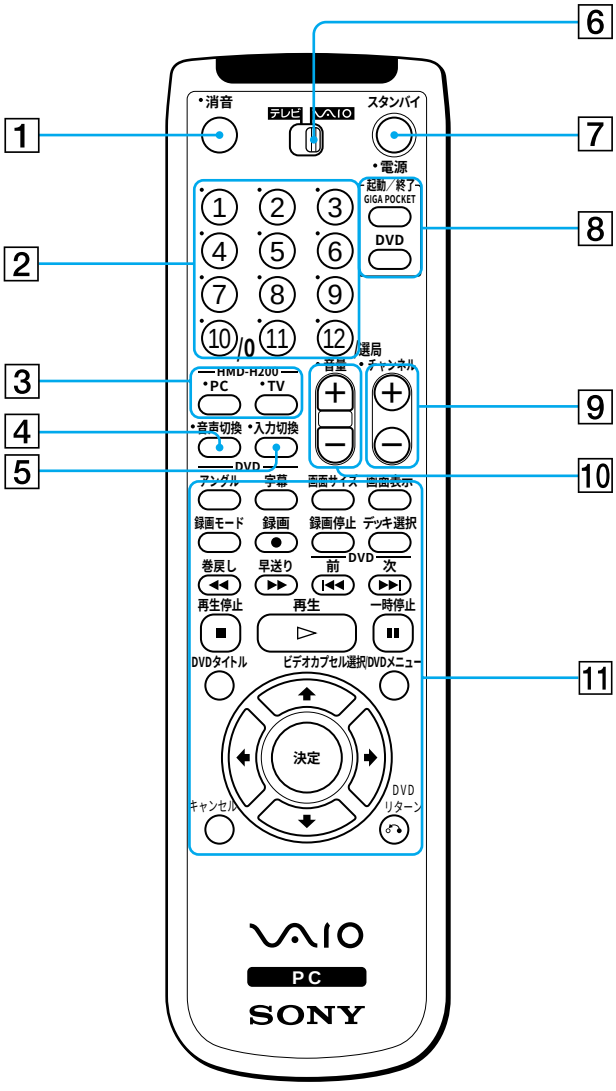
15 AC INPUT（AC電源入力）プラグ（45ページ）

16 DVIコネクタ（31ページ）

17 VHF／UHF（アンテナ）コネクタ（32ページ）

18 TELEPHONE（電話機）ジャック（41ページ）

リモコン



1 **消音ボタン**

2 **チャンネル数字ボタン**

3 HMD-H200 PC／TV**ボタン**

4 **音声切換ボタン**

5 **入力切換ボタン**

6 **テレビ／VAIO切り換えスイッチ**

7 **電源／スタンバイボタン**

8 **「Giga Pocket」ソフトウェア／「DVD Player」ソフトウェア起動／終了ボタン**

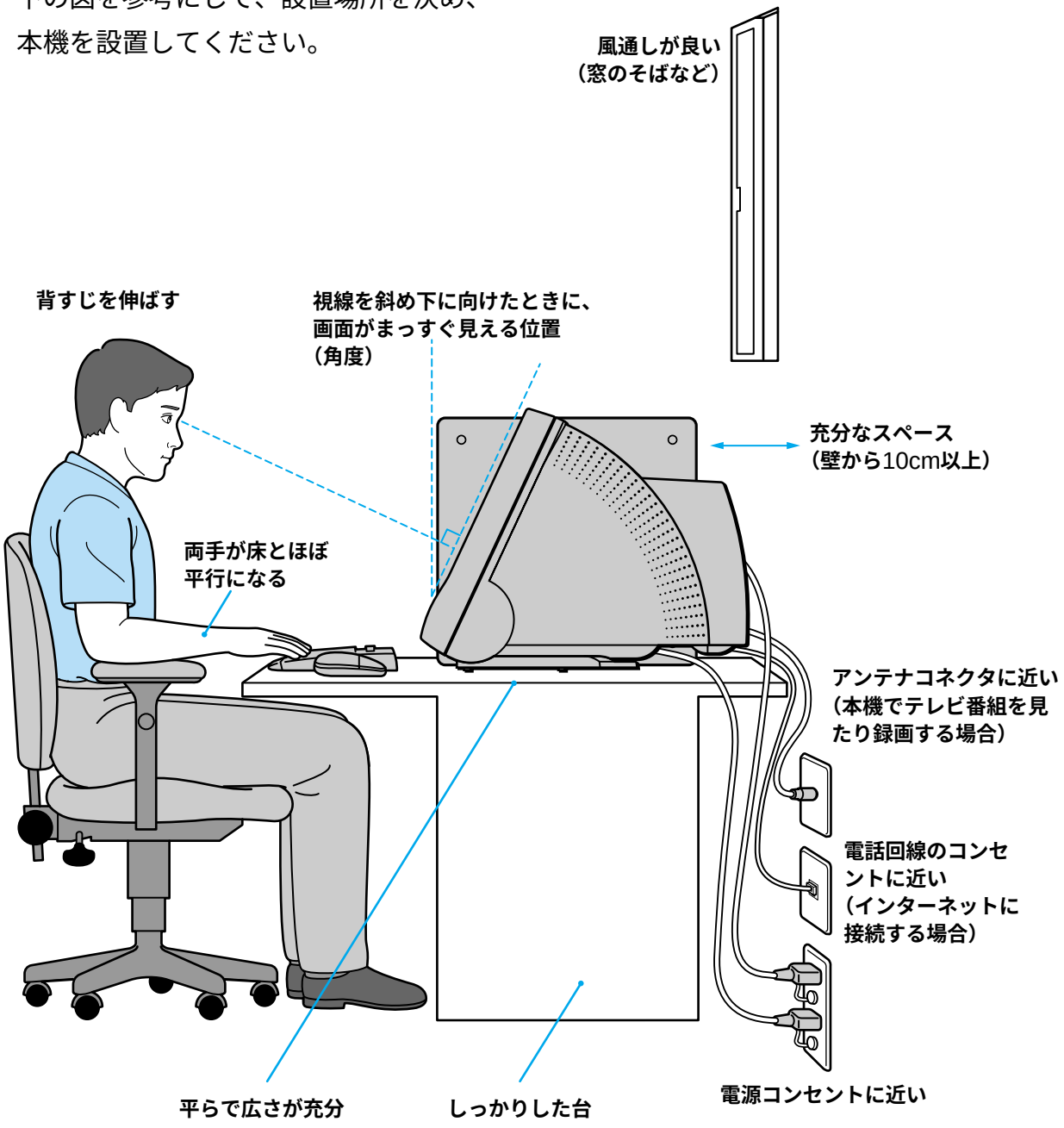
9 **チャンネルボタン**

10 **音量ボタン**

11 **「Giga Pocket」ソフトウェア／DVDボタン**

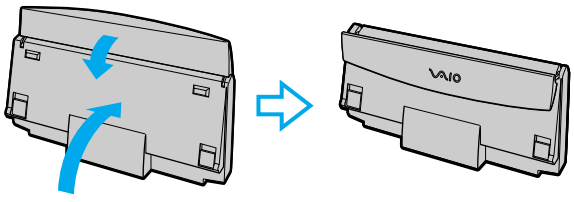
設置する

下の図を参考にして、設置場所を決め、
本機を設置してください。



ちょっと一言

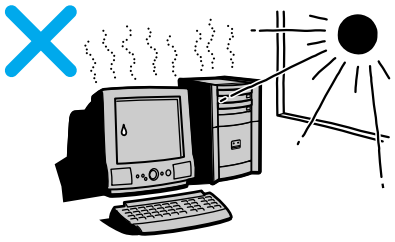
キーボードは立てて置くことができます。
キーボードを立てたときは、パームレストを
キーボードの裏側に折り畳むことができます。
本機を使わないときに場所を取りません。
キーボードにパームレストを取り付けるときは、
「キーボードにパームレストを取り付けるには」（39ページ）をご覧ください。



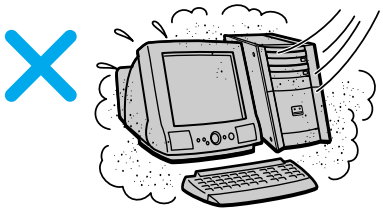
設置に適さない場所

次のような場所には設置しないでください。本機の故障や破損の原因となります。

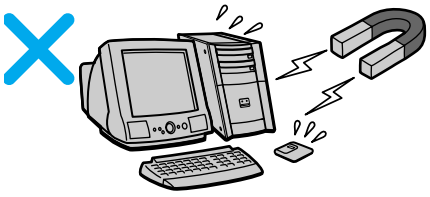
❑ 直射日光が当たる場所



❑ ほこりが多い場所

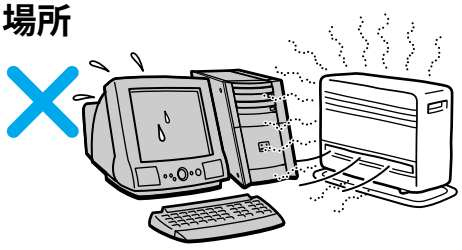


❑ 磁気を発生するものや磁気を帯びているものの近く

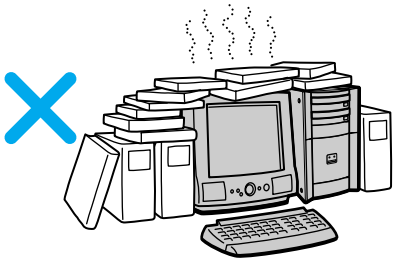


❑ 湿気が多い場所

❑ 暖房器具の近くなど、温度が高い場所

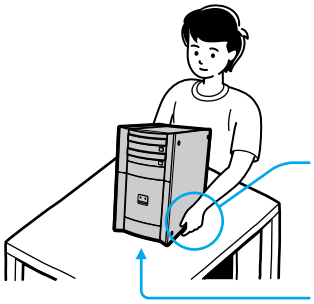


❑ 風通しが悪い場所



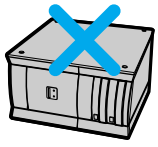
設置時のご注意

次のことをお守りください。



本機を持ち上げるときは、
左右から手を入れて底面を持つ。

本機を置くときは、
衝撃が加わらないように静かに置く。



本機を横置き
にしない。

このほかにも、設置の際の安全上の注意事項が7〜15ページに記載されています。
そちらもあわせてご覧ください。

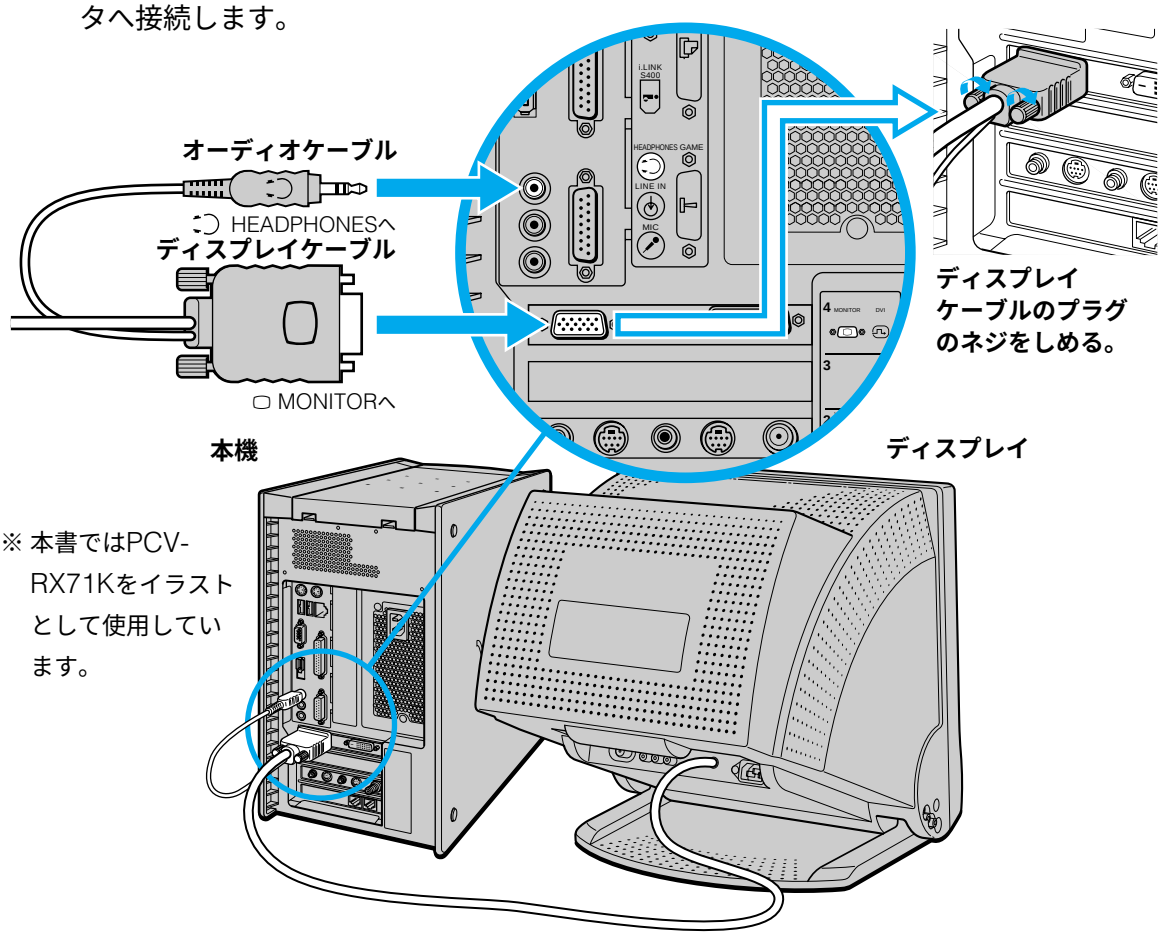
接続する／準備する

以下の手順に従って、ディスプレイ、アンテナ、AV機器、キーボード、マウス、テレホンコード、電源コードを接続し、リモコンを使えるように準備します。

1 ディスプレイを接続する。

ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイ HMD-H200を接続する場合

ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200をお使いになるときは、ディスプレイケーブルのプラグをMONITOR（モニタ）コネクタへ、オーディオケーブルのプラグをHEADPHONES（ヘッドホン）コネクタへ接続します。



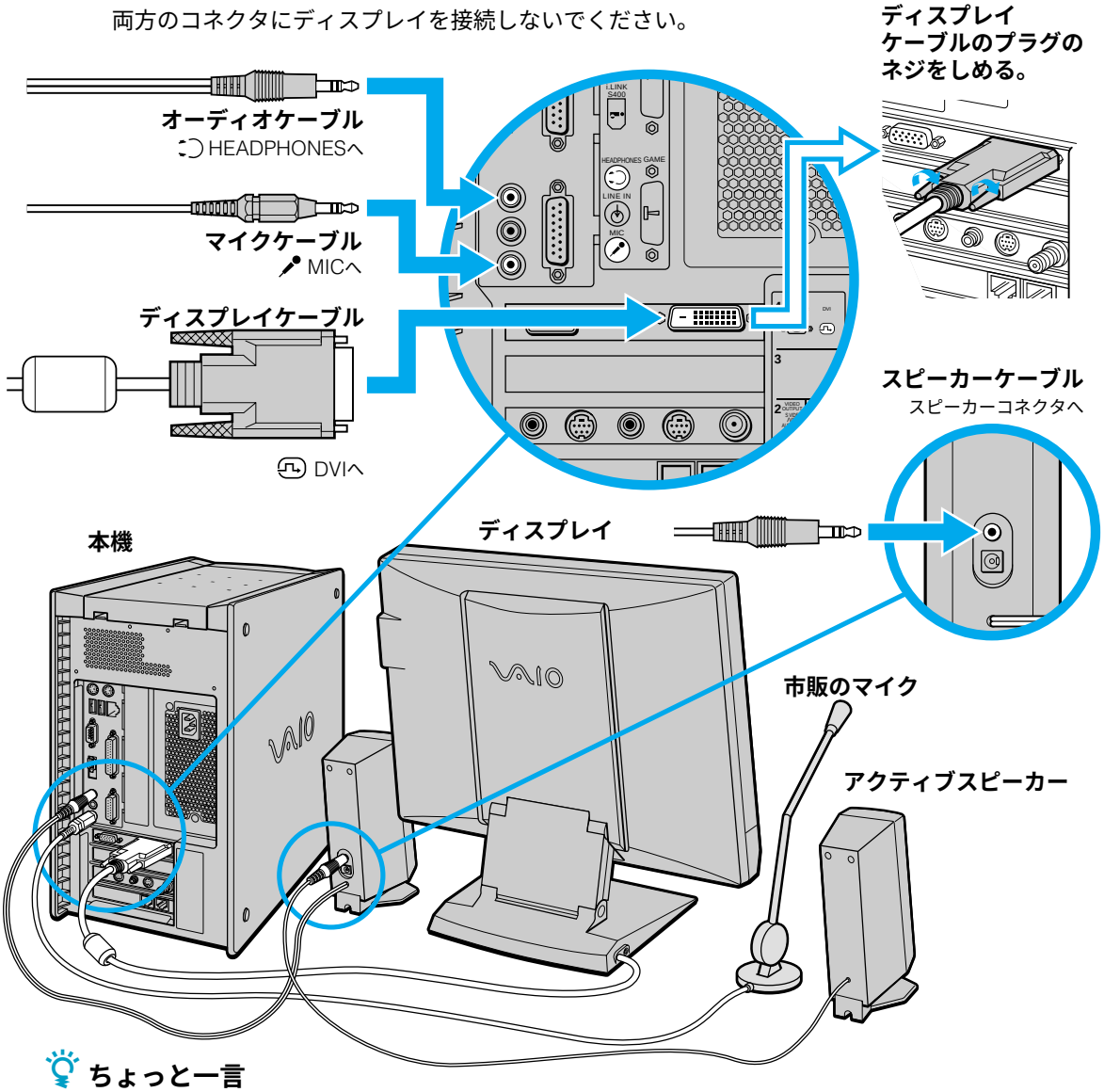
※ 本書ではPCV-RX71Kをイラストとして使用しています。

PCVA-15XD2など、その他のディスプレイを接続する場合

接続ケーブルを使って、ディスプレイ、アクティブスピーカー、マイクを本機に接続します。接続のしかたはディスプレイによって違います。
ディスプレイやマイクに付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- 本機には、MONITOR（モニタ）コネクタとDVI（ディーブイアイ）コネクタの2つのコネクタがあります。接続するコネクタはディスプレイによって違います。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
- MONITOR（モニタ）コネクタまたはDVI（ディーブイアイ）コネクタのいずれかにディスプレイを接続してください。
  両方のコネクタにディスプレイを接続しないでください。



ちょっと一言

ディスプレイは必ず接続してください。この段階では、アクティブスピーカーとマイクは必ずしも接続する必要はありません。

次のページへつづく

2 アンテナを接続する。

本機に付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってテレビを見たり、テレビ番組を録画するときは、付属のアンテナ接続ケーブルを使って壁のアンテナコネクタにつなぎます。また、すでにビデオデッキやテレビをお持ちの場合はそれらを本機につなぐことで、ビデオデッキからの映像を見たり、録画したり、テレビで「Giga Pocket」ソフトウェアで再生する映像を見ることができます。テレビを見たり、テレビ番組を録画／再生する方法については、本機オンラインマニュアルの「バイオを楽しむ」内「テレビを見る」、「テレビ番組を録画する」、「録画したテレビ番組を再生する」および別冊の「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

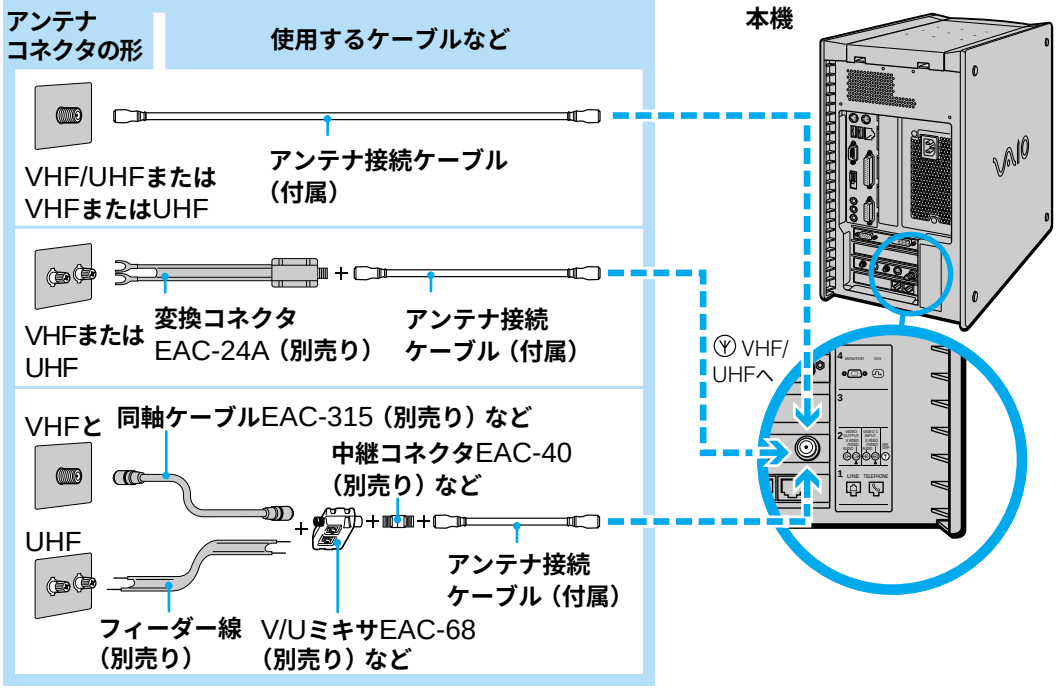
接続のしかたは、以下の場合で異なりますので、ご自分の使用環境に合わせて接続してください。

- 本機とディスプレイのみを壁のアンテナコネクタに接続する場合。
- すでにビデオデッキやテレビが壁のアンテナコネクタに接続されており、本機とディスプレイを新たに接続する場合（36ページをご覧ください）。

本機とディスプレイのみを壁のアンテナコネクタに接続する場合

以下のようにアンテナを接続します。

アンテナのつなぎかたは、壁のアンテナコネクタの形や使用するケーブルによって異なります。下の例から最も近いものを選び、接続してください。なお、いずれにも当てはまらない場合は、販売店にご相談ください。

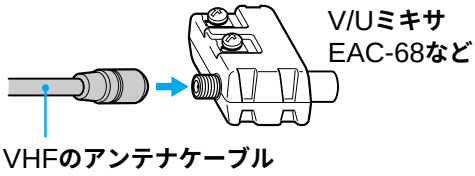


ご注意

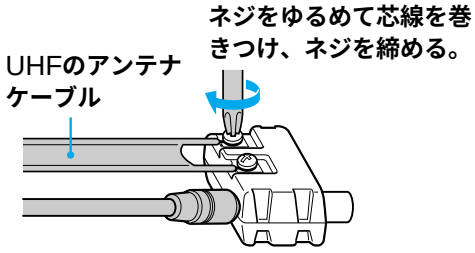
- フィーダー線は同軸ケーブルにくらべ雑音電波などの影響を受けやすく、信号が劣化します。できるだけ同軸ケーブルをご使用ください。
- フィーダー線をご使用になる場合は本機からできるだけ離してください。
- フィーダー線をご使用になる場合は、長くなりすぎないようにご注意ください。

V/Uミキサをつなぐには

(1) VHFのアンテナケーブルをV/Uミキサにつなぐ。



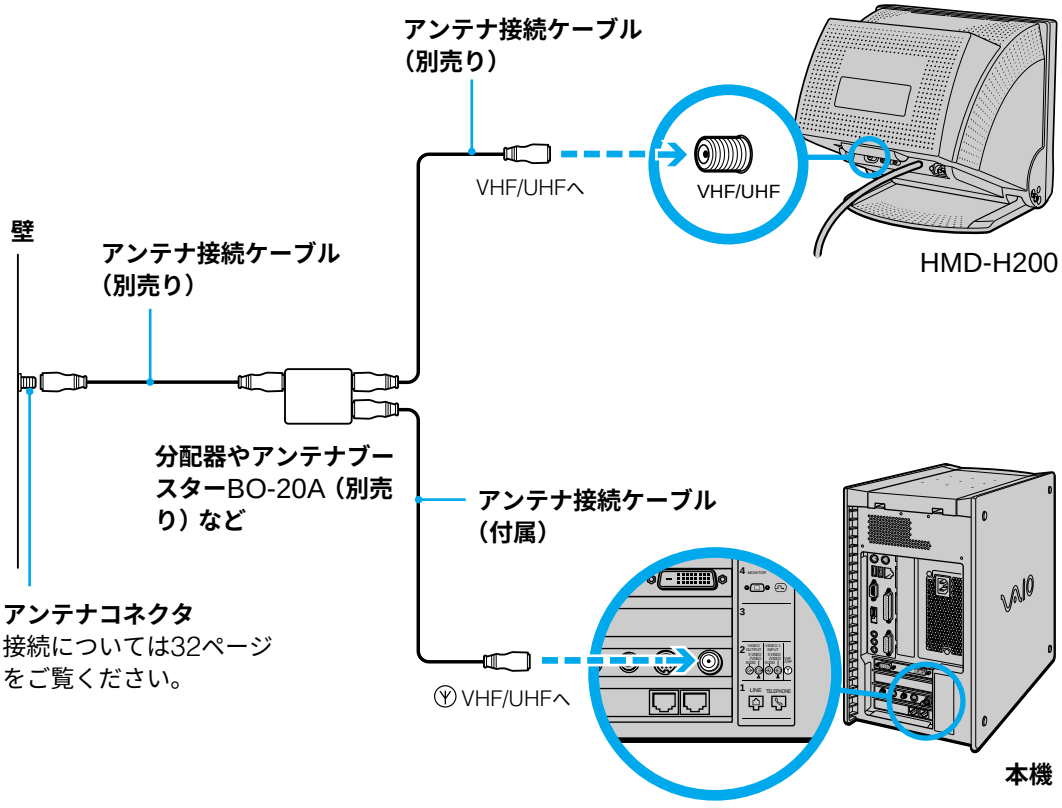
(2) UHFのアンテナケーブルをV/Uミキサにつなぐ。



次のページへつづく

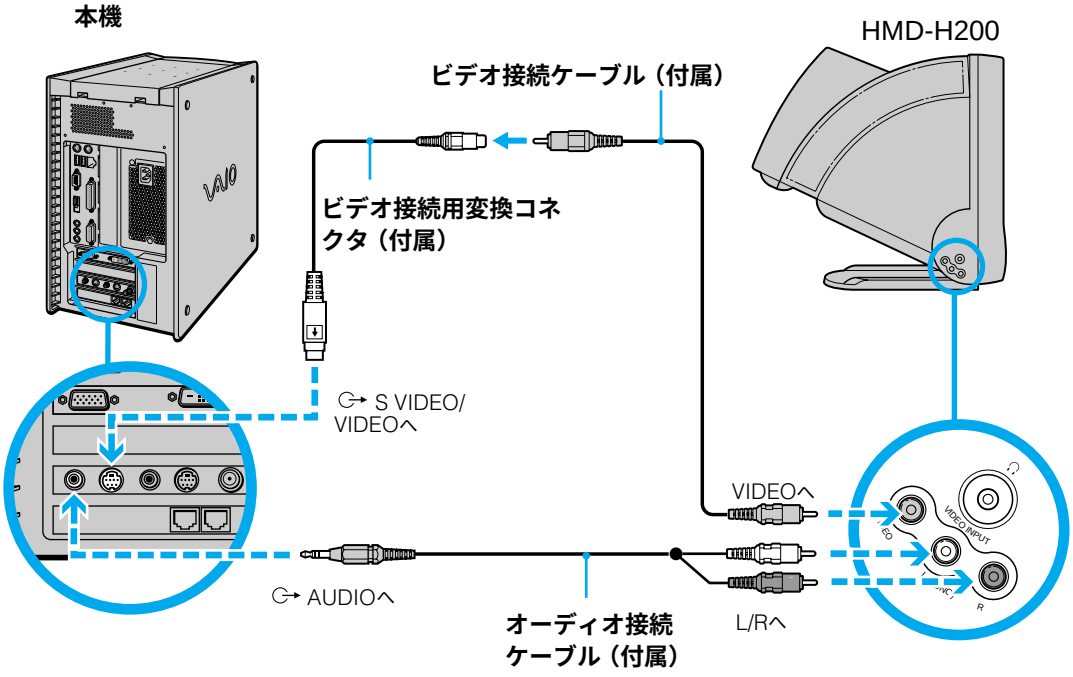
ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200をお使いの場合

別売りの分配器やアンテナブースターBO-20Aなどを使ってアンテナを接続します。壁のアンテナコネクタと分配器やアンテナブースターのつなぎかたは、壁のアンテナコネクタの形や使用するケーブルによって異なります。32ページの例から、最も近いものを選び接続してください。



ちょっと一言

本機で再生する映像をディスプレイでよりよい映像で見たり、ディスプレイに内蔵のスピーカーで音声を聞くときは、以下のように接続します。

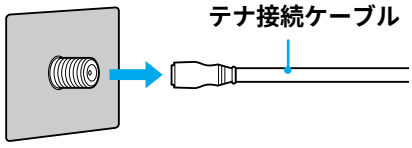


次のページへつづく

すでにビデオデッキやテレビが壁のアンテナコネクタに接続されており、本機とディスプレイを新たに接続する場合

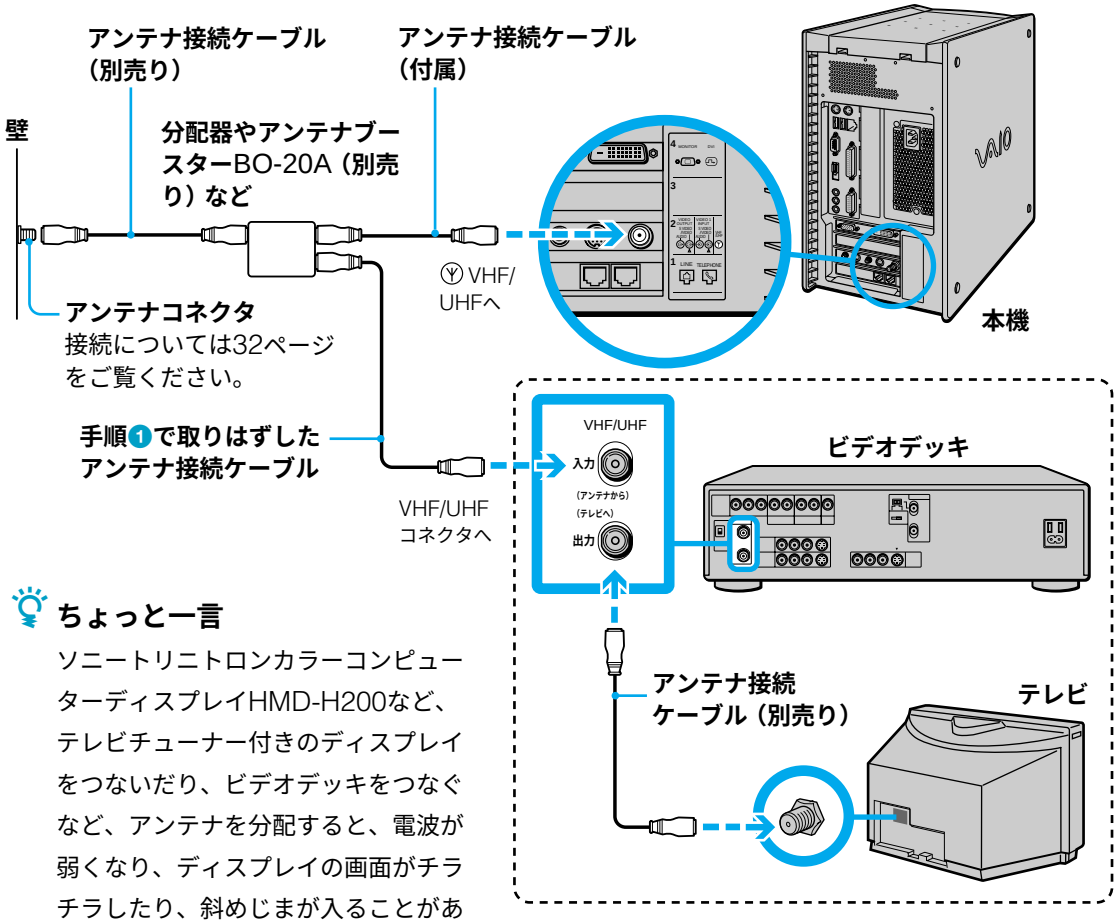
以下のようにアンテナを接続します。

❶ 壁のアンテナコネクタに接続されているビデオデッキやテレビのアンテナ接続ケーブルを取りはずす。



❷ アンテナを接続する。

別売りの分配器やアンテナブースターBO-20Aなどを使ってアンテナを接続します。壁のアンテナコネクタと分配器やアンテナブースターのつなぎかたは、壁のアンテナコネクタの形や使用するケーブルによって異なります。32ページの例から、最も近いものを選び接続してください。



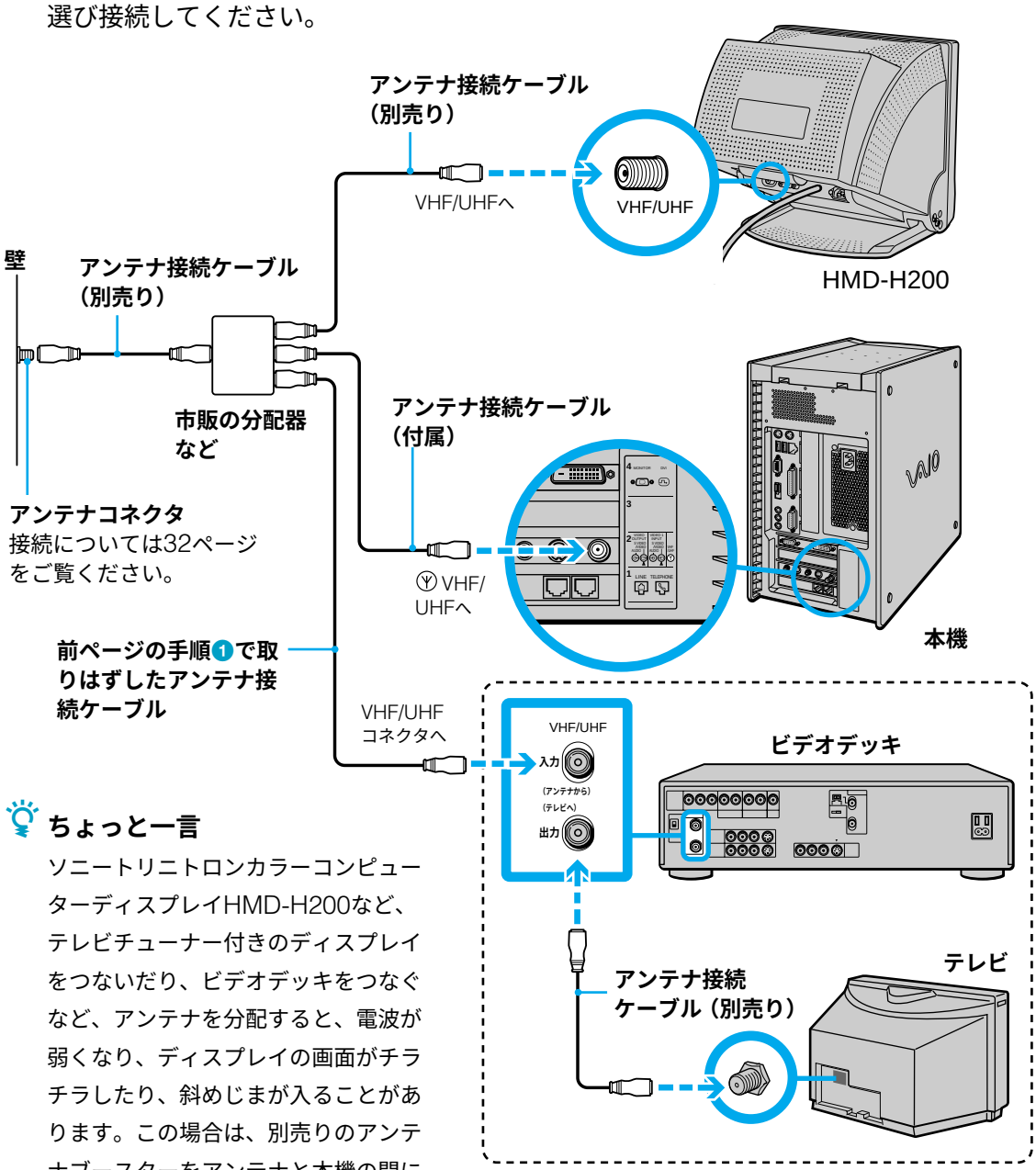
点線内の接続について詳しくは、ビデオデッキまたはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200など、テレビチューナー付きのディスプレイをつないだり、ビデオデッキをつなぐなど、アンテナを分配すると、電波が弱くなり、ディスプレイの画面がチラチラしたり、斜めじまが入ることがあります。この場合は、別売りのアンテナブースターをアンテナと本機の間につないでください。

ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200をお使いの場合

このディスプレイにもアンテナコネクタをつなぐため、アンテナを3つに分配できる分配器が必要です。販売店にご相談ください。
壁のアンテナコネクタと分配器のつなぎかたは、壁のアンテナコネクタの形や使用するケーブルによって異なります。32ページの例から、最も近いものを選び接続してください。



点線内の接続について詳しくは、ビデオデッキまたはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

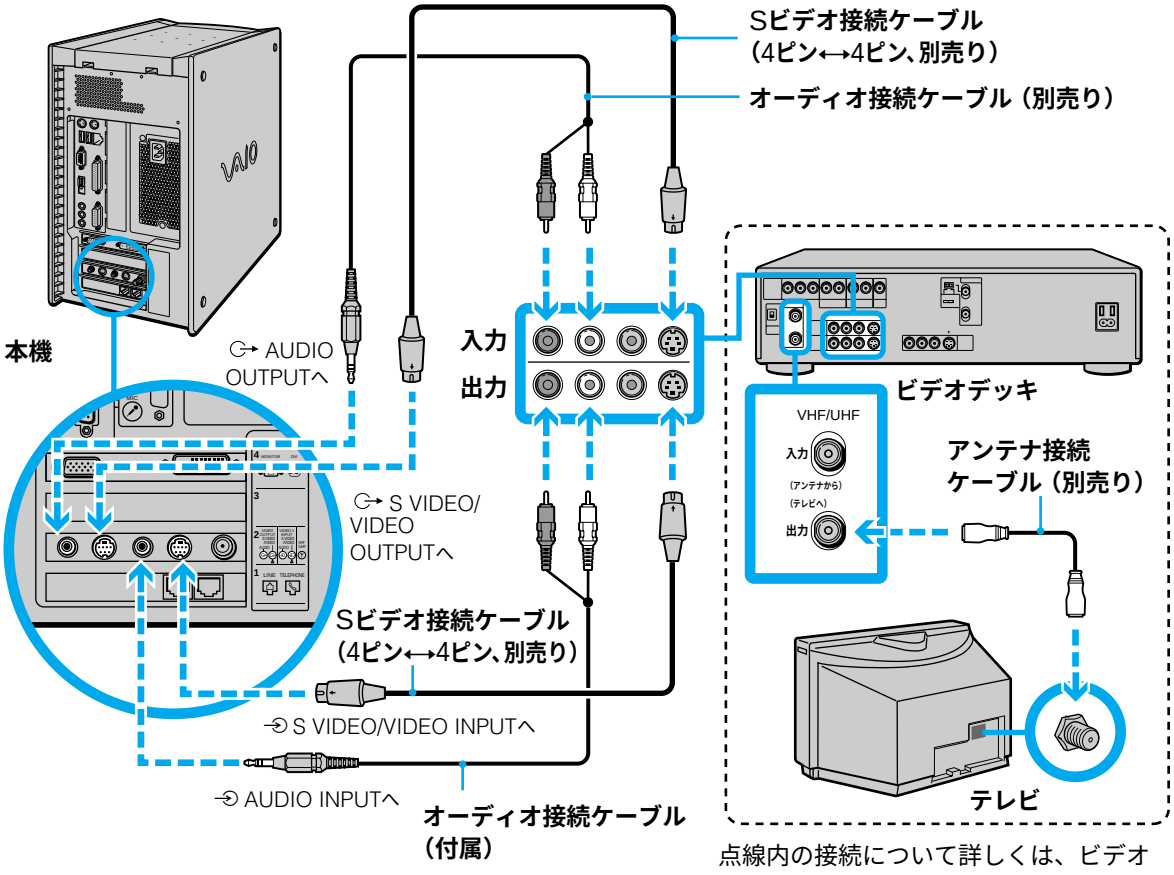
ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200など、テレビチューナー付きのディスプレイをつないだり、ビデオデッキをつなぐなど、アンテナを分配すると、電波が弱くなり、ディスプレイの画面がチラチラしたり、斜めじまが入ることがあります。この場合は、別売りのアンテナブースターをアンテナと本機の間につないでください。

次のページへつづく

3 本機とビデオデッキを接続する。

本機とビデオデッキの映像／音声の入出力コネクタ同士をつなぐと、以下のことができるようになります。

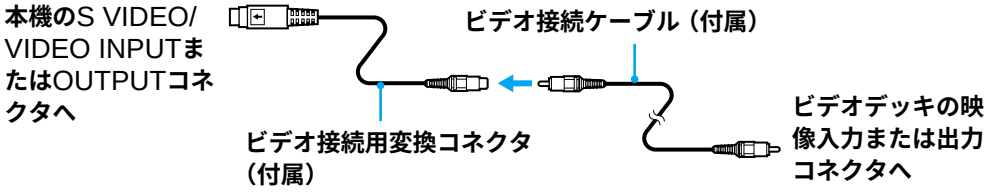
- ビデオデッキで再生する映像を本機につないだディスプレイで見る。
- ビデオデッキで再生する映像を本機に録画する。
- 本機に付属の「Giga Pocket」ソフトウェアで再生する映像を、ビデオデッキに録画したり、テレビで見る。



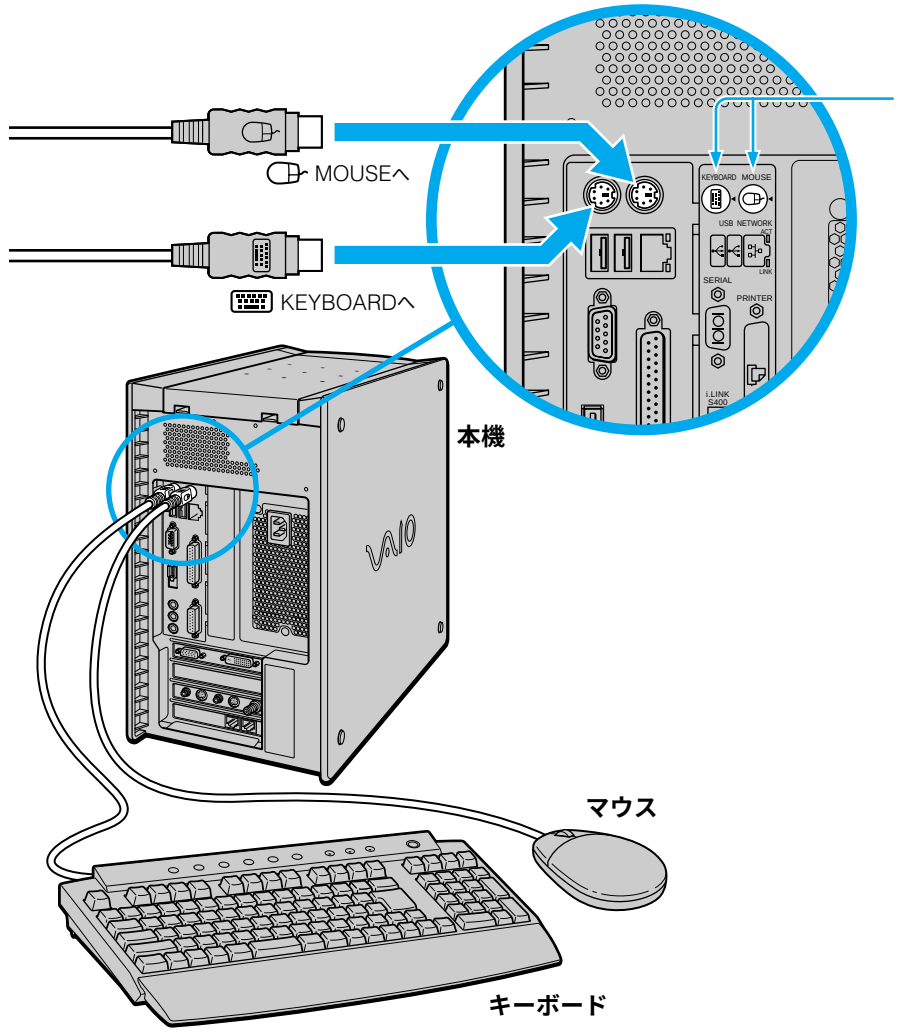
点線内の接続について詳しくは、ビデオデッキまたはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

S映像入力／出力コネクタのないビデオデッキをつなぐときは、Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ（付属）とビデオ接続ケーブル（付属）をつないで使うことができます。



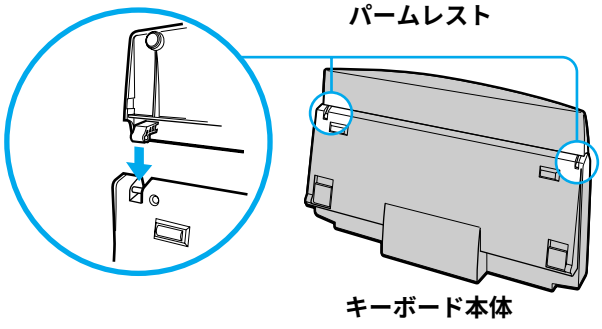
4 キーボードとマウスを接続する。



キーボードにパームレストを取り付けるには

パームレストをキーボードに取り付けると、キーボードを使うとき、手首に負担がかからなくなります。

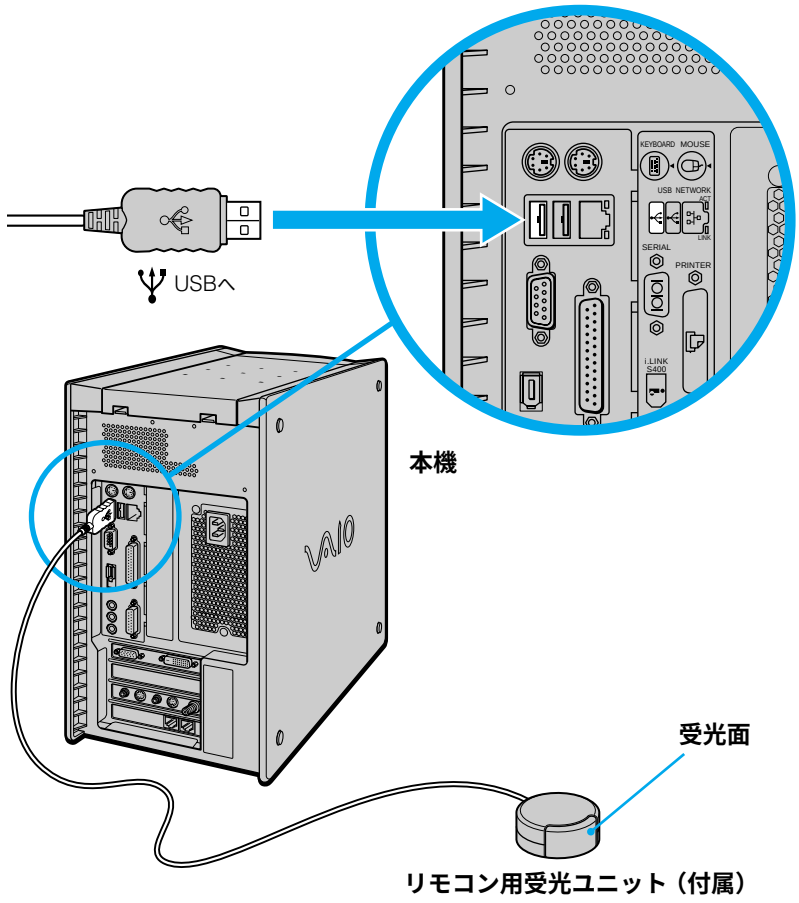
キーボードを立て、パームレストの左右にあるツメをキーボードの左右にある切り込みにカチッと音がするまで差し込みます。



次のページへつづく

5 リモコン用受光ユニットを接続する。

付属のリモコン用受光ユニットを本機のUSB（ユーエスビー）コネクタに接続します。



ご注意

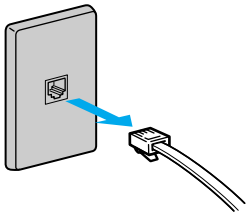
- リモコン用受光ユニットは、本機および付属のリモコン専用です。他の機器ではお使いになれません。
- リモコン用受光ユニットを設置するときは、以下の点にご注意ください。
  ー受光面をリモコンの信号が受けやすい方向に向けてください。
  ー受光ユニットの受光面とリモコンの発光部の間に障害物がない場所に設置してください。

ちょっと一言

- リモコン用受光ユニットをつなぐと、付属のリモコンを使って、付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを操作できるようになります。
- リモコン用受光ユニットを本機やディスプレイの上など安定しない場所に設置するときは、付属のマジックテープを貼ると受光ユニットの滑り落ちを防げます。マジックテープを受光ユニットの底面と受光ユニットを設置する場所に貼ります。

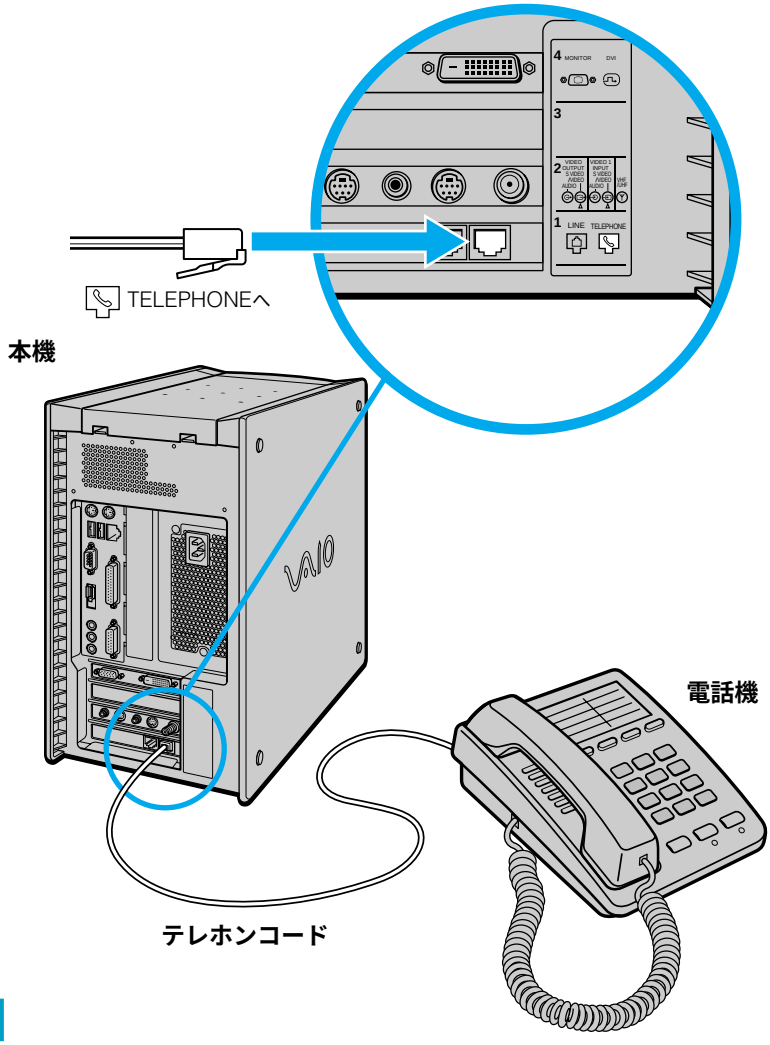
6 電話回線に接続する。

インターネットに接続するなどデータ通信をするときは、付属のテレホンコードを使って本機を電話回線につなぎます。
インターネットへの接続について詳しくは、「カスタマー登録する／インターネットに接続する」(79ページ) および別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。



1 お使いの電話機のテレホンコードを電話回線のモジュラジャックからはずす。

2 1ではずしたテレホンコードを本機のTELEPHONE（電話機）ジャックにカチッと音がするまで差し込む。

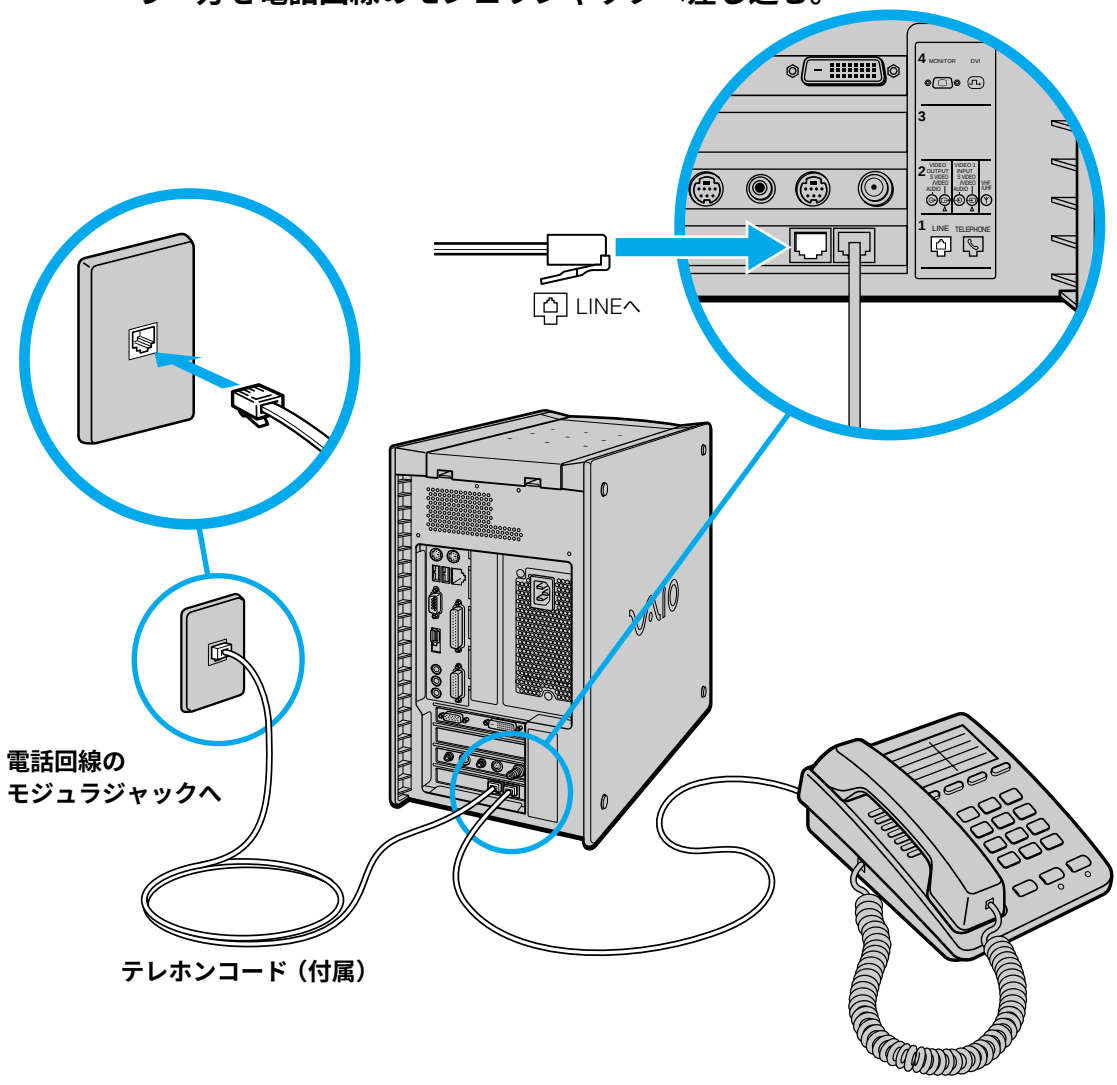


ご注意

テレホンコードは本機後面のNETWORK（ネットワーク）コネクタに接続しないでください。

次のページへつづく

3 付属のテレホンコードの一方を本機のLINE（電話回線）ジャックへ、もう一方を電話回線のモジュラジャックへ差し込む。



ちょっと一言

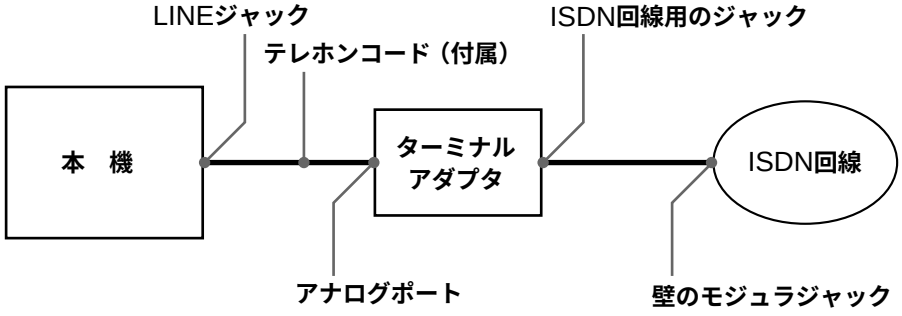
電話回線のコンセントの形状が付属のテレホンコードに合わないときは交換工事や取り付け工事が必要な場合があります。詳しくは、本機オンラインマニュアルの「VAIO Inform@tion」内「知っ得情報」の「電話回線のコンセントの種類」をご覧ください。

ISDN回線につなぐときは

「ISDN回線」とはNTTのデジタル通信網を使った電話回線で、通信速度も速く、1回線で従来の2回線が使えます。ISDN回線を使って本機を使用するためには、付属のテレホンコードの他に「ターミナルアダプタ」というコンピュータや従来の一般電話回線対応の通信機器、電話機をつなぐためのISDN回線用の機器が必要です。

オンラインカスタマー登録やインターネットの接続会社と契約するには

オンラインカスタマー登録したり（80ページ）、電話回線を通じてインターネットの接続会社と契約する（85ページ）ときは、下図のように本機をターミナルアダプタのアナログポートに接続します。接続について詳しくは、ターミナルアダプタの取扱説明書をご覧ください。



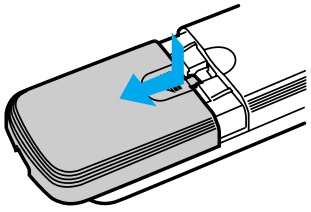
インターネットに接続してホームページを見たり、電子メールをやりとりするには

オンラインカスタマー登録やインターネットの接続会社との契約が終了し、実際にインターネットに接続してホームページを見たり、電子メールをやりとりするときは、本機のSERIALコネクタまたは、USBコネクタとターミナルアダプタのデジタルポートをつないでください。接続について詳しくは、ターミナルアダプタの取扱説明書をご覧ください。

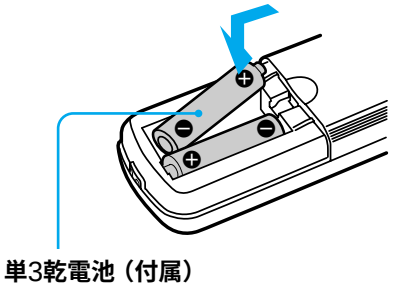
次のページへつづく

7 リモコンを準備する。

1. リモコンを裏返す。
2. リモコン裏面の乾電池入れのふたを開ける。



3. ⊕と⊖の方向を確かめて、付属の単3乾電池を2本入れる。



ご注意

乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破損のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。

- ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
- 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池は充電しないでください。
- 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
- 乾電池が液もれしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

4. 乾電池入れのふたを閉める。

ちょっと一言

電池の交換時期は約6か月です。リモコン操作できる距離が短くなったら、2本とも新しい乾電池に交換してください。

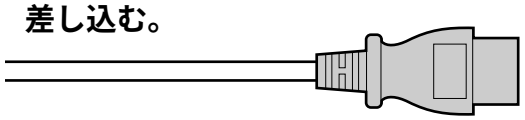
8 電源コードを接続する。

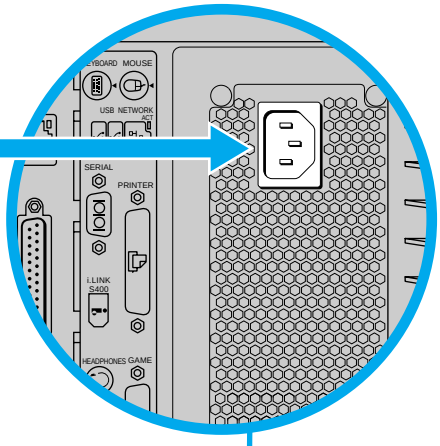
本機とディスプレイを電源コンセントに接続します。
アクティブスピーカーをお使いの場合はアクティブスピーカーも電源コンセントに接続します。

ご注意

- **同じコンセントに複数の機器を同時につながないでください。**
- **本機は日本国内専用です。交流100Vでお使いください。**

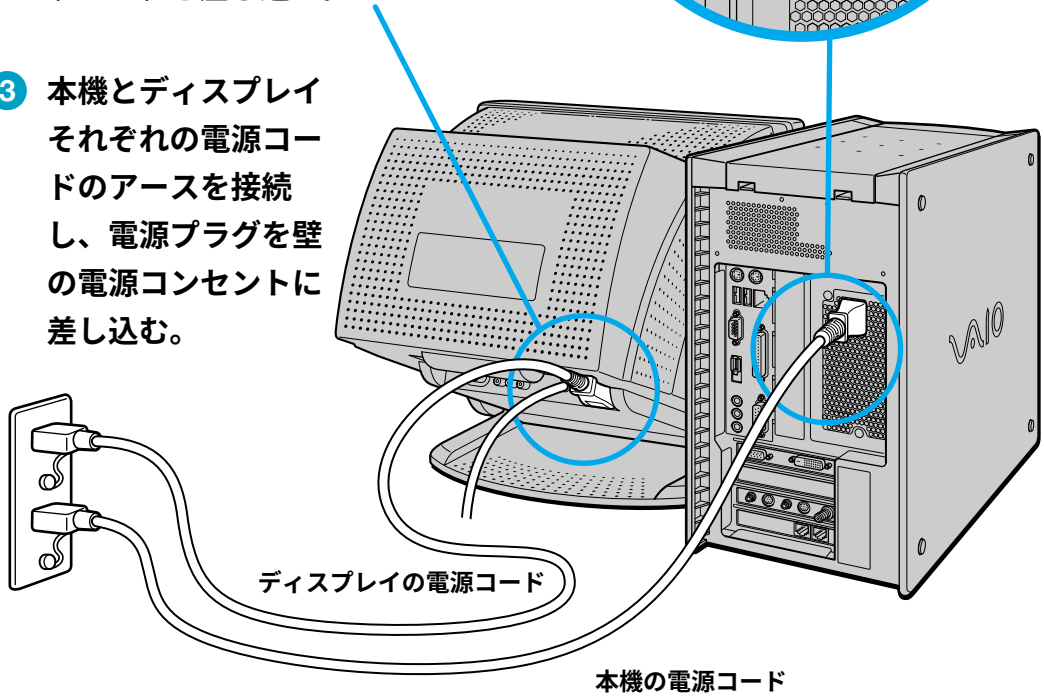
1 付属の電源コードのプラグ（3ピン）を差し込む。





2 ディスプレイの電源コードのプラグ（3ピン）を差し込む。

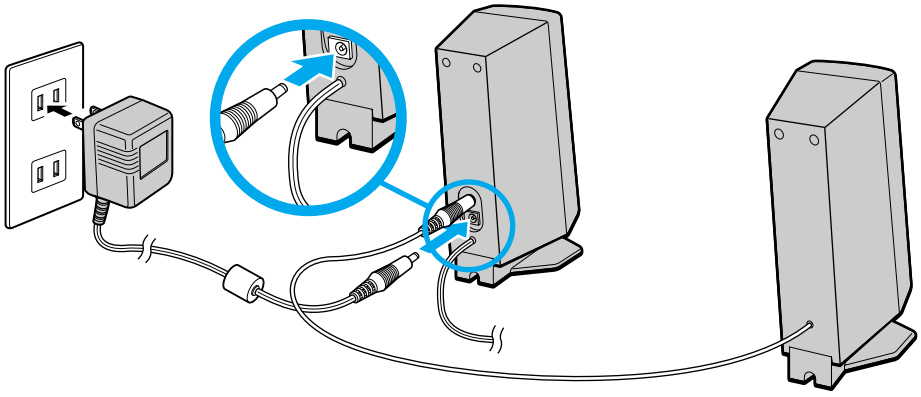
3 本機とディスプレイそれぞれの電源コードのアースを接続し、電源プラグを壁の電源コンセントに差し込む。



次のページへつづく

アクティブスピーカーをお使いの場合は

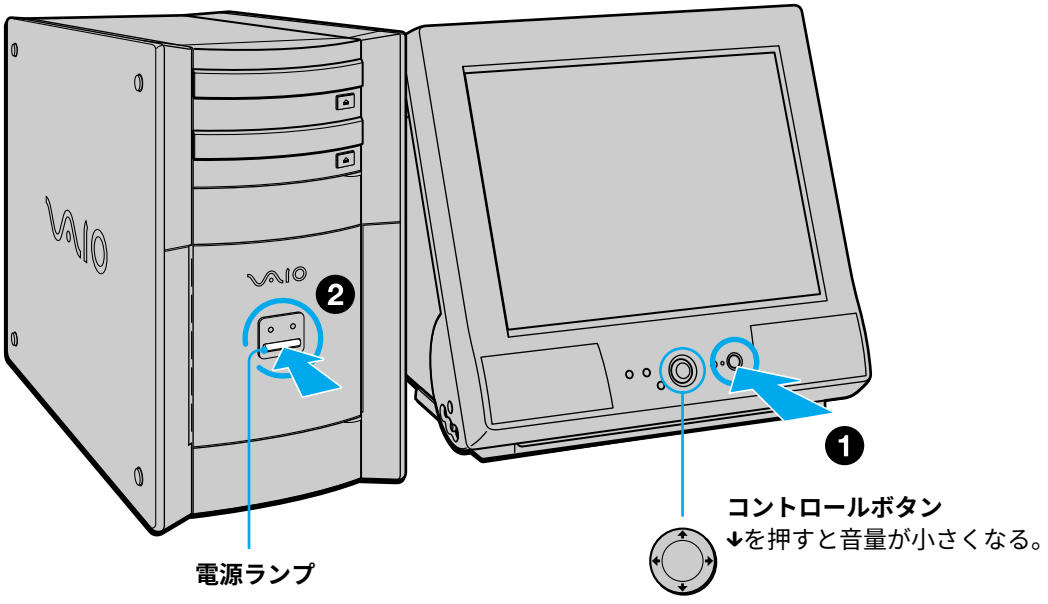
アクティブスピーカーに付属のスピーカー用ACアダプタのプラグをアクティブスピーカーに差し込み、電源プラグを壁の電源コンセントに差し込みます。



電源を入れる

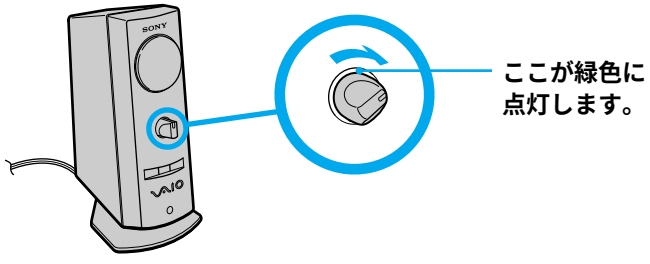
本機とディスプレイの電源を入れる。

1. **ディスプレイの電源スイッチを押す。**
2. **本機の ⏻（電源）ボタンを押す。**
   電源が入ると、電源ランプが青色に点灯します。



アクティブスピーカーを接続している場合は

アクティブスピーカーを接続している場合は、手順1でディスプレイの電源を入れた後にアクティブスピーカーの電源も入れてください。
アクティブスピーカーの電源を入れるには、電源スイッチを右にまわします。電源が入ると、スイッチの周囲が緑色に点灯します。



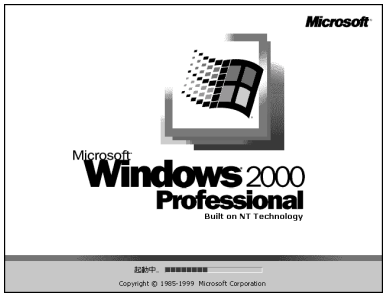
ちょっと一言

アクティブスピーカーを接続している場合は、スピーカーの音量が小さくなっているか確認してください。Windows 2000の準備（49ページ）が終わると、音が鳴るようになっています。突然大きな音がしないように、スピーカーの音量を小さくしておきましょう。
ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200をお使いのときは、ディスプレイのコントロールボタンで調整します。アクティブスピーカーを接続している場合は、スピーカーの音量つまみで調整します。

次のページへつづく

電源を入れる（つづき）

Windows 2000の画面が表示され、しばらくすると、「Windows 2000 セットアップ ウィザードの開始」画面が表示されます。



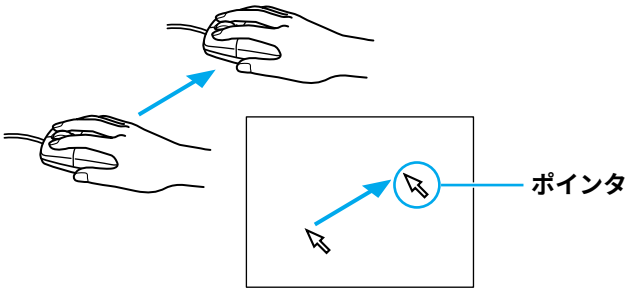
Windows 2000を準備する

本機をお使いいただく前に、最初のステップとしてWindows 2000を使うための準備が必要です。Windows 2000が使える状態になると、本機に付属のソフトウェアやいろいろな機能も使えるようになります。
以下の手順に従って、Windows 2000を使う準備をします。

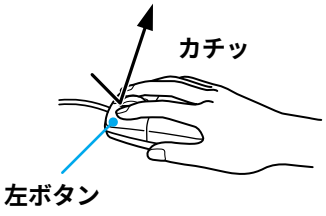
1 次へ(N)> をクリックする。

マウスを動かして「Windows 2000 セットアップ ウィザードの開始」画面右下の 次へ(N)> の上まで（ポインタ）を移動し、マウスの左ボタンをカチッと1回押し、すぐ離します。
これを「クリックする」と言います。
「ライセンス契約」画面が表示されます。

マウスを動かして...



マウスの左ボタンをカチッと1回押し、すぐ離す。



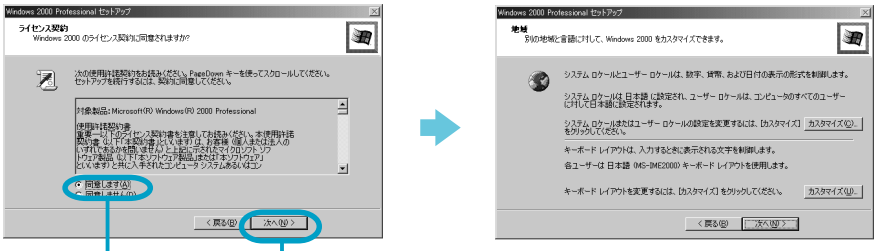
ちょっと一言

- マウスは机の上など平らな場所に置き、滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて画面上の（ポインタ）が同じように動きます。マウスを動かしていて机の端まで行ってしまったら、マウスを持ち上げて元の位置に戻して動かします。
- マウスの使いかたについて詳しくは、「マウスの使いかた」（60ページ）および本機オンラインマニュアルの「基本的な使いかた」内「マウスを使う」をご覧ください。

次のページへつづく

2 画面に現れた内容を読み、内容に同意するときは［同意します］の ◯ をクリックして ◉ にし、［次へ(N) >］をクリックする。

「地域」画面が表示されます。



❶ ここをクリックして、◯ を ◉ にする。

❷ ここをクリックする。

ご注意

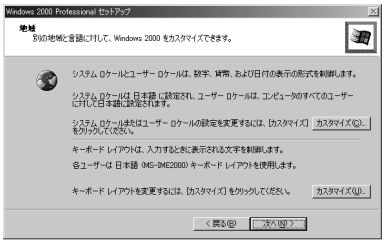
［同意しません］の ◯ をクリックすると、Windows 2000の準備作業は中止され、Windows 2000と本機に入っているソフトウェアはお使いになれません。

3 画面に表示される言語、日付や時刻の表示形式などを設定する。

この画面では本機のディスプレイに複数の言語を表示したり、入力できるように設定することができます。

日本語でのみ表示させる場合は、設定を変更する必要はありません。

日本語以外の言語を表示させる場合は、上段の［カスタマイズ(U)...］をクリックして設定を変更します。

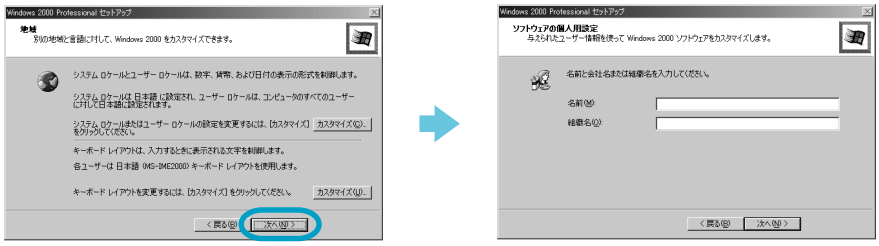


ロケールとは

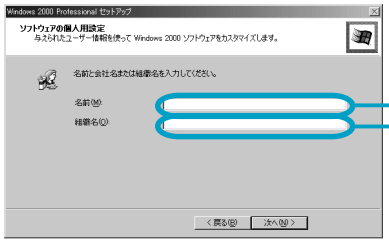
「ロケール」とは、国や地域の言語や通貨単位、日付や時刻などの情報のことです。

4 次へ(N)> をクリックする。

「ソフトウェアの個人用設定」画面が表示されます。



5 ご自分のお名前と、必要な場合は組織名を入力する。



ここに名前を入力する。
必要な場合は、ここに組織名を入力する。

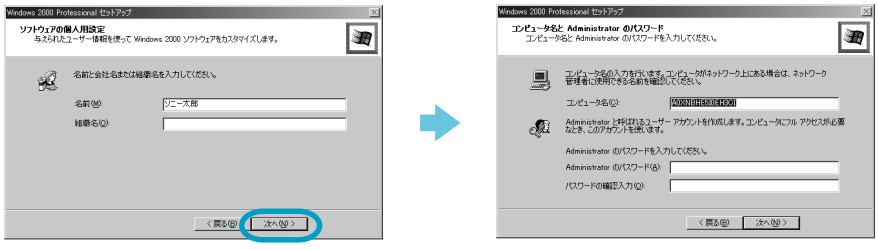
組織名を入力するときは、Tab（タブ）キーを押して、「組織名」の入力欄に移ってから、文字を入力します。

ご注意

例では「ソニー太郎」という名前を入力していますが、実際の入力は必ずご自分のお名前を入れてください。

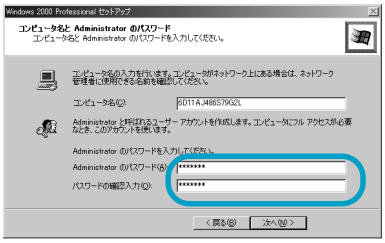
6 次へ(N)> をクリックする。

「コンピュータ名と Administrator のパスワード」画面が表示されます。



次のページへつづく

7 「Administratorのパスワード」にパスワードを入力し、確認のため「パスワードの確認入力」にも同じパスワードを入力する。



ご注意

- ネットワークに接続しない場合は、「コンピュータ名」の項目に入力する必要はありません。
- ご自分のパスワードが他人に知られることがないようにご注意ください。パスワードはできるだけ紙に書き留めず、記憶しておくことをおすすめします。
- 次回本機の電源を入れるときに、この画面で入力したパスワードを入力する必要があります。パスワードを忘れないように充分ご注意ください。

ちょっと一言

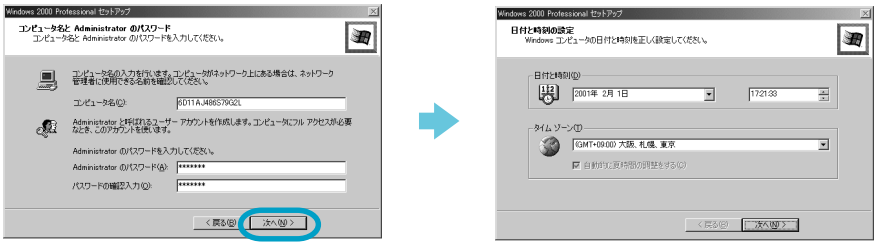
- 入力されたパスワードは文字のかわりに「＊」で表示されます。
- この画面で入力したパスワードでWindows 2000を起動すると、ユーザーアカウントの作成などができます。Windows 2000の機能について詳しくは、別冊の「Microsoft Windows 2000 Professional」クイックスタートガイドをご覧ください。

Administratorとは

「アドミニストレーター」と読みます。Administratorは、ハードウェアやソフトウェアの設定を変更できる管理者権限（Administrators）のある、あらかじめ用意されたユーザー名です。

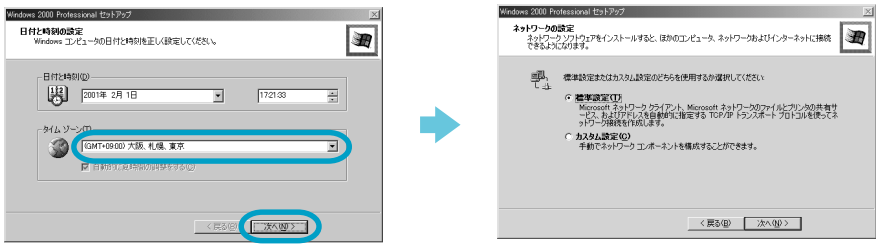
8 次へ(N) > をクリックする。

「日付と時刻の設定」画面が表示されます。



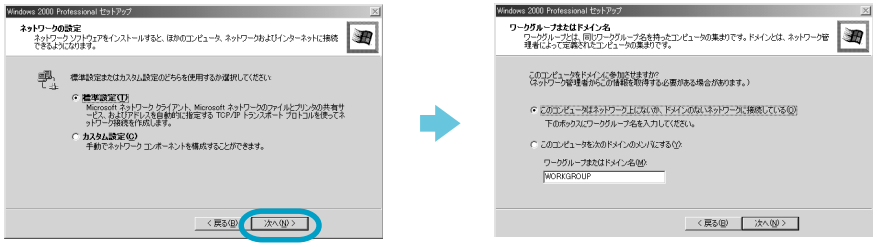
9 日付と時刻およびタイムゾーンを確認し、次へ(N)> をクリックする。

「ネットワークの設定」画面が表示されます。



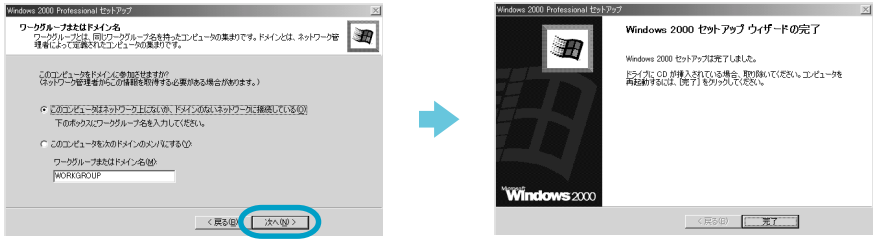
10 次へ(N)> をクリックする。

「ワークグループまたはドメイン名」画面が表示されます。
手動で設定するときは［カスタム設定］の ◯ をクリックして ◉ にしてから 次へ(N)> をクリックしてください。



11 次へ(N)> をクリックする。

自動的に設定が行われ、「Windwos 2000 セットアップ ウィザードの完了」画面が表示されます。
ワークグループの一員ならば「ワークグループまたはドメイン名」の入入欄にワークグループ名を入れてください。



次のページへつづく

12 完了 をクリックする。

本機が自動的に再起動し、「ネットワーク識別ウィザードの開始」画面が表示されます。

13 次へ(N)> をクリックする。

「このコンピュータのユーザー」画面が表示されます。

14 ログオン時のオプションを選択し、次へ(N)> をクリックする。

「ネットワーク識別ウィザードの終了」画面が表示されます。

ちょっと一言

「ユーザーはこのコンピュータを使用するとき、ユーザー名とパスワードを入力する必要がある」を選択した場合、電源を入れると、管理者権限（Administrators）のユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されてからWindows 2000が起動します。
セキュリティ確保のためにパスワードを設定しておくことをおすすめします。
また、パスワードは忘れないように充分ご注意ください。
「常に次のユーザーがこのコンピュータにログオンすると仮定する」を選択した場合、電源を入れると、あらかじめ設定したユーザーのユーザー名とパスワードで自動的にWindows 2000が起動します。
「Giga Pocket」ソフトウェアを使って予約録画を行うときなど、本機の電源が切れた状態から自動的にWindows 2000を起動させる必要があるときは、「常に次のユーザーがこのコンピュータにログオンすると仮定する」を選択してください。

15 完了 をクリックする。

これで「こんなことができます」（16ページ）で紹介した機能が使えるようになりました。

ご注意

本機に付属のリカバリ CD-ROMに入っている OS（Operating System）以外をインストールした場合の動作保証はいたしかねます。

OS（Operating System）とは

コンピュータを動かすために必要な基本ソフトウェアのことです。画面表示や操作方法などもOSによって決められています。OSがないと他のソフトウェアも使えません。本機のOSはWindows 2000です。

コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。コンピュータウイルスに侵入されると、意味不明なメッセージがディスプレイ画面上に表示されたり、ファイルが勝手に消去されたりしてしまいます。コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

このコンピュータウイルスを検査／除去するソフトウェアとして、本機には「VirusScan」が付属しています。本機をコンピュータウイルスから守るため、定期的なウイルスチェックをおすすめします。なお、本機には「VirusScan」ソフトウェアはあらかじめインストールされておりません。「コンピュータウイルスについて」（112ページ）の中の手順に従って「VirusScan」ソフトウェアをインストールしてください。

電源を切る

本機を使う準備が終わったところで、いったん電源を切ってみます。

ご注意

⏻（電源）ボタンを押して電源を切らないでください。必ず次の手順に従って電源を切ってください。手順に従って電源を切らないと、故障の原因になることがあります。

1 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックし、表示されるメニューの［シャットダウン］をクリックする。

「Windows のシャットダウン」の画面が表示されます。

2 ▼をクリックして、一覧の中から「シャットダウン」を選び、［OK］をクリックする。

「Windowsをシャットダウンしています」が表示されてからしばらくすると、自動的に本機の電源が切れて、本機の電源ランプが消えます。

ちょっと一言

ソニー製のコンピュータディスプレイをお使いのときは、手順2で本機の電源が切れたあと、自動的にディスプレイが節電モードに入ります。

3 ディスプレイの電源スイッチを押す。

ディスプレイの電源が切れます。アクティブスピーカーをお使いの場合は、ここでアクティブスピーカーの電源を切ります。

これで、本機を使う上で必要な準備と操作はひと通り終わりました。
さらにいろいろな操作をするためには、引き続きこのあとのページおよび本機オンラインマニュアルをご覧ください。

ご注意

次回本機の電源を入れるときは「Windowsへログオン」画面でAdministratorのパスワードを入力してください。Administratorのパスワードを入力しないと、Windows 2000が起動しません。ただし、「Windowsを準備する」の手順14の「このコンピューターのユーザー」画面で「常に次のユーザーがこのコンピューターにログオンすると仮定する」を選択したとき（54ページ）は、「Windowsへログオン」画面は表示されず、パスワードを入力する必要はありません。

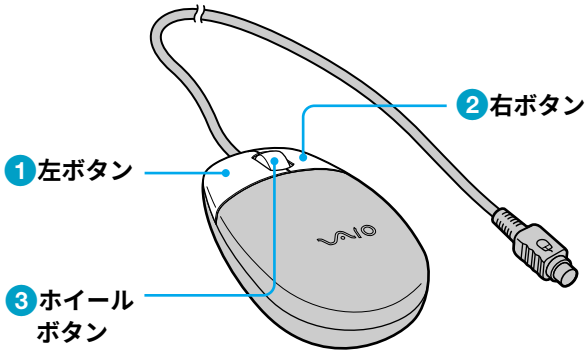
コンピュータの基本操作を練習する

この章では、本機を使うための基本的な操作を説明します。

マウスの使いかた

本機を操作するときは、キーボードのほかにマウスを使います。ここではマウスの使いかたを説明します。

マウスの各部のなまえとはたらき



1 左ボタン

文書や画像、ソフトウェアなどを選んだりするときに押します。
マウスを使うときは、主にこのボタンを使います。

2 右ボタン

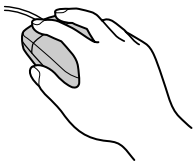
文書や画像をコピーするなど、さまざまな操作や設定をすぐに行うためのメニューを表示するときに押します。

3 ホイールボタン

ウィンドウを移動するときなどに、このボタンを使うと、左ボタンを使うよりも楽に操作できます。
ホイールボタンについて詳しくは、本機オンラインマニュアルの「基本的な使いかた」内「マウスを使う」の「ホイールボタンの使いかた」をご覧ください。

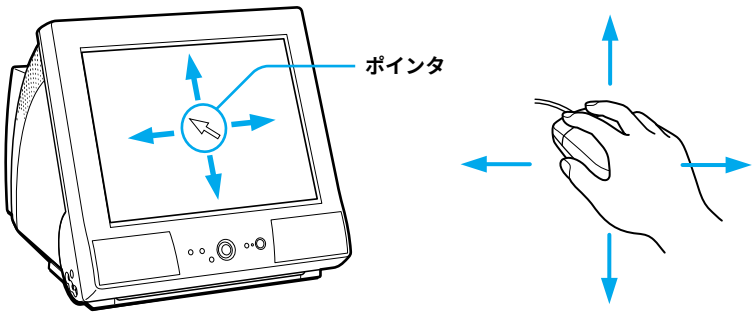
マウスの持ちかた

マウスは強く握ったり、押しつけたりせず、手のひらを軽く乗せるようにします。また、ボタンをクリックしやすいように、指先をボタンに乗せてください。



マウスを動かす

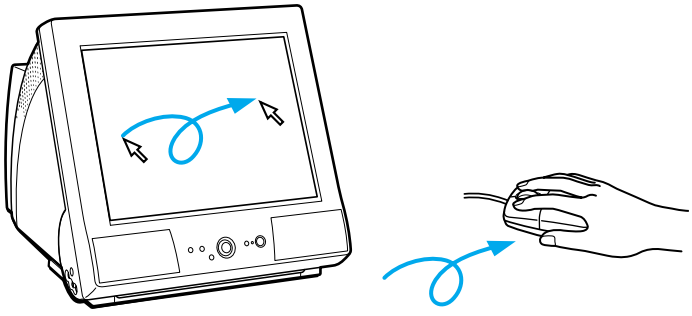
マウスを動かすと、その動きに合わせてデスクトップ画面上の↖(ポインタ) も
同じ方向に移動します。



ポインタとは

マウスを動かすと、画面上に表示されている ↖ が動きます。この矢印を「ポインタ」と言います。
ポインタを目的の位置まで動かして左ボタン、右ボタン、またはホイールボタンを押すことで、
さまざまな命令をコンピュータに伝えることができます。

机の上など平らな場所に置き、滑らせるように動かします。マウスを動かすときは、
腕全体を使うようにします。



大きく動かすときは

マウスを動かしていると、机の端まで行ってしまうことがあります。このようなときは、マウ
スを持ち上げて元の位置に戻し、また同じ方向に動かします。マウスを持ち上げている間は、
ポインタは動きません。

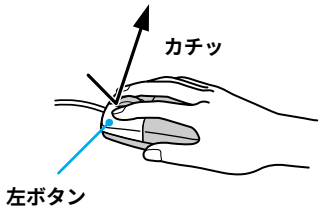
次のページへつづく

マウスの使いかた（つづき）

クリックする

左ボタンをカチッと1回押してすぐ離すことです。

スタート などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。



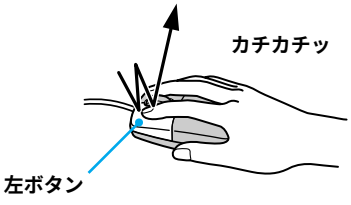
ポイントする

（ポインタ）を希望の位置に合わせることです。メニューの項目を選ぶときなどに使います。

ダブルクリックする

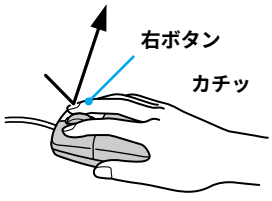
左ボタンをカチカチッと2回すばやく押してすぐ離すことです。

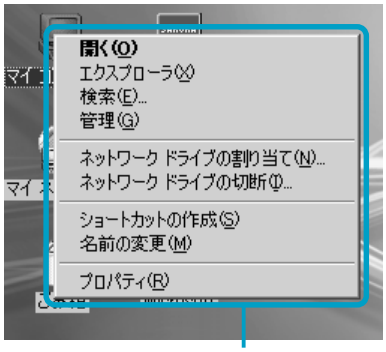
ソフトウェアを実行したり、作成した文書を開くときなどに使います。



右クリックする

右ボタンを1回押してすぐ離すことです。押したときのポインタの位置によって、さまざまな内容のショートカットメニューが表示されます。ショートカットメニューを使うと、メニューなどを開かずに、さまざまな機能を直接使うことができます。

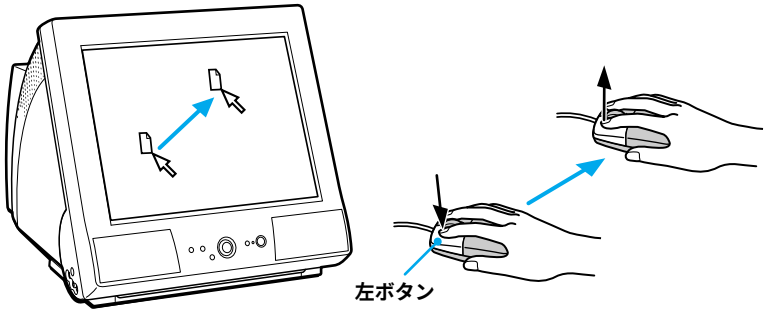




デスクトップ画面左上の［マイコンピュータ］を右クリックしたときのショートカットメニュー

ドラッグする

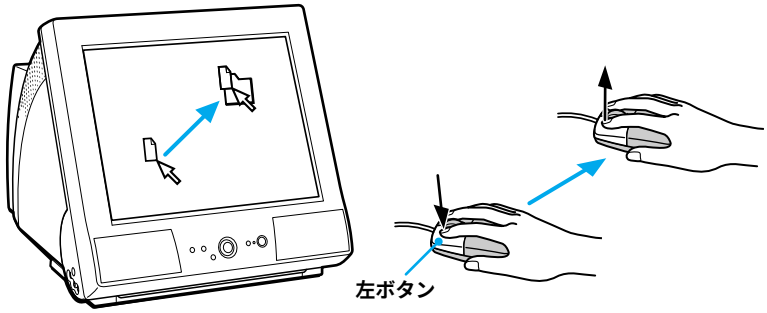
マウスの左ボタンを押したまま、マウスを動かしてからボタンを離すことです。文書や画像を移動するときなどに使います。



次のページへつづく

ドラッグアンドドロップする

ファイルのアイコンなどをドラッグしてフォルダやソフトウェアのアイコン、ウィンドウなどの上でボタンを離すことです。
ファイルをフォルダのアイコンやウィンドウにドラッグアンドドロップすると、そのファイルをフォルダやウィンドウの中に移動またはコピーすることができます。
ファイルをソフトウェアのアイコンやウィンドウにドラッグアンドドロップするとソフトウェアでそのファイルを開くことができます。



本機の使いかたがわからないときに

この章では、本機の使いかたがわからなくなったときに
読むマニュアルやヘルプの使いかたについて説明します。

どのマニュアルを読む？

本機に付属しているマニュアルの内容を簡単に紹介します。それぞれの目的に合わせてお読みください。
オンラインマニュアルの使いかたについて詳しくは、「オンラインマニュアルの使いかた（画面上の操作説明）」（68ページ）および「「サイバーサポート」ソフトウェアの使いかた」（77ページ）をご覧ください。

オンラインマニュアルとは

本機やソフトウェアの操作説明などをデスクトップ画面上で読めるようにしたマニュアルのことです。

本機に付属しているマニュアル

❑ 取扱説明書（本書）

本機をお買い上げいただいたあとに最初に行う準備をはじめ、本機の基本的な基本的な使いかたや使用上のご注意などについて記載しています。

❑ 接続／拡張マニュアル

本機と周辺機器の接続方法や、本機の機能を拡張する方法について説明しています。

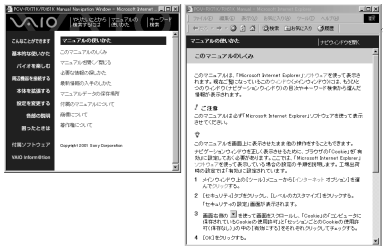
❑ はじめてのインターネット！

インターネット接続について説明しています。

コンピュータ上のマニュアル

❑ 本機のオンラインマニュアル

コンピュータの基礎的な知識をはじめ、本機の使いかたについて詳しく説明しています。また、本機に付属のソフトウェアの起動方法やお問い合わせ先なども説明しています。本書を読み終わった方は、デスクトップ画面上の VAIO をダブルクリックして必ずこちらもご覧ください。
使いかたについて詳しくは、「本機のオンラインマニュアルを見るには」（68ページ）をご覧ください。
このオンラインマニュアルは、やりたいことの操作や困ったときの解決方法を検索できる「サイバーサポート (CyberSupport for VAIO)」ソフトウェアから検索することもできます。



❑ ソニー製のソフトウェアのオンラインマニュアル

本機に付属しているソニー製のソフトウェアの基本的な使いかたを説明しています。オンラインマニュアルの使いかたについて詳しくは、「付属ソフトウェアのオンラインマニュアルを見るには」(73ページ) をご覧ください。

*が付いているソフトウェアは紙の取扱説明書も付属しています。

- PictureGear (ピクチャーギア)
  本機で静止画や動画を見たり、保管するためのソフトウェア
- Media Bar (メディア バー)
  本機で音楽を聞いたり、映像を見たりするためのソフトウェア
- Giga Pocket (ギガ ポケット) *
  本機で映像を録画したり、編集したりするためのソフトウェア
- DVgate (ディーブイゲート) *
  動画／静止画編集用にデジタルビデオカメラレコーダーなどの機器から動画や静止画を取り込むためのソフトウェア
- Navin' You (ナビン ユー)
  本機で地図を見たり、ルートの検索などが行えるソフトウェア
- Smart Capture (スマート キャプチャー)
  デジタルビデオカメラレコーダーなどの機器から動画や静止画を取り込むためのソフトウェア
- MovieShaker (ムービーシェイカー)
  本機に取り込んだ動画を編集するためのソフトウェア

❑ 「DVDit! LE (ディーブイディーイット エルイー)」お使いになる前に

(オンラインマニュアル)

MPEGファイルの作成から「DVDit! LE」ソフトウェアを使ってCDを作るまでを簡単に説明しています。

その他のマニュアル

❑ 付属ソフトウェアの説明書

ソニー製以外のソフトウェアの使いかたを説明しています。

❑ 「Microsoft Windows 2000 Professional」クイックスタートガイド

Windows 2000の基本的な使いかたを説明しています。

❑ VAIOサービス・サポートのご案内

本機を使っていてトラブルが発生したときの対処方法や、本機が故障したときなどのお問い合わせ先、サービス／サポートの内容について説明しています。

本機のオンラインマニュアルを見るには

本機のオンラインマニュアルは、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを使って表示します。

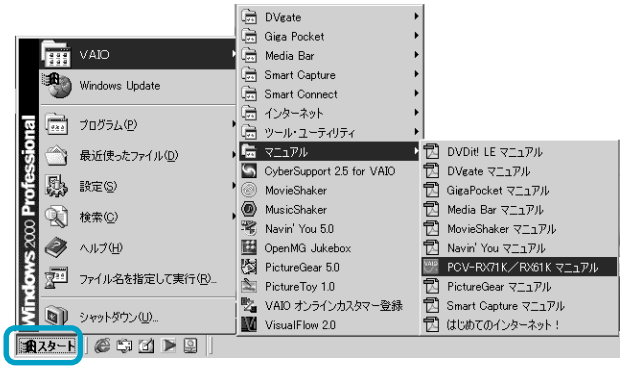
ご注意

本機のオンラインマニュアルは必ず「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを使って表示させてください。

本機のオンラインマニュアルを見るには、「Windows 2000を準備する」（49ページ）の手順が終わったあと、本機の電源が入っている状態で、以下のように操作します。

デスクトップ画面上の VAIO をダブルクリックするか、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［マニュアル］から［PCV-RX71K／RX61K マニュアル］をクリックする。

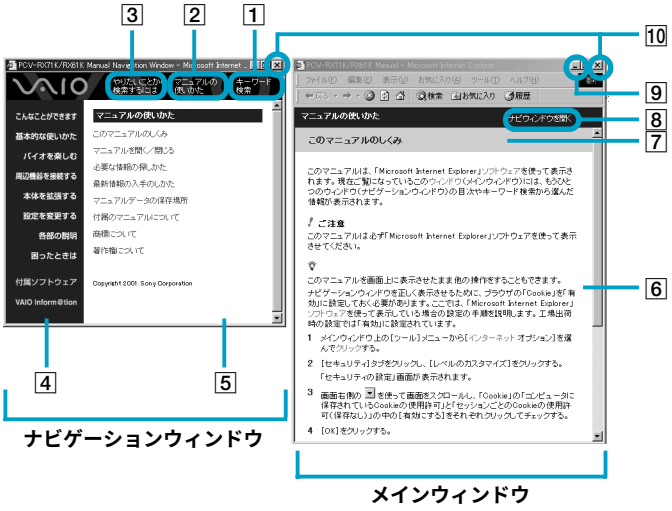
本機のオンラインマニュアルが表示されます。



本機オンラインマニュアルの画面の見かた

本機のオンラインマニュアルを開くと、ナビゲーションウィンドウとメインウィンドウの2つのウィンドウが開きます。

ナビゲーションウィンドウには目次が表示され、各項目の詳細がメインウィンドウに表示されます。



1 キーワードから説明を探したいときにクリックします。詳しくは、「キーワードを入力して探すには」(71ページ) をご覧ください。

2 ここをクリックすると、5 に「マニュアルの使いかた」のトピック一覧が表示されます。

トピックとは

ナビゲーションウィンドウの項目をクリックしたときに、メインウィンドウに表示される内容をここでは、「トピック」と呼んでいます。

3 ここをクリックすると、5 に「やりたいことから検索するには」のトピック一覧が表示されます。

4 それぞれの章タイトルをクリックすると、その章タイトルに含まれているトピック一覧が 5 に表示されます。

ちょっと一言

マウスのポインタ を動かすと のかたちになる場所でクリックすると、項目やトピックが表示されます。黒い字の項目をクリックしても表示は変わりません。

5 トピック一覧が表示されます。表示されたトピックタイトルをクリックするとメインウィンドウに操作手順などの説明が表示されます。

6 メインウィンドウ上に表示される以下の項目をクリックすると、クリックした項目の詳しい説明や、関連項目が表示されます。

- ページをスクロールさせたいときは、画面右下の をクリックします。
- ページの冒頭に見出しが表示されているときは、見たい内容をクリックすると、その説明箇所が表示されます。
- 本文中の【詳細】をクリックすると、さらに詳しい説明のあるページが表示されます。

次のページへつづく

- ［ここにも注目］のトピックタイトルをクリックすると、関連する項目のあるページが表示されます。
- 本文中、緑色で表示されている言葉（単語）をクリックすると、その言葉の用語解説のページが表示されます。

7 トピックタイトルが表示されます。

8 ナビゲーションウィンドウを閉じている場合にここをクリックすると、ナビゲーションウィンドウが再び表示されます。

9 ここをクリックするとウィンドウが最小化されます。ウィンドウを隠しておきたいときにクリックします。タスクバーのアイコンをクリックすればウィンドウは元の大きさに戻ります。

10 ここをクリックするとウィンドウを閉じることができます。
マニュアルを読み終わったら、ここをクリックしてください。

ちょっと一言

マニュアルを開くと2つのウィンドウが開きますが、必要に応じてどちらか片方のウィンドウを閉じることもできます。

- ナビゲーションウィンドウが閉じているときは、メインウィンドウ上の［ナビウィンドウを開く］をクリックします。
- メインウィンドウが閉じているときは、ナビゲーションウィンドウの目次やキーワード検索から、表示したい情報の項目を選んでクリックします。

ご注意

メインウィンドウで他のWebページを表示すると、ナビゲーションウィンドウで目次やキーワードを選んでもメインウィンドウに表示されなくなります。この場合は、一度メインウィンドウを閉じてから、再びナビゲーションウィンドウで目次やキーワドを選び直して、メインウィンドウを表示させてください。

必要な情報の探しかた

目次から探すには

1 ナビゲーションウィンドウ左側から、章タイトルをクリックする。

クリックした章に含まれるトピック一覧がナビゲーションウィンドウ右側に表示されます。

2 説明を読みたいトピックタイトルをクリックする。

クリックしたトピックタイトルの情報がメインウィンドウに表示されます。
トピック一覧の最後に▶があるものは、クリックするとさらに詳しいトピック一覧が表示されます。

キーワードを入力して探すには

思いついた言葉を入力することによって関連するトピックを探し出します。
表示されたトピックのリストから必要なトピックをメインウィンドウに表示させます。

1 ナビゲーションウィンドウ上部の キーワード検索 をクリックする。

キーワードの入力欄が表示されます。

2 キーワードを入力して、検索 をクリックする。

入力したキーワードを含む項目が表示されます。

すべてのキーワードを表示したいときは、全キーワードを表示する をクリックします。該当するキーワードがない場合は、「キーワードが見つかりません」と表示されます。

ご注意

英単語のキーワードを入力するときは、半角文字で入力してください。

3 表示したいキーワードを選んでクリックする。

選んだキーワードの解説がメインウィンドウに表示されます。

次のページへつづく

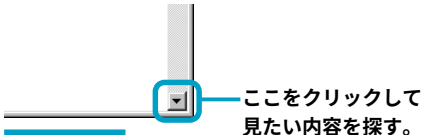
キーワードリストから探すには

1 **ナビゲーションウィンドウ上部の キーワード検索 をクリックする。**

キーワードリストが表示されます。

2 **画面右下の ▼ をクリックして、キーワードリストから表示したい項目を選んでクリックする。**

選んだキーワードの解説がメインウィンドウに表示されます。



ご注意

キーワードリストの中で黒字で表示されている項目は、キーワード検索の対象には含まれません。また、黒字で表示されている項目を選択して表示することはできません。

便利な使いかた

本機のオンラインマニュアルを表示しているブラウザの機能を使って、より便利に使いこなすことができます。

前のページに戻るには

メインウィンドウ上の ⇦戻る をクリックします。

元のページに戻るには

メインウィンドウ上の ⇨ （進む）をクリックします。

見ている画面を印刷するには

メインウィンドウ左上の［ファイル］をクリックして表示されるメニューから［印刷］をクリックし、プリンタの設定を確認して OK をクリックします。

章ごとに印刷するには

章の内容を一度に印刷することができます。

ナビゲーションウィンドウ上部の［マニュアルの使いかた］をクリックして表示されるトピック一覧から［必要な情報の探しかた］を選び、メインウィンドウの上部に表示される［便利な使いかた］をクリックすると、章タイトルの一覧が表示されるので、印刷したい章タイトルをクリックします。

章の目次がメインウィンドウに表示されるので、画面上部の［ファイル］をクリックし表示されるメニューから［印刷］を選び、［リンクドキュメントをすべて印刷する］の ☐ をクリックして ☑ にし 印刷(P) をクリックして印刷してください。

マニュアルデータの保存場所

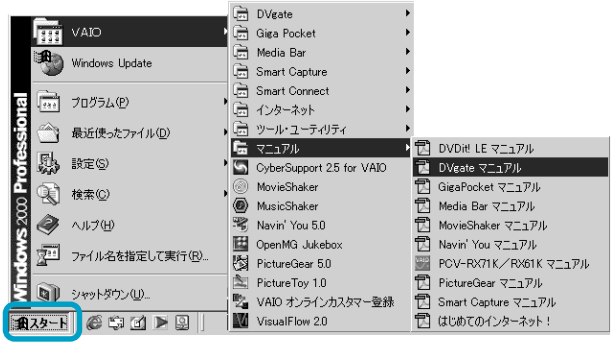
オンラインマニュアルのデータは、「C:￥Program Files￥sony￥Manual￥」フォルダに保存されています。誤ってこのフォルダを消去してしまわないようにご注意ください。

付属ソフトウェアのオンラインマニュアルを見るには

付属ソフトウェアのオンラインマニュアルを見るには、「Windows 2000を準備する」(49ページ) の手順が終わったあと、本機の電源が入っている状態で、以下のように操作します。ここでは、「DVgate」ソフトウェアのオンラインマニュアルの内容を表示させてみます。

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［マニュアル］を選び、［DVgate マニュアル］をクリックする。

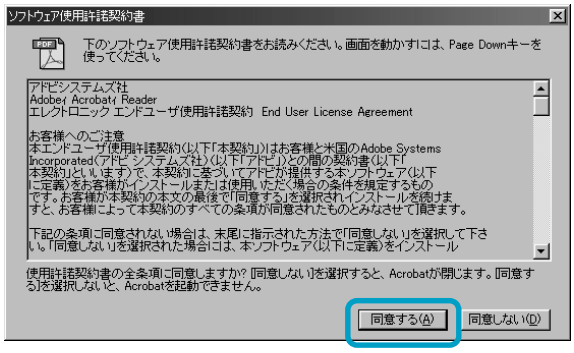
本機に付属の「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアが起動し、「DVgate」ソフトウェアのオンラインマニュアルが表示されます。



次のページへつづく

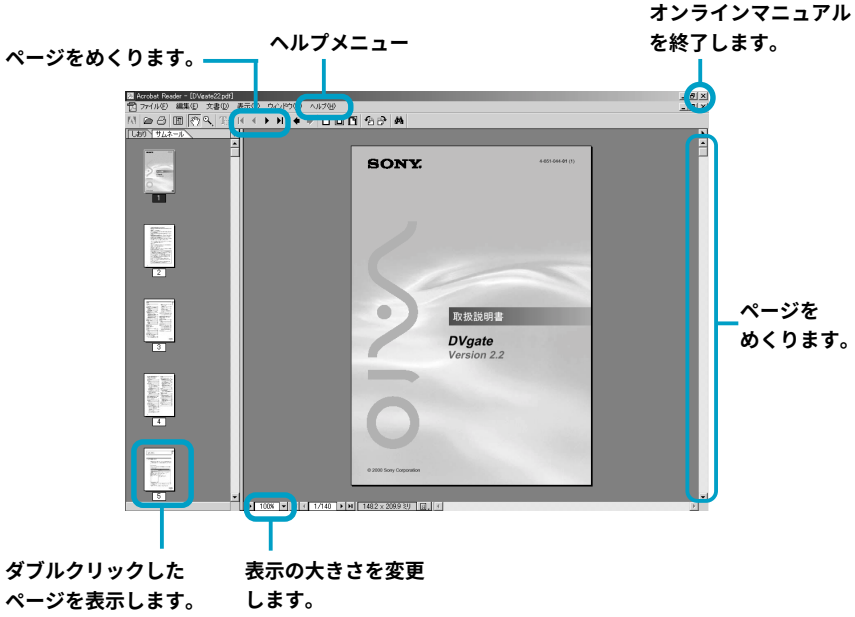
「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアを初めて起動したときは

「ソフトウェア使用許諾契約書」が表示されますので、契約書の内容を読み、
同意する(A) をクリックしてください。



オンラインマニュアルの見かた

サムネール（縮小表示）やしおりを見たいときは、 をクリックし、それぞれのタブをクリックします。詳しくは、「Adobe Acrobat Reader」の ヘルプ(H) をクリックしてヘルプをご覧ください。



Windows 2000のヘルプの使いかた

Windows 2000の操作のしかたや設定の変更についての情報を検索できます。

Windows 2000のヘルプを見るには

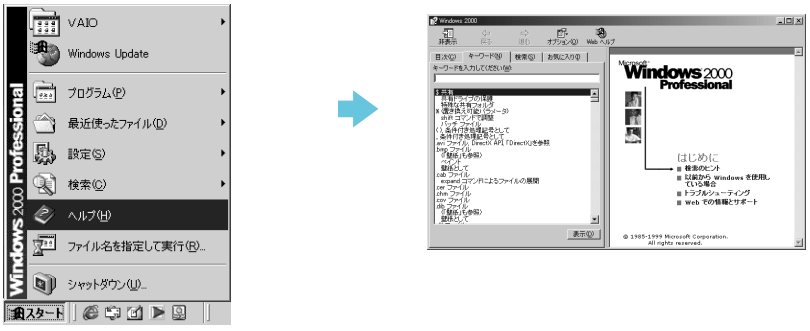
Windows 2000のヘルプを見るには、「Windows 2000を準備する」(49ページ)の手順が終わったあと、本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

ヘルプとは

Windows 2000やソフトウェアなどの操作についてわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して表示する機能のことです。

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックする。

ヘルプが表示されます。



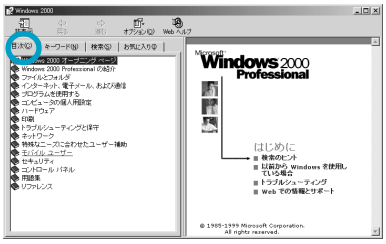
ヘルプの見かた

表示される「目次」、「キーワード」、「検索」のいずれかのタブをクリックして、知りたい情報を検索します。

「目次」で検索するには

ヘルプの目次を通じて、知りたい情報を参照できます。

「目次」で検索するには、［目次］タブをクリックし、表示される項目にある をクリックして知りたい情報を表示させます。

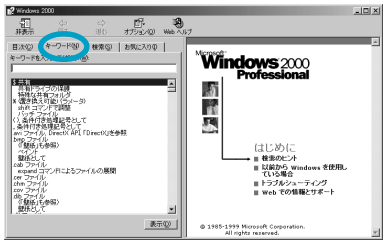


次のページへつづく

「キーワード」で検索するには

入力した語句に該当する項目を表示させます。

「キーワード」で検索するには、［キーワード］タブをクリックし、表示される入力欄に知りたい情報についてのキーワードを入力し、キーボードの(エンター) キーを押します。



「検索」で検索するには

特定の語句が含まれている項目について幅広く検索できます。

また、複数の語句を組み合わせることにより、より効率良く検索することもできます。

「検索」で検索するには、［検索］タブをクリックし、表示される入力欄にキーワードを入力し、キーボードの(エンター) キーを押します。

各ソフトウェアのヘルプを見る

本機に付属しているソフトウェアにもヘルプが添付されています。それぞれのヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書やオンラインマニュアルをご覧ください。

本機オンラインマニュアルの「付属ソフトウェア」には、ソフトウェアの使いかたがわからなくなったときのために、各ソフトウェアにつき「操作がわからなくなったときは」の項目があります。あわせてご覧ください。

ヘルプとは

Windows 2000やソフトウェアなどの操作についてわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して表示する機能のことです。

「サイバーサポート」ソフトウェアの使いかた

本機には、「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」という検索ソフトウェアが付属しています。このソフトウェアを使うと、自分のやりたいことやトラブルの内容を入力するだけで、その操作方法や解決方法を知ることができます。

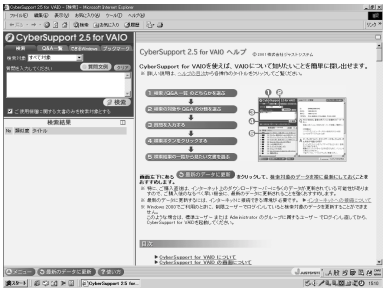
ちょっと一言

「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアは、本機オンラインマニュアルや本機に付属のソフトウェアのオンラインマニュアル、Windows 2000のヘルプ、VAIOカスタマーリンクに寄せられたFAQ（よくある質問とその回答）などから解決方法を検索します。

「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアを起動するには

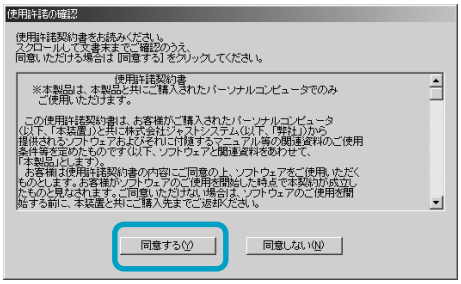
デスクトップ画面上の（CyberSupport 2.5 for VAIO）をダブルクリックするか、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［CyberSupport 2.5 for VAIO］をクリックする。

「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアが起動します。



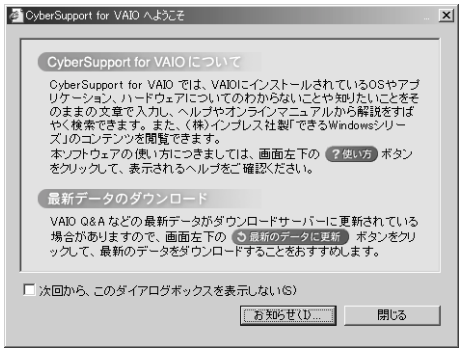
「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアを初めて起動したときは

「使用許諾の確認」画面が表示されますので、内容を読み 同意する(Y) をクリックしてください。



次のページへつづく

「CyberSupport for VAIOへようこそ」画面が表示されます。



「次回から、このダイアログボックスを表示しない」の ☐ をクリックして ☑ にし、閉じる をクリックしてください。

「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」の「「サイバーサポート」ソフトウェアを使う」をご覧ください。

ヘルプとは

Windows 2000やソフトウェアなどの操作がわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して表示する機能のことです。

ちょっと一言

VAIOカスタマーリンクのホームページでは、製品出荷後の最新情報を提供しています。VAIOカスタマーリンクのホームページにアクセスし、「サイバーサポート」ソフトウェアで検索できる情報を更新してください。

更新するには、インターネットに接続した状態で、「サイバーサポート」ソフトウェアの画面左下の 最新のデータに更新 をクリックします。自動的に、情報が更新されます。最初に更新するときは、数十分時間がかかることがありますので、ご注意ください。

操作について詳しくは、別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。また、この機能を使うには、あらかじめインターネットに接続していることが必要です。インターネット接続について詳しくは、「カスタマー登録する／インターネットに接続する」（80ページ）および別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

カスタマー登録する／インターネットに接続する

この章では、オンラインでカスタマー登録する手順とインターネット接続サービスへのオンライン入会手順を説明します。

カスタマー登録する／インターネットに接続する

カスタマー登録は必ず行ってください。
ここでは、まずオンラインカスタマー登録をして、その後インターネット接続サービスにオンラインで入会する手順を説明します。

VAIOカスタマーご登録について

ソニーは「バイオ」をご所有のお客様へ必要な情報をお知らせし、充実したサポート・サービスをご提供するために、「VAIOカスタマーご登録」を行っていただくことをおすすめしています。ご登録のメリットについては、VAIOホームページ（http://www.vaio.sony.co.jp/）をご覧ください。
また、出荷時点で付属する保証書が提供する製品の保証期間はお買い上げ日から3か月です。ご登録を行っていただくことで、VAIOカスタマー専用デスクから、お買い上げ日より1年間有効な保証書と「VAIOカスタマーID」を記したご登録証「VAIO Customer's Card」をお送りします（すでに「VAIO Customer's Card」をお持ちの方へはカードの送付は行なわれません）。なお、保証について詳しくは「保証書とアフターサービス」（137ページ）をご覧ください。

VAIOカスタマーご登録に関するお問い合わせ先
VAIOカスタマー専用デスク　　電話番号：03-3584-6651

インターネット接続サービスとは

インターネットにつなぐためには、インターネット接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。インターネット接続サービスはインターネットとコンピュータとの間を仲介する役割を持っており、インターネット接続サービスを提供する会社と契約すると、インターネットを使っていろいろな情報を記述したホームページを簡単に見たり、電子メールを送受信したりできるようになります。

VAIOカスタマーご登録の方法

電話回線を通じて手軽にご登録が行えます。

ちょっと一言

- 付属の「VAIOカスタマー登録、保証書お申込書」にご記入のうえ、郵送いただくことでもご登録を行えます。
- ソニーがお客様の同意なく登録内容を外部へ開示することはありません。ただし、司法機関や行政機関から法的義務を伴う要請を受けた場合は除きます。
- VAIOカスタマーご登録は、本機の再セットアップをしたあとなどに再び行う必要はありません。住所など登録内容の変更を行うときは、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［VAIOオンラインカスタマー登録］をクリックして変更手続きを行ってください。
- 13才より小さなお子さまは、ほごしゃの方といっしょにとうろくしてください。

ご注意

- オンラインカスタマー登録は、管理者権限（Administrators）のユーザーのみ行うことができます。
- 下記の手順を行うには、本機が一般電話回線につながっている必要があります。「VAIOオンラインカスタマーご登録」にご使用いただく電話回線はISDN回線や携帯電話には対応していません。ISDN回線をお使いになる場合は、ターミナルアダプタのアナログポートと本機後面のLINEジャックをつないでください。つなぎかたについては「接続する／準備する」の「ISDN回線につなぐときは」（43ページ）をご覧ください。ISDN回線やターミナルアダプタについて詳しくは、NTT（局番なしの116番）またはターミナルアダプタの製造元にお問い合わせください。

1 デスクトップ画面上の をクリックする。

「Welcome」の画面が表示されます。

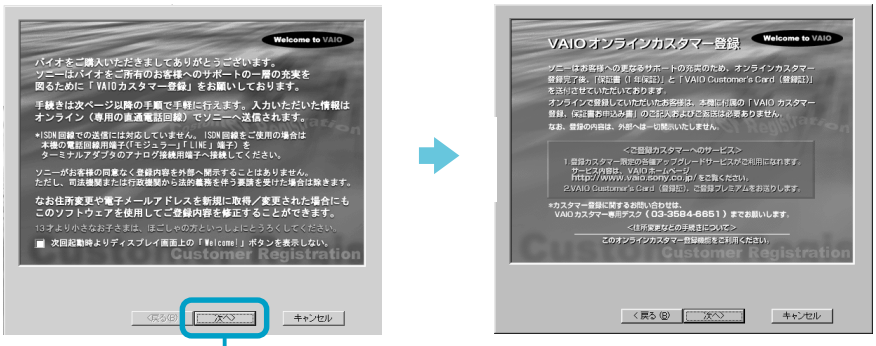
カスタマー登録をしない、または後でするときは

キャンセル をクリックします。 キャンセル をクリックすると「インターネット接続サービスのご紹介」の画面が表示されます。その後の手順について詳しくは手順4をご覧ください。

次のページへつづく

2 次へ をクリックする。

VAIOオンラインカスタマー登録の画面が表示されます。



ここをクリックする。

1つ前の画面が見たいときは

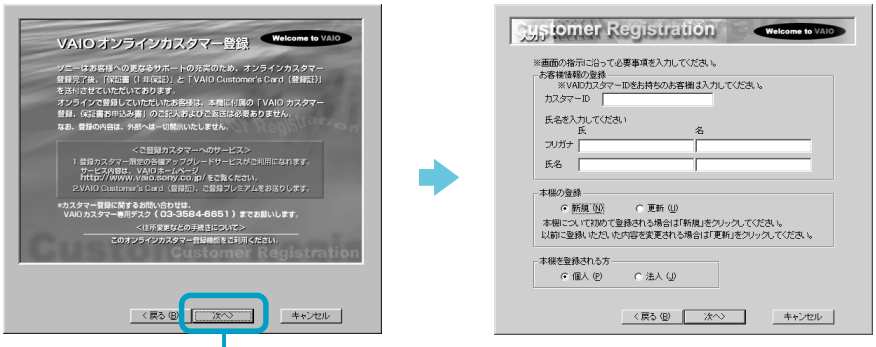
< 戻る (B) をクリックします。

ちょっと一言

「次回起動時よりディスプレイ画面上の「Welcome!」ボタンを表示しない。」の ☐ をクリックして ☑ にしてから 次へ をクリックすると、デスクトップ画面上から が消えます。

3 次へ をクリックする。

カスタマー登録を開始します。
画面の指示に従って操作してください。



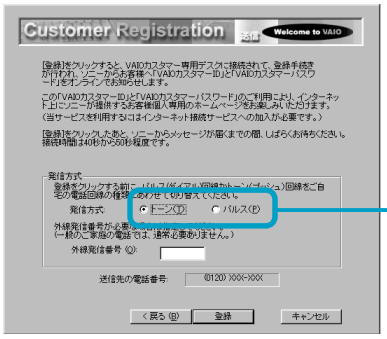
ここをクリックする。

1つ前の画面が見たいときは

< 戻る (B) をクリックします。

この画面が表示されたら…

お使いの電話回線のダイヤル方法を確認し、発信方法を選びます。



お使いの電話回線の
ダイヤル方法を選ぶ。

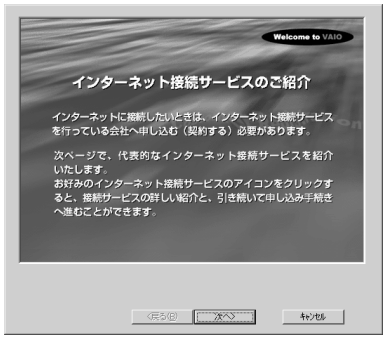
トーン式ダイヤルとは：電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、「カチカチ」という音がしない電話機のダイヤル方法です。

パルス式ダイヤルとは：ボタンではなくダイヤルを回す電話機、またはダイヤルボタンを押すたびに「カチカチ」という音がする電話機のダイヤル方法です。

お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、NTTから送られてくる請求内訳表をご覧ください。請求内訳表の中に「プッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線（基本）使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。

電話回線のダイヤル方法について詳しくは、NTT（局番なしの116番）にお問い合わせください。

カスタマー登録が終わると（または途中で キャンセル をクリックすると）、「インターネット接続サービスのご紹介」画面が表示されます。

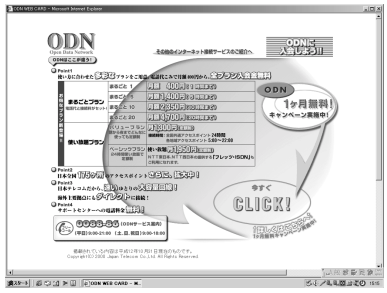


次のページへつづく

4 次へ をクリックする。

インターネット接続サービス「ODN」の説明が表示されます。

ここをクリックする。



入会手続きをしない、または後でするときは

キャンセル をクリックします。

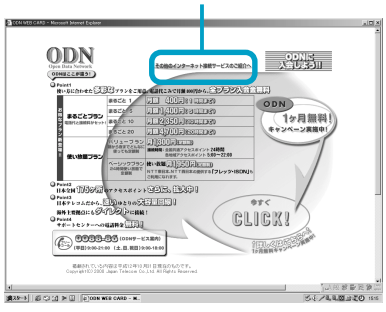
5 ODNに入会しよう!! をクリックする。

ODNへの入会手続きが始まります。
詳しくは、付属の説明書をご覧ください。

その他のインターネット接続サービスの情報を見たいときは

［その他のインターネット接続サービスのご紹介へ］をクリックします。
「インターネット接続サービスご紹介」画面が表示されます。

ここをクリックする。



6 お好みのインターネット接続サービスのアイコンをクリックする。

インターネット接続サービスに入会する手続きを開始します。
画面の指示に従って操作してください。

ご注意

ISDN回線をお使いになっているときは、ターミナルアダプタのアナログポートと本機後面のLINEジャックをつないでから入会手続きを行ってください。

ちょっと一言

一部のインターネット接続サービスでは、オンラインカスタマー登録をしてから入会手続きを行うと、住所や氏名などが流用されて自動登録されるため、入力の手間を省くことができます。
オンラインカスタマー登録をしなくても、インターネット接続サービスへの入会手続きをすることはできます。

お好みのインターネット接続サービスのアイコンをクリックする。

ご注意

一部のインターネット接続サービスでは、ユーザー権限による制限のため、入会手続きをするソフトウェアを起動できない場合があります。
詳しくは、本機オンラインマニュアルの「付属ソフトウェア」の各ソフトウェアの項目をご覧ください。

インターネット接続サービスを提供する会社と契約後に、インターネット接続を手動で設定する、またはLAN（ネットワーク）を使って接続するときは

「インターネット接続サービスご紹介」画面右下の［こちらへ］をクリックします。
「インターネット接続ウィザード」画面が表示されるので、郵送されてきた資料の設定情報をご覧になり、画面の指示に従って必要事項を入力してください。

入会手続きをしない、または後でするときは

「インターネット接続サービスご紹介」画面右上の ✕ をクリックします。

入会手続きが終わったら、インターネットに接続する準備をします。
詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

困ったときは

この章では、本機を操作していて困ったことやトラブルの解決方法を説明します。

トラブルを解決するには

この説明書を読みながら操作していて困ったときは、あわてず下記の手順に従ってください。また、メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

1 **トラブルが発生したときは90ページからの説明または、本機オンラインマニュアルの「困ったときは」の項目をご覧ください。**

2 **デスクトップ画面上の (CyberSupport 2.5 for VAIO) をダブルクリックして、付属の「サイバーサポート (CyberSupport for VAIO)」ソフトウェアを起動させ、トラブルの内容を入力し、検索してみてください。**

「サイバーサポート (CyberSupport for VAIO)」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」の「「サイバーサポート」ソフトウェアを使う」をご覧ください。

3 **VAIOカスタマーリンクのホームページを確認してください。**

VAIOカスタマーリンクホームページでは、トラブルの解決方法や疑問の解消に役立つ情報やサービスを掲載していますのでご覧ください。

VAIOカスタマーリンクホームページ http://vcl.vaio.sony.co.jp/

4 **VAIOカスタマーリンクに電話で問い合わせる。**

以下のお問い合わせ先にご相談ください。

VAIOカスタマーリンク

電話番号

(0466) 30-3000

受付時間

平日	10時～20時	一般的にお電話は午前中より午後の方がつながりやすくなっております。
土、日、祝日 (年末年始は除く)	10時～17時	

- お電話は音声認識を用いた自動音声のアナウンスに従って、ご希望のメニューをお選びください。各メニューの担当オペレーターが対応いたします。
- 付属のソフトウェアについては、本機オンラインマニュアルの「付属ソフトウェア」の項目をご覧になり、各ソフトウェアのお問い合わせ先にお電話ください。
- 本機のご購入日から90日間無料。それ以後は、有償でのサポートメニュー「サポートプラス」をご用意しております。

お電話の前に以下の内容をご用意ください。

① お客様のVAIO**カスタマー**ID
② 本機の**型名**：PCV-RX71K／RX61K
③ 本機の**製造番号**（保証書などに記載されている7桁の番号です）
④ カスタマー登録していただいたときの**電話番号**、または登録予定の**電話番号**

ちょっと一言

発信者番号通知でお電話していただくとよりスムーズに担当者につながります。

⑤ 本機に接続している**周辺機器名**（メーカー名と型名）
⑥ 表示された**エラーメッセージ**
⑦ 本機に付属していないソフトウェアを追加した場合は、その**ソフトウェアの名前**とバージョン
⑧ トラブルが発生する前または**直前に行った操作**
⑨ トラブルがどのくらいの**頻度**で再現するか
⑩ その他お気づきの点

修理の場合は

⑪ VAIOカルテ（修理をお申込みになるとき）
⑫ 筆記用具（修理を受付する際にお伝えする修理受付番号を控えるのに必要です）

主なトラブルとその解決方法

ここでは、主なトラブルとその解決方法について説明します。

ご注意

再起動または電源を入れ直す場合は、必ず「電源を切る」(56ページ) の手順に従い、いったん電源を切ってください。他の方法で電源を切ると、作成したファイルが使えなくなることがあります。
接続し直すときは、必ず「電源を切る」(56ページ) の手順に従い、いったん電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

トラブルの内容	参照ページ
電源	91ページ
ディスプレイ	94ページ
スピーカー	95ページ
リモコン	96ページ
文字入力	96ページ
マウス	98ページ
フロッピーディスク	99ページ
ハードディスク	99ページ
CD-ROM／CD-RW／CD-R	100ページ
DVD-ROM	101ページ
i.LINK	102ページ
録画、再生	103ページ
動画／静止画編集	104ページ
モデム／インターネット	105ページ
エラーメッセージ	107ページ

電源

電源が入らない。

→ 本機の電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。

→ すべてのケーブルがしっかり接続されているか確認する（30ページ）。

→ スイッチ付テーブルタップなどに本機の電源コードをつないでいるときは、スイッチが入っているかどうか、また、テーブルタップが壁のコンセントにしっかり差し込まれているか確認する。

電源が切れない。

電源が切れないときの状況によって対処方法が異なります。以下の点を確認した上で、それぞれの操作を行ってください。

→ キーボードが正しく接続されているか確認する（39ページ）。

→ プリンタやUSB機器などの周辺機器を接続している場合やネットワークを使用している場合には、それらを使用しない状態にしてから電源を切る操作を行ってください。Windows 2000は、周辺機器やネットワークと通信を行っている間は、電源が切れないしくみになっています。

→ 新しくインストールしたソフトウェアやデータ、その操作などを確認してください。

→ 「電源を切る」（56ページ）の操作をしても、「Windowsを終了しています」または「電源を切る準備ができました」と表示されたまま動かない場合は、キーボードの Enter（エンター）キーを押してください。

→ 「スタート」メニューの［シャットダウン］を選んでも「Windowsのシャットダウン」画面が表示されない場合は、Alt（オルト）キーを押しながら F4 キーを数回押して「Windowsのシャットダウン」画面を表示させ、「シャットダウン」をクリックして選び、［OK］をクリックしてください。
Alt（オルト）キーを押しながら F4 キーを数回押しても「Windowsのシャットダウン」画面が表示されない場合は、Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押し、「Windowsのセキュリティ」画面が表示されたら、［シャットダウン］をクリックしてください。

次のページへつづく

→ 前ページのいずれの操作を行っても電源が切れない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して電源ランプが消灯するか確認してください。ただし、この操作をすると、作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。また、本機の電源を入れ直した際、「スキャンディスク」ユーティリティが実行されたり、Safe（セーフ）モードで起動することがあります。その場合は、デスクトップ画面が表示されるまで画面の指示に従って操作し、その後「電源を切る」（56ページ）の手順に従っていったん本機の電源を正しく切ってください。

本機がスタンバイモードへ移行せず、すぐに戻ってしまい、Windowsの動作状態が不安定になる。

→ 使用中のソフトウェアを終了して、本機を再起動してください。
再起動できない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して電源を切ってください。ただし、この操作をすると作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。

電源を入れると、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが表示される。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、フロッピーディスクイジェクトボタンを押して、取り出す。その後、キーボードのいずれかのキーを押してください。

電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。

→ フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っている場合は、ディスクを取り出してから Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを2回押して本機を再起動する。

→ 再起動してもこのメッセージが表示され、Windowsが起動しない場合は、指定された方法以外のやりかたでパーティションサイズを変更している可能性があります。本機に付属のリカバリ CDを使って、パーティションサイズを変更し、本機を再セットアップしてください。
詳しくは、「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（118ページ）および「パーティションサイズを変更する」（126ページ）をご覧ください。

電源を入れた後、「Invalid system disk. Replace the disk, and then press any key.」または「NTLDR is missing. Press any key to restart.」というメッセージが出て、ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押し、取り出す。その後、Enter（エンター）キーを押す。

電源を入れると、「CMOS Battery Bad」というメッセージが表示される。

→ 本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換については、VAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

電源を入れると、「CMOS Checksum Error」というメッセージが表示される。

→ BIOSの設定内容が壊れている。以下の手順に従って操作し、BIOSをお買い上げ時の設定に戻してください。

1 **本機前面の ⏻（電源）ボタンを押し、画面にSonyのロゴが表示されたら、キーボードの F2 キーを押す。**
BIOSセットアップメニューが起動し、「AwardBIOS Setup Utility」画面が表示されます。

2 **F5（Setup Defaults）キーを押す。**
「Load default configuration now?」というメッセージが表示されます。

3 **Home ／ End キーを押して［Yes］を選び、Enter（エンター）キーを押す。**
すべての設定項目がお買い上げ時の設定に戻ります。

4 **F10（Save and Exit）キーを押す。**
「Save configuration changes and exit now?」というメッセージが表示されます。

5 **Home ／ End キーを押して［Yes］を選び、Enter（エンター）キーを押す。**
変更された設定が保存され、BIOSセットアップメニューが終了し、Windows 2000が起動します。

→ BIOSをお買い上げ時の設定に戻しても再度メッセージが表示されるときは、本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換についてはVAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

次のページへつづく

ディスプレイ

画面に何も表示されない。

→ 本機とディスプレイの電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する（45ページ）。

→ 本機とディスプレイを正しく接続する（30ページ）。

→ 本機とディスプレイの電源スイッチが入っているか確認する（47ページ）。

→ ディスプレイの明るさボタンとコントラストボタンで調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

→ 本機後面のMONITORコネクタとDVIコネクタの両方にディスプレイをつないでいないか確認する。

画像が乱れる。

→ ラジオなど、近くに磁気を発生するものや磁気を帯びているものがある場合は、ディスプレイから離す。

画質が悪い。

→ ディスプレイの調整ボタンで画質を調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

画像の端が欠ける。

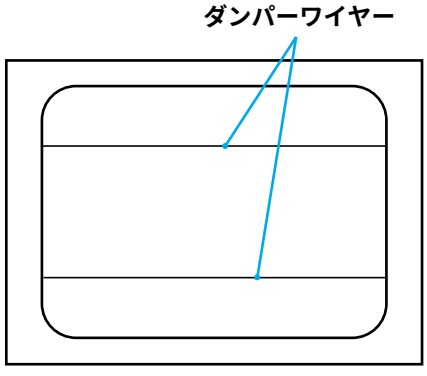
→ ディスプレイの調整ボタンで表示位置を調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

表示サイズ、表示位置がおかしい。

→ ディスプレイの調整ボタンで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

画面に細い横線が出る。

→ トリニトロン管内部のアパチャーグリルに取り付けられたダンパーワイヤーの影です。ダンパーワイヤーは、アパチャーグリルの振動を抑える働きをしています。アパチャーグリルは、ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200などのトリニトロン管特有の構造です。故障ではありません。



テレビの映像が映らない。

→ 本機とアンテナを正しく接続する。詳しくは「接続する／準備する」(30ページ) をご覧ください。

→ ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200をお使いの場合は、アンテナを接続する。詳しくは「接続する／準備する」(30ページ) をご覧ください。

DVDビデオの映像がテレビ画面に表示されない。

→ 本機をテレビに正しく接続する。詳しくは、別冊の「接続／拡張マニュアル」の「テレビにつなぐ」をご覧ください。

→ 以下の手順に従って操作し、映像と音声出力をテレビに切り換えてください。

1 **DVDビデオの再生を停止しているときに、「DVD Player」ソフトウェアの [設定] をクリックする。**

「DVD設定」画面が表示されます。

2 **[映像・音声出力] タブをクリックする。**

「映像・音声出力」画面が表示されます。

3 **「ソニーMPEG2エンコーダーボード」の ○ をクリックして ◉ にし、[OK] をクリックする。**

DVDビデオの映像や音声がテレビ画面に表示されるようになります。

スピーカー

スピーカーから音が出ない。

→ ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200などをお使いの方は、ディスプレイのヘッドホンケーブルが本機にしっかり接続されているか確認する。

→ ディスプレイの消音ボタンが「ON」になっていないか確認する。

→ ディスプレイの内蔵スピーカーの音量が最小になっている。コントロールボタンで音量を上げる。

→ アクティブスピーカーを接続している場合は、スピーカーの音声ケーブルが本機にしっかり接続されているか確認する。

→ アクティブスピーカーを接続している場合は、スピーカー用ACアダプタがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する (46ページ)。

次のページへつづく

→ アクティブスピーカーを接続している場合に、スイッチ付テーブルタップなどにスピーカー用ACアダプタをつないでいるときは、スイッチが入っているか、また、テーブルタップのコードが壁のコンセントにしっかり差し込まれているか確認する。

→ アクティブスピーカーを接続している場合は、アクティブスピーカーの電源が入っているか確認する（47ページ）。

→ アクティブスピーカーの音量が最小になっている。音量つまみで音量を上げる（47ページ）。

→ Windowsの音量がミュートまたは最小になっている。デスクトップ画面右下のタスクトレイの（スピーカーアイコン）をダブルクリックして、音量を上げる。

リモコン

リモコンで操作できない。

→ リモコンとリモコン用受光ユニットの間に障害物がある。障害物を取り除く。

→ リモコンと受光ユニットの距離が離れすぎている。近寄って操作する。

→ リモコンの発光部が受光ユニットの方を向いていない。リモコンを受光ユニットに向ける。

→ リモコンの電池が＋／－逆に入っている。正しい方向に入れ直す。

→ リモコンの乾電池が消耗している。電池を交換する。

→ 本機の近くにインバーター方式の蛍光灯がある。本機と蛍光灯を離して設置する。

「Giga Pocket」ソフトウェアを操作できない。

→ テレビ／VAIO切り換えスイッチが「VAIO」になっているか確認する。

テレビを操作できない。

→ テレビ／VAIO切り換えスイッチが「テレビ」になっているか確認する。

→ テレビのメーカー番号の設定を確認する。

文字入力

日本語が入力できない。

→ 本機オンラインマニュアルの「基本的な使いかた」内「文字を入力する」の「文字入力を練習する」をご覧ください。

全角の「～」が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで、ひらがなで「から」と入力し「～」が選ばれるまで [　　]（スペース）キーを押すか、[Shift]（シフト）キーを押しながら [~ ^] キーを押します。

URLで使われる半角の「~」（チルダ）が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「直接入力」または「半角英数」を選び、[Shift]（シフト）キーを押しながら [~ ^] キーを押します。

入力した文字が表示されない。

→ 本機とキーボードが正しく接続されているか確認する（39ページ）。

→ 文字を入力したいソフトウェアの画面が前面に出ていない（タイトルバー（ウィンドウの上の部分）は薄い色になります）。文字を入力したいソフトウェアのウィンドウのどこかをクリックするか、[Alt]（オルト）キーと [Tab]（タブ）キーを同時に押して目的のソフトウェアを前面に出し、使える状態にする（タイトルバーが青い色になります）。

キーボードを使って正しく入力できない。

→ 数字キーで数字を入力できない場合は、キーボード右上のNum Lockランプが消灯していないか確認してください。消灯している場合は、[Num Lk ScrLk]（ナム・ロック）キーを押してランプを点灯させてから入力してください。

→ 1 **デスクトップ画面左下の [スタート] をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **（システム）をダブルクリックする。**

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

3 **［ハードウェア］タブをクリックする。**

4 **［デバイスマネージャ］をクリックする。**

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

5 **キーボードの項目をクリックする。**

「日本語 PS／2キーボード（106／109キー Ctrl＋英数）」と表示されます。

上記と異なるキーボードタイプに設定していると、入力したい文字と違う文字が表示されることがあります。

次のページへつづく

マウス

マウスがマウスパッドの端まで来てしまい、これ以上動かせない。

→ マウスを持ち上げてマウスパッドの中央に戻す。

画面上のポインタが動かない。

→ 本機とマウスが正しく接続されているか確認する（39ページ）。

→ マウスの内部が汚れている場合は、マウスを掃除する（135ページ）。

→ 田 キーを押して「スタート」メニューを表示させ、PgUp キーまたは PgDn キーを押して［シャットダウン］を選んで、Enter（エンター）キーを押す。そのあと PgUp キーまたは PgDn キーで［再起動する］を選び、Enter（エンター）キーを押して本機を再起動する。

→ 田 キーを使って電源を切れない場合は、Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押して、本機を再起動する。

→ DVD-ROM／CD-ROMを再生しているときなどに、ポインタが動かなくなってしまった場合は、Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押し、DVD-ROM／CD-ROMを再生しているソフトウェアを強制的に終わらせ、本機を再起動する。

画面上のすべてのものが動かなくなってしまった。

→ Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キー、Delete（デリート）キーを同時に押して、本機を再起動する。

→ 上記の操作を行っても本機を再起動できない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して、電源をいったん切ってから入れ直す。

スクロールしない。

→ スクロール機能に対応していないソフトウェアを開いている。スクロールの必要のないソフトウェアはスクロールできません。また、ソフトウェアによっては、スクロール機能に対応していないものがあります。

マウスを動かしてもカーソルが動かない。

→ オートスクロール設定になっている。ホイールボタンを押して、オートスクロールの状態を解除してください。

フロッピーディスク

フロッピーディスクが取り出せない。

→ 本機オンラインマニュアルの「基本的な使いかた」内「フロッピーディスクを使う」の「フロッピーディスクを入れる／取り出す」の「フロッピーディスクを取り出すには」をご覧ください。

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って、保存し直す。

「このディスクは書き込み保護されています。」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。詳しくは、本機オンラインマニュアルの「基本的な使いかた」内「フロッピーディスクを使う」の「フロッピーディスクを書き込み禁止にする」をご覧ください。

フロッピーディスクを初期化しようとしたができない。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。詳しくは、本機オンラインマニュアルの「基本的な使いかた」内「フロッピーディスクを使う」の「フロッピーディスクを書き込み禁止にする」をご覧ください。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。

→ 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。

ハードディスク

誤ってハードディスクを初期化してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。詳しくは「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（118ページ）をご覧ください。

次のページへつづく

ハードディスクの内容を誤って消してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。詳しくは「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（118ページ）をご覧ください。

ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。

→ DVD-ROMドライブまたはCD-RWドライブにリカバリ CDが入っていないか確認する。

→ DVD-ROMドライブまたはCD-RWドライブにブータブルCDが入っていないか確認する。

→ 上記の操作を行っても起動できない場合は、リカバリ CDを使って本機を再セットアップする。詳しくは「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（118ページ）をご覧ください。

CD-ROM／CD-RW／CD-R

CD-ROMが読み込めない、または音楽CDの再生時、音がとぎれる。

→ CD-ROMをDVD-ROMドライブまたはCD-RWドライブに入れてください。

→ CD-ROMが正しくDVD-ROMドライブまたはCD-RWドライブに入っているか確認する。CD-ROMは文字が書いてある面を上にして入れます。

→ CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。

→ CDレンズクリーナーでレンズの汚れをとる。

→ 結露している。しばらく待って電源を入れ直してから、もう一度再生してみる。

→ 使用できないディスクの可能性があります。詳しくは、本機オンラインマニュアルの「VAIO Inform@tion」内「知っ得情報」の「使用できるディスク」をご覧ください。

CD-Rに書き込めない。

→ CD-Rは一度書き込むと書き換えはできません。

→ CD-Rはディスクがいっぱいになると、一度書き込んだデータを削除しても空き容量は増えません。

CD-RW／CD-Rへの書き込み時にデータの書き損じが起こる。

→ データの書き込み前に準備を行う。詳しくは、本機オンラインマニュアルの「基本的な使いかた」内「CD-RW／CD-Rにデータを記録する」の「データを記録する前にお読みください」をご覧ください。

書き込んだCD-RW／CD-Rが他のコンピュータのCD-ROMドライブで読み込めない。

→ 「DirectCD」ソフトウェアで書き込んだCD-RW／CD-Rは、他のコンピュータのCD-ROMドライブで読み込むための設定が必要です。詳しくは、本機オンラインマニュアルの「基本的な使いかた」内「CD-RW／CD-Rにデータを記録する」の「「DirectCD」ソフトウェアを使ってデータを記録する」をご覧ください。

CD-RWを使用して作成した音楽CDがCDプレーヤーで再生できない。

→ CD-RWを使用して作成した音楽CDはCD-RWに対応しているドライブでのみ再生できます。

CD-RW／CD-Rが取り出せない。

→ CD-RW／CD-RはCD-RWイジェクトボタンを押しても状態によっては取り出せないことがあります。詳しくは、本機オンラインマニュアルの「基本的な使いかた」内「CD-RW／CD-Rにデータを記録する」の「「DirectCD」ソフトウェアを使ってデータを記録する」または「「Easy CD Creator」ソフトウェアを使ってデータを記録する」をご覧ください。

DVD-ROM

DVD-ROMが読み込めない、またはDVD再生時画像または音がとぎれる。

→ DVD-ROMをDVD-ROMドライブに入れてください。

→ DVD-ROMが正しくDVD-ROMドライブに入っているか確認する。DVD-ROMは再生したい面を下に向けて入れます。

→ DVD-ROMをCD-RWドライブに入れている。DVD-ROMはCD-RWドライブでは再生できません。

次のページへつづく

→ 地域番号（リージョンコード）が違うDVDを入れている。本機では地域番号（リージョンコード）として「2」（日本）または「ALL」が記されていないDVD-ROMは再生できません。

→ DVD-ROMを柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。

→ CDレンズクリーナーでレンズの汚れをとる。

→ 結露している。しばらく待って電源を入れ直してから、もう一度再生してみる。

エラーメッセージが出て、DVDビデオの再生ができない。

→ ハードウェアアクセラレータが最大になっているか確認してください。

1 **デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **（画面）をダブルクリックする。**

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

3 **［設定］タブをクリックする。**

「設定」画面が表示されます。

4 詳細(V)... **をクリックする。**

5 **［トラブルシューティング］タブをクリックする。**

「トラブルシューティング」画面が表示されます。

6 **「ハードウェアアクセラレータ」のスライダを動かし、最大に設定する。**

7 OK **をクリックする。**

「設定」画面が表示されます。

8 **「画面のプロパティ」画面で** OK **をクリックする。**

「DVDソフトウェアデコーダの設定をするアクセス権がありません」と表示された。

→ 一度、管理者権限（Administrators）でログオンしてから、DVDビデオを再生してください。次に電源を入れたときからは、通常のユーザーで再生できます。

i.LINK

本機と接続したi.LINK対応機器が認識されていない。

→ i.LINK対応機器の電源を切り、いったんi.LINKケーブルを抜き差ししてから、電源を入れ直してください。

録画、再生

録画を実行しても何も録画されない。

→ 本機に接続した機器が動作していない。ビデオカメラレコーダーやビデオデッキから録画するときは、電源が入っているか、機器と本機が正しく接続されているか確認してください。

→ ゲーム機器などの映像は、表示や録画ができないことがあります。本機と接続したビデオ機器から映像を入力している場合、一時停止したときの画像、映像が入力されていないときの画面（青い画面など）、本機に接続したビデオ機器が表示するメニュー画面などは表示や録画ができないことがあります。

番組を予約録画できない。

→ 入力設定が間違っている。「Giga Pocket」ソフトウェアの入力設定（TVチューナー、VIDEO1 INPUT（後面）、VIDEO2 INPUT（前面）、i.LINK）を確認してください。

→ 予約マネージャーが起動していない。本機の電源が入っているか確認してください。または予約マネージャーが起動しているか確認してください。

終わりの部分が録画されていない／最初の部分が録画されていない。

→ 録画が始まるまでに10数秒かかることがあります。実際に録画をするときは、10数秒早く［録画］をクリックしてください。

画面の色がきれいに表示されない／ダイアログボックスなどの表示サイズが大きすぎる（小さすぎる）。

→ ディスプレイの設定を「Giga Pocket」ソフト用に設定しないと、正しく表示されません。詳しくは、本機オンラインマニュアルの「設定を変更する」内「ディスプレイの設定を変更する」の「設定変更のしかた」をご覧ください。

i.LINKコネクタに映像が出力されている。

→ 「Gigaビデオレコーダー」ソフトウェアの「設定」画面の［i.LINK端子へ出力］にチェックマークが付いていると、i.LINKを入力に選択した場合以外、選択されているテレビやアナログビデオの映像がDV変換され、i.LINKコネクタに出力されます。映像をi.LINKコネクタに出力したくないときは、「Gigaビデオレコーダー」ソフトウェアの「設定」画面の［i.LINK端子へ出力］のチェックマークをはずしてください。

次のページへつづく

動画／静止画編集

「DVgate」ソフトウェアを使って動画や静止画の取り込みができない。

→ i.LINK対応機器の認識ができない。「Smart Capture」ソフトウェアが起動している。「Smart Capture」ソフトウェアと「DVgate」ソフトウェアをいったん終了し、「DVgate」ソフトウェアのみを起動してください。

→ i.LINK対応機器の準備ができていない。i.LINK対応機器の電源が入っているか確認してください。

→ 本機とi.LINK対応機器が正しく接続されていない。i.LINKケーブルで本機とi.LINK機器が正しくつながっているか確認してください。

→ 「DVgate」ソフトウェアについて詳しくは、「DVgate」ソフトウェアのヘルプまたはオンラインマニュアルをご覧ください。

「MovieShaker」ソフトウェアを使って動画の取り込みができない。

→ i.LINK対応機器の準備ができていない。i.LINK対応機器の電源が入っているか確認してください。

→ 本機とi.LINK対応機器が正しく接続されていない。i.LINKケーブルで本機とi.LINK機器が正しくつながっているか確認してください。

→ 「MovieShaker」ソフトウェアについて詳しくは、「MovieShaker」ソフトウェアのヘルプまたはオンラインマニュアルをご覧ください。

「DVgate Still」ソフトウェアを使って静止画の取り込みができない。

→ i.LINK対応機器の準備ができていない。i.LINK対応機器の電源が入っているか確認してください。

→ 本機とi.LINK対応機器が正しく接続されていない。i.LINKケーブルで本機とi.LINK対応機器が正しくつながっているか確認してください。

→ 「DVgate Still」ソフトウェアについて詳しくは、「DVgate」ソフトウェアのヘルプまたはオンラインマニュアルをご覧ください。

「Smart Capture」ソフトウェアを使って動画／静止画を電子メールで送れない。

→ 動画が電子メールで送れないときは、撮影時のモードを確認する。ネットムービーモードで撮影した動画のみ、電子メールに添付できます。

→ 「Smart Capture」ソフトウェアについて詳しくは、「Smart Capture」ソフトウェアのヘルプまたはオンラインマニュアルをご覧ください。

→ 電子メールソフトウェアの設定が正しいか確認する。詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」の「困ったときは」をご覧ください。

モデム／インターネット

内蔵モデム／インターネット接続のトラブルについて詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」の「困ったときは」をご覧ください。

本機が内蔵モデムやターミナルアダプタ（ISDN回線の場合）を認識していない。

→ 本機やターミナルアダプタが電話回線に正しく接続されているか確認する。

→ お使いの電話回線が、PBXなどの交換機や他の通信機器を経由していないか確認する。

→ お使いの内蔵モデムが他のデバイスと競合していないか確認する。

→ 「オンラインカスタマー登録」ソフトウェアの使用時にISDN回線に接続していないか確認する。

→ 本機を電話回線に接続するときは、付属のテレホンコードを使う。

→ 本機側および壁側、ターミナルアダプタなどへテレホンコードがしっかりと奥まで接続されているか確認する。

→ 電話回線のコンセントと本機の間に付属以外の分配器などの機器をつなげない。

本機の内蔵モデムやターミナルアダプタがプロバイダに電話をかけていない。

→ ダイヤル方法（トーン／パルス）が正しく設定されているか確認する。

→ 接続先（プロバイダのアクセスポイント）の電話番号を確認する。

→ 発信音を待ってダイヤルする設定になっている場合は設定を解除する。

→ 内蔵モデムやターミナルアダプタが3分以内に3回以上同じ電話番号にかけた場合は、リダイヤル制限がかかる場合があります。3分以上時間をおいてからかけ直してください。

次のページへつづく

モデムやターミナルアダプタは発信しているが接続できない。

→ 電話回線の状態が良くなかったり、電話回線が混み合っている場合は、時間帯をずらして再度接続してみる。

→ 接続先（プロバイダのアクセスポイント）の回線の状態が良くなかったり、回線が混み合っているか接続先のモデムが不調な場合は、時間帯をずらして再度接続してみるか、アクセスポイントを変更して接続してみる。

→ 「ハイパーターミナル」ソフトウェアで時報など他の電話番号に接続できるか試す。

→ お使いのソフトウェアの設定を確認する。

→ 内蔵モデムの通信速度を遅くしてから接続してみる。

ユーザー名やパスワードなどがプロバイダのサーバーによって認証されな い。

→ ユーザー名やパスワードが正しく設定されているか確認する。

→ ユーザー名やパスワードを忘れた場合は、プロバイダから郵送されてきた資料を確認するか、プロバイダにお問い合わせください。

→ 別冊の「はじめてのインターネット！」の「チェックシートを作成する」で作成したチェックシートを見て、ダイヤルアップネットワークの設定内容が正しいか確認する。

→ ダイヤルアップアダプタを削除し、ダイヤルアップ接続アイコンを作り直してから接続してみる。

ウェブブラウザ（「Internet Explorer」ソフトウェアなど）でホームページを見ることができない。

→ ネットワークやダイヤルアップネットワークの設定が正しいか確認する。

→ ホームページのURLをアドレスバーに入力してホームページを見るとき、URLが正しいか確認する。

電子メールをやりとりできない。

→ 電子メールソフトウェアの設定が正しいか確認する。

上記の項目を確認しても接続できないときは、接続しようとしているインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

エラーメッセージ

電源を入れると、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが表示される。

→ 92ページをご覧ください。

電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。

→ 92ページをご覧ください。

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ 99ページをご覧ください。

「このディスクは書き込み保護されています。」というメッセージが表示された。

→ 99ページをご覧ください。

「DVDソフトウェアデコーダの設定をするアクセス権がありません。」と表示された。

→ 102ページをご覧ください。

電源を入れた後、「Invalid system disk. Replace the disk, and then press any key.」または「NTLDR is missing. Press any key to restart.」というメッセージが出て、ハードディスクから起動できない。

→ 93ページをご覧ください。

電源を入れると、「CMOS Battery Bad」というメッセージが表示される。

→ 93ページをご覧ください。

電源を入れると、「CMOS Checksum Error」というメッセージが表示される。

→ 93ページをご覧ください。

「Windows 2000 CD-ROMのラベルの付いたディスクを挿入し［OK］をクリックしてください。」というメッセージが表示される。

→ 本機の設定を変更したあとに表示されることがあります。以下の手順に従って操作してください。付属のリカバリ CD-ROMは、DVD-ROMドライブやCD-RWドライブには挿入しないでください。

1 **メッセージが表示されたら、［OK］をクリックする。**

「ファイルのコピー」画面が表示されます。

2 **「ファイルのコピー元」に、「c:¥i386」と入力して［OK］をクリックする。**

必要なファイルがコピーされます。

次のページへつづく

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアから、PDF形式のファイルを開こうとすると、「Could not find Acrobat External Window Handler.」、「An internal error has occurred.」というメッセージが表示され、PDF形式のファイルを開くことができない。

→ 本機を再起動後、以下の手順を行ってください。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、**［Adobe Acrobat 4.0］**から**［Acrobat Reader 4.0］**をクリックする。**

2 **言語を選択する画面が表示されたら、「日本語」を選択し、** OK **をクリックする。**

言語を選択する画面が表示されない場合は、そのまま手順3を行ってください。

3 **「ソフトウェア使用許諾契約書」画面が表示されたら、契約書の内容を読み、** 同意する(A) **をクリックする。**

「ソフトウェア使用許諾契約書」画面が表示されずに「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアが起動した場合は、そのまま手順4を行ってください。

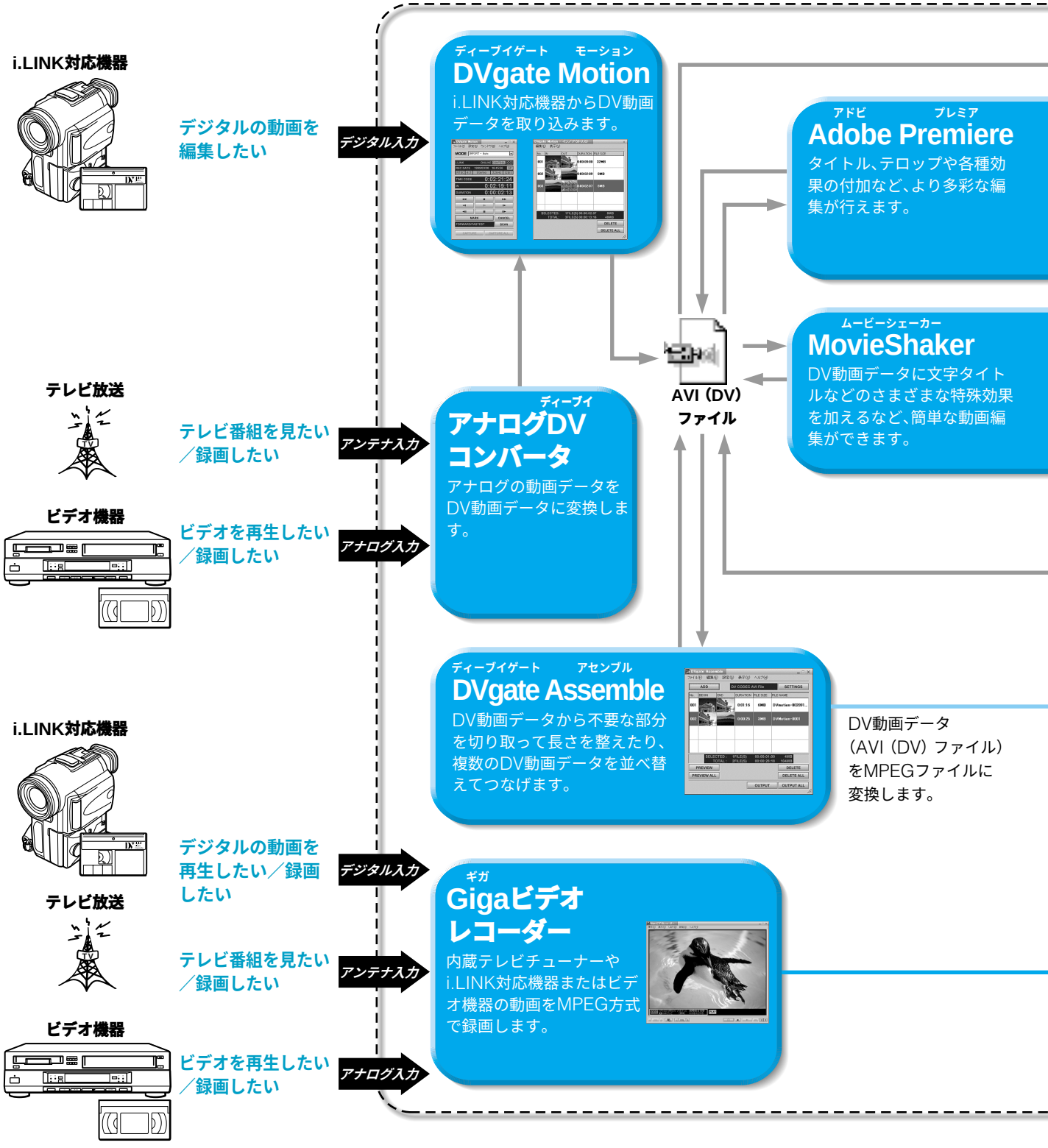
4 **「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアが起動したら、画面右上の ✕ をクリックする。**

5 **「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアから、先ほど開けなかったPDF形式のファイルを開き、表示されることを確認する。**

その他

動画系ソフトウェアの操作の流れ

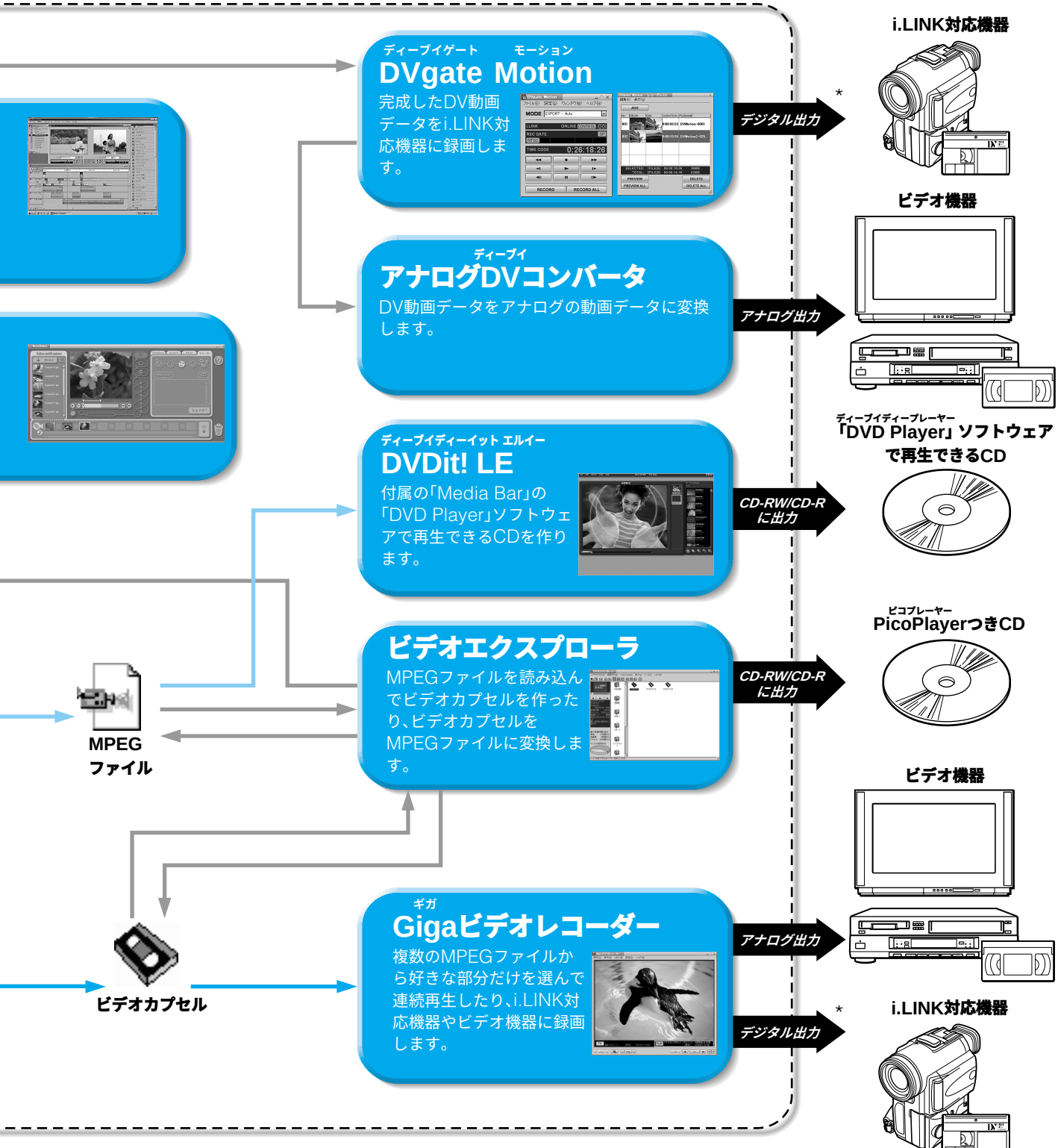
本機には動画を扱うソフトウェアが数多く付属しています。それぞれのソフトウェアの役割と操作の流れを簡単に紹介します。それぞれのソフトウェアの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書またはオンラインマニュアルをご覧ください。本機とAV機器やi.LINK対応機器のつなぎかたについては、「接続する／準備する」（30ページ）および別冊の「接続／拡張マニュアル」をご覧ください。



エーブイアイ（ディーブイ）
AVI（DV）：Windowsで動画や音声を再生するために米マイクロソフト社が作ったファイル形式です。
「DVgate Motion」ソフトウェアではDV形式で圧縮されたAVIファイルのみを扱っています。

エムペグ
MPEG：動画データの圧縮方式です。

ビデオカプセル：「Giga Pocket」ソフトウェアでは、MPEGの動画ファイルと各種の付加情報を1つにまとめて「ビデオカプセル」と呼びます。



＊番組録画の日時やチャンネルなどの録画情報が出力されないことがあります。この場合、この録画情報を記録したDVテープを再生すると録画情報が表示されないことがありますが、異常ではありません。

コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピュータウイルスに侵入されると...」に見られるような被害が起きてしまいます。
コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピュータウイルスに侵入されると...

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

本機には、コンピュータウイルス検査／ウイルス除去用ソフトウェアとして「VirusScan」ソフトウェアが付属しています。コンピュータウイルスから守るため、定期的なウイルスチェックをおすすめします。
なお、本機には「VirusScan」ソフトウェアはあらかじめインストールされていません。「VirusScan」ソフトウェアをインストールするには、次ページの手順に従って操作してください。
「VirusScan」ソフトウェアについて詳しくは、「VirusScan」のヘルプをご覧になるか、下記にお問い合わせください。
日本ネットワークアソシエイツ株式会社 テクニカルサポート
電話番号：(03) 3379-7770

ちょっと一言

「VirusScan」ソフトウェアは、本機ご購入時より1年間、無償でアップグレードを行うことができます。
アップグレード方法ならびにパッケージのご購入について詳しくは、下記にお問い合わせください。
日本ネットワークアソシエイツ株式会社
電話番号：(03) 5428-1100

「VirusScan」ソフトウェアをインストールするには

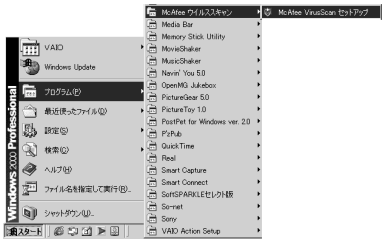
以下の手順に従って「VirusScan」ソフトウェアをインストールします。

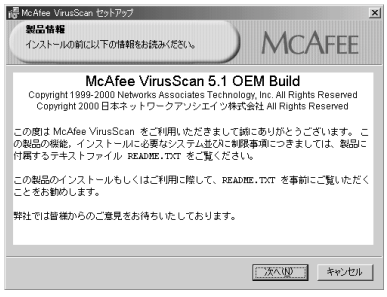
ご注意

以下の手順を行うには管理者権限（Administrators）のユーザーでログオンしている必要があります。

1 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［McAfee ウイルススキャン］、［McAfee VirusScan セットアップ］の順にクリックする。

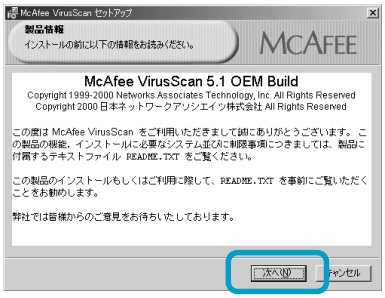
インストールの準備後、「製品情報」画面が表示されます。

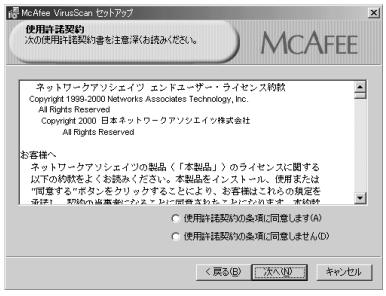




2 ［次へ(N)］をクリックする。

「使用許諾契約」画面が表示されます。

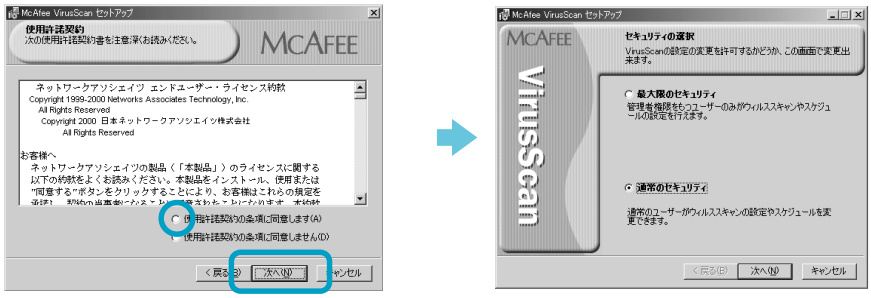




次のページへつづく

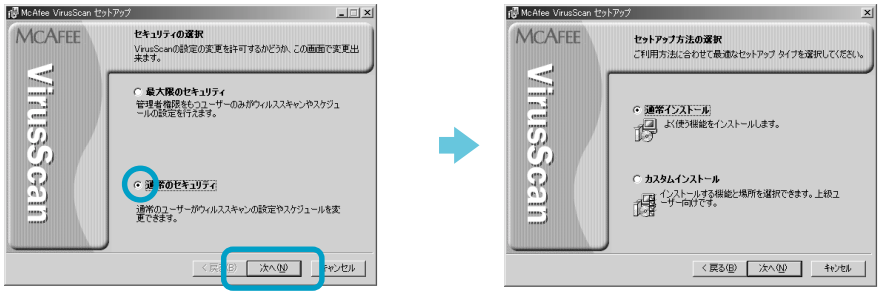
3 内容を確認後、「使用許諾契約の条項に同意します」の ○ をクリックして ◉ にし、次へ(N) をクリックする。

「セキュリティの選択」画面が表示されます。



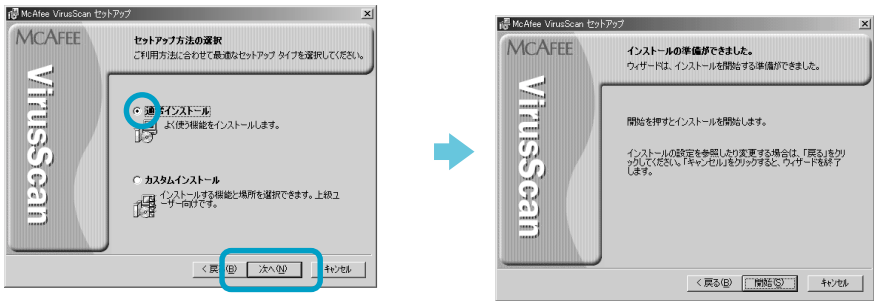
4 「通常のセキュリティ」の ○ をクリックして ◉ にし、次へ(N) をクリックする。

「セットアップ方法の選択」画面が表示されます。



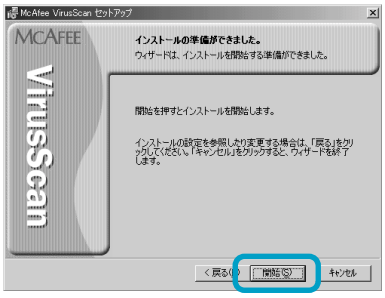
5 「通常インストール」の ○ をクリックして ◉ にし、次へ(N) をクリックする。

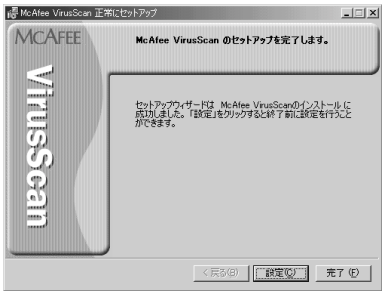
「インストールの準備ができました。」画面が表示されます。



6 開始(S) をクリックする。

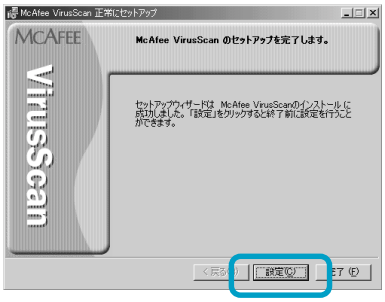
インストールが始まります。
インストールが終わると、「McAfee VirusScan のセットアップを完了します。」画面が表示されます。





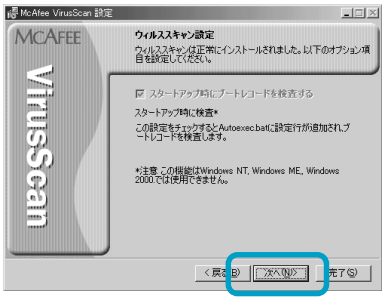
7 設定(C) をクリックする。

「ウィルススキャン設定」画面が表示されます。



8 次へ(N) をクリックする。

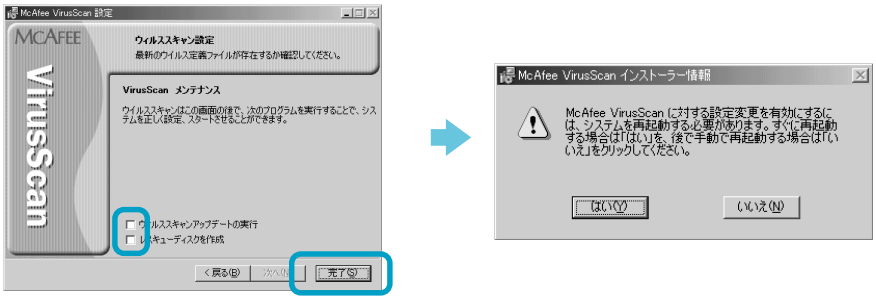
「ウィルススキャン設定」の「VirusScan メンテナンス」画面が表示されます。



次のページへつづく

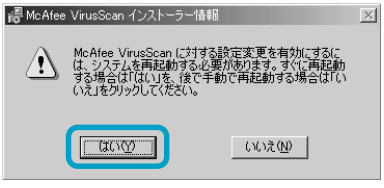
9 「ウィルススキャンアップデートの実行」と「レスキューディスクを作成」の☑をクリックして☐にし、［完了(S)］をクリックする。

「McAfee VirusScanインストーラー情報」画面が表示されます。



10 ［はい(Y)］をクリックする。

本機が再起動します。
これでインストールは完了です。



「VirusScan」ソフトウェアをご使用になる際のご注意

- 「VirusScan」ソフトウェアのインストールを行うと、次回起動時から「VShield」ソフトウェアがデスクトップ画面右下のタスクトレイに常駐し、ウイルスの自動監視を行います。
- 本機に付属の「VirusScan」ソフトウェアは、複数ユーザーでの同時使用はできません。ただし、一人のユーザーが複数のユーザー名を使い分けて本機にログオンする場合、「VirusScan」ソフトウェアをインストールしたユーザー名でいったんアンインストールを行い、新たなユーザー名でインストールし直すことにより、そのユーザー名で「VirusScan」ソフトウェアを使用することができます。
- 「VShield」ソフトウェアのインストールにより、Windows 2000の起動時間が長くなる場合があります。

- 新種のウイルスに対応するため、ウイルスに関するデータファイルは常に更新することをおすすめします。インターネット上で、下記のURLより最新のデータファイルを入手できます。

  http://www.nai.com/japan/

- ウイルスデータファイルの更新や「VirusScan」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VirusScan」のヘルプをご覧ください。

リカバリ CDで本機を再セットアップする

ここでは付属のリカバリ CD-ROM（以降、リカバリ CDと略します）を使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリ CDとは

付属のリカバリ CDには「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の 2種類があり、お買い上げ時のハードディスク内のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、あらかじめインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使ってハードディスクの内容をお買い上げ時の状態に戻すことができます。

リカバリ CDを使うと、次のことができます。

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する（お買い上げ時の状態に戻る）。
- ハードディスクのパーティションのサイズを変更する。
  詳しくは「パーティションサイズを変更する」（126ページ）をご覧ください。

ご注意

- 付属のリカバリ CDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- 付属のリカバリ CDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや作成したデータを復元することはできません。また、Windows 2000だけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。再セットアップ後に、もう一度設定し直してください。
- 再セットアップする際は、必ず「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使ってください。「アプリケーション リカバリ CD-ROM」を使わずに再セットアップを完了すると、本機の動作が不安定になる場合があります。
- BIOSの設定を変えた場合は、お買い上げ時の設定に戻してから再セットアップしてください。

BIOSとは

「バイオス」と読みます。コンピュータの基本的な設定をするためのプログラムの集まりで、電源を入れると最初にBIOSの読み込みが始まります。もし、BIOSが正しく働かないと、コンピュータは起動しなくなります。

再セットアップする前に

本機を再セットアップする前に、大切なデータは必ずバックアップをとってください。
バックアップをとるには、次の方法があります。

- フロッピーディスクにコピーする。
- CD-RW／CD-Rにコピーする。
- D:ドライブにデータを残して、再セットアップを行う。

本機のハードディスクは、C:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれています。「再セットアップする」の手順7で「フォーマットしてリカバリ」を選んだ場合、C:ドライブのファイルはすべて消えてしまいますが、D:ドライブにあるファイルは残ります。

ご注意

「再セットアップする」の手順7で「パーティションサイズを変更してリカバリ」または「出荷時状態へリカバリ」を選んだ場合は、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更したり、お買い上げ時の状態に戻す前に、大切なデータはフロッピーディスクやCD-RW／CD-Rに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

再セットアップする

再セットアップする前に、以下の点を確認してください。

- 本機に接続しているすべての周辺機器を取りはずしてください。周辺機器は、再セットアップが終わったあとに再び接続してください。
- 大切なデータはバックアップをとったか確認してください。
- フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っていないか確認してください。

Windows 2000が完全に起動できない場合などに本機を再セットアップするときは、「Windows 2000が完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには」（122ページ）をご覧ください。
パーティションサイズを変更するときは、「パーティションサイズを変更する」（126ページ）をご覧ください。

ご注意

再セットアップした場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。再セットアップする前に、大切なデータはフロッピーディスクやCD-RW／CD-Rに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

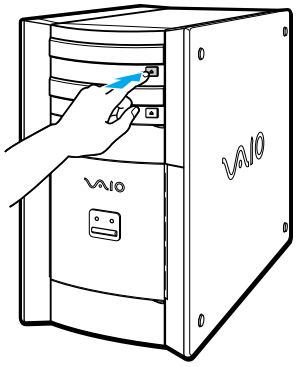
次のページへつづく

1 本機の電源を入れる。

電源の入れかたについて詳しくは、「電源を入れる」（47ページ）をご覧ください。

2 DVD-ROMイジェクトボタンを押す。

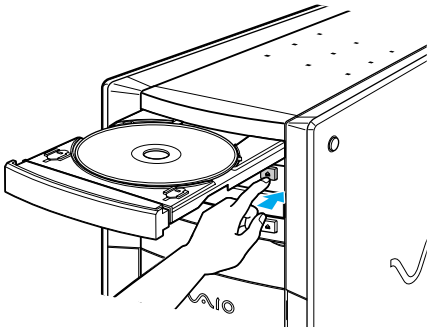
ディスクトレイが自動的に引き出されます。



3 付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.1 of 3」を、レーベル面（文字が書いてある面）を上にして、ディスクをトレイの中央に置く。

4 DVD-ROMイジェクトボタンを押して、トレイを閉める。

自動的に「VAIO System Recovery Utility」が起動し、「はじめに」画面が表示されます。



5 内容をよく読み、次へ(N) > をクリックする。

6 引き続き内容をよく読んでから「同意する」の ○ をクリックして ◉ にし、次へ(N) > をクリックする。

「メニュー選択」画面が表示されます。

ちょっと一言

「同意しない」をクリックすると、再セットアップ作業を続けることはできません。

7 再セットアップの方法を選んで、○ をクリックして ◉ にし、次へ(N) > をクリックする。

次の中から再セットアップの方法を選びます。

「フォーマットしてリカバリ」：C:ドライブにあるファイルをすべて削除して、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「パーティションサイズを変更してリカバリ」：C:ドライブとD:ドライブのサイズを変更してから、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「出荷時状態へリカバリ」：パーティションをお買い上げ時の状態に戻してから、ソフトウェアを復元します。

8 画面の指示に従って操作し、「再起動してリカバリを開始します」画面が表示されたら、「リカバリを開始する」の ☐ をクリックして ☑ にし、完了 をクリックする。

自動的に本機が再起動し、再セットアップが始まります。

再セットアップを中止するときは、キャンセル をクリックします。

9 「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.2 of 3」をDVD-ROMドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。

再セットアップの続きが始まります。

次のページへつづく

10 「システム リカバリ CD-ROM」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。

ちょっと一言

「システム リカバリ CD-ROM Vol.3 of 3」にはドライバなどが収められています。本機を再セットアップする際は使用しません。

11 「Windows 2000を準備する」（49ページ）の手順に従って、Windows 2000をセットアップする。

12 Windows 2000のセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をDVD-ROMドライブに入れる。

OK をクリックするとソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、

OK をクリックしてください。

13 本機を再セットアップする前にインターネットに接続していた場合は、別冊の「はじめてのインターネット！」の手順に従ってインターネットへの接続の設定を行う。

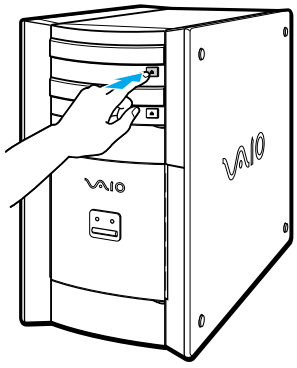
Windows 2000が完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには

1 本機の電源を入れる。

電源の入れかたについて詳しくは、「電源を入れる」（47ページ）をご覧ください。

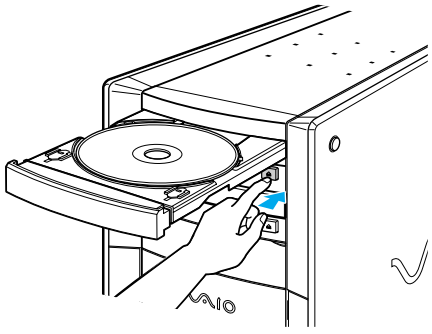
2 DVD-ROMイジェクトボタンを押す。

ディスクトレイが自動的に引き出されます。



3 付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.1 of 3」を、レーベル面（文字が書いていある面）を上にして、ディスクをトレイの中央に置く。

4 DVD-ROMイジェクトボタンを押して、トレイを閉める。



5 Windows 2000が起動している場合は終了し、本機の電源を切る。

Windows 2000の終了のしかた、電源の切りかたについて詳しくは、「電源を切る」（56ページ）をご覧ください。

6 30秒ほど待ってから、⏻（電源）ボタンを押して本機の電源を入れる。

しばらくするとDVD-ROMドライブから起動し、リカバリ CD上のプログラムが動作します。

次のページへつづく

7 「何かキーを押してください。」というメッセージが表示されたら、何かキーボード上のキーを押す。

メニュー画面が表示されます。

8 再セットアップの方法を選び、Enter（エンター）キーを押す。

次の中から再セットアップの方法を選びます。再セットアップを中止するときは4を選びます。

「1.フォーマットしてリカバリ...」：C:ドライブにあるファイルをすべて削除して、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「2.パーティションサイズの変更...」：C:ドライブとD:ドライブのサイズを変更してから、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「3.出荷時状態へリカバリ...」：パーティションをお買い上げ時の状態に戻してから、ソフトウェアを復元します。

「4.システム リカバリ CD-ROMを終了する...」：再セットアップを中止します。

9 画面の指示に従って操作する。

操作を続けるかどうか聞かれたときは、Y キーを押して Enter（エンター）キーを押してください。

10 「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.2 of 3」をDVD-ROMドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。

再セットアップの続きが始まります。

11 「システム リカバリ CD-ROM」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。

ちょっと一言

「システム リカバリ CD-ROM Vol.3 of 3」にはドライバなどが収められています。本機を再セットアップする際は使用しません。

12 「Windows 2000を準備する」（49ページ）の手順に従って、Windows 2000をセットアップする。

13 Windows 2000のセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をDVD-ROMドライブに入れる。

OK をクリックするとソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、

OK をクリックしてください。

14 本機を再セットアップする前にインターネットに接続していた場合は、別冊の「はじめてのインターネット！」の手順に従ってインターネットの接続の設定を行う。

ご注意

BIOSの設定状態によっては、リカバリ CDが起動しないことがあります。この場合は、BIOSをお買い上げ時の設定に戻す必要があります。BIOSをお買い上げ時の設定に戻すには、以下のように操作します。

1 **本機前面の ⏻（電源）ボタンを押し、画面にSonyのロゴが表示されたら、キーボードの F2 キーを押す。**

BIOSセットアップメニューが起動し、「AwardBIOS Setup Utility」画面が表示されます。

2 **F5 (Setup Defaults) キーを押す。**

「Load default configuration now?」というメッセージが表示されます。

3 **Home ／ End キーを押して [Yes] を選び、Enter（エンター）キーを押す。**

すべての設定項目がお買い上げ時の設定に戻ります。

4 **F10 (Save and Exit) キーを押す。**

「Save configuration changes and exit now?」というメッセージが表示されます。

5 **Home ／ End キーを押して [Yes] を選び、Enter（エンター）キーを押す。**

変更された設定が保存され、BIOSセットアップメニューが終了し、Windows 2000が起動します。

このあとは、120ページからの手順に従って本機を再セットアップしてください。

Windows 2000が起動しない場合は、「Windows 2000が完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには」（122ページ）の手順に従って本機を再セットアップしてください。

パーティションサイズを変更する

本機のハードディスクはC:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれており、D:ドライブは、「DVgate」ソフトウェアや「Giga Pocket」ソフトウェアなどで取り込んだ動画などの容量が大きいデータを保存したり、操作したりするための領域（データスペース）として使えるように設定されています（お買い上げ時）。付属のリカバリ CDを使ってパーティションサイズを変更できます。
動画の取り込みや書き出しを行う場合は、大容量のデータを高速で読み書きするため、ハードディスクの断片化が起こり、フレーム落ちの原因となります。そのため、データスペースとしてお使いになるパーティションは、ハードディスクの空き容量が常に連続になるよう、最適化（デフラグ）またはフォーマットを行ってください。
パーティションを区切ると、Windows 2000はC:ドライブにインストールされます。C:ドライブを最適化するのに非常に時間がかかる場合がありますので、D:ドライブをデータスペースとしてお使いになることをおすすめします。

パーティションとは

ハードディスクなどの大容量補助記憶装置の領域を分割することです。分割することで、1台のハードディスクが複数台のハードディスクと同じように使えるため、ファイルや、ソフトウェアの格納場所を分けるといったような使い分けができます。

断片化とは

「フラグメンテーション」とも言います。ディスクに記録するファイルが連続した領域に収まらずに、あちこちに散らばって記録された状態のことです。通常は大きな問題になりませんが、データの記録や読み出しに時間がかかるなどの症状があらわれます。長期間にわたって断片化を放置すると、断片化した場所が大きくなり、エラーが頻発する原因になることもあります。

デフラグ（最適化）とは

ディスク中の断片化したデータをきれいにまとめることです。デフラグ（最適化）により、データの読み出し書き込みが速くなったり、エラーが起きる可能性が低くなったりします。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはフロッピーディスクやCD-RW／CD-Rなどに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

1 「再セットアップする」（119ページ）の手順1～6を行う。

2 再セットアップの方法の中から、「パーティションサイズを変更してリカバリ」の ○ をクリックして ◉ にし、次へ(N) > をクリックする。

「パーティションサイズを変更してリカバリ」画面が表示されます。

詳細情報 をクリックすると、現在のパーティションサイズを確認できます。

3 一覧からパーティションサイズを選び、次へ(N) > をクリックする。

4 画面の指示に従って操作し、「再起動してリカバリを開始します」画面が表示されたら、「リカバリを開始する」の ☐ をクリックして ☑ にし、完了 をクリックする。

再セットアップを中止するときは、キャンセル をクリックします。

パーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。再起動後、各ドライブが初期化され、再セットアップが始まります。

5 「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.2 of 3」をDVD-ROMドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。

再セットアップの続きが始まります。

6 「システム リカバリ CD-ROM」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。

ちょっと一言

「システム リカバリ CD-ROM Vol.3 of 3」には、ドライバなどが収められています。本機を再セットアップする際は使用しません。

次のページへつづく

7 「Windows 2000を準備する」（49ページ）の手順に従って、Windows 2000をセットアップする。

8 Windows 2000のセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をDVD-ROMドライブに入れる。

OK をクリックするとソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、OK をクリックしてください。

9 本機を再セットアップする前にインターネットに接続していた場合は、別冊の「はじめてのインターネット！」の手順に従ってインターネットへの接続の設定を行う。

Windows 2000が完全に起動しない状態で本機のパーティションサイズを変更するには

1 「Windows 2000が完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには」（123ページ）の手順1～7を行う。

2 メニュー画面が表示されたら、「2.パーティションサイズの変更...」を選び、Enter（エンター）キーを押す。

パーティションサイズの選択画面が表示されます。

Esc（エスケープ）キーを押すと、現在のパーティションサイズを確認できます。

3 パーティションサイズを選び、Enter（エンター）キーを押す。

サイズの変更を中止する場合は、N キーを押してから Enter（エンター）キーを押すと手順2の画面に戻ります。

4 画面の指示に従って操作する。

操作を続けるかどうかを聞かれたときは Y キーを押し、Enter（エンター）キーを押してください。
パーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。再起動後、各ドライブが初期化され、再セットアップが始まります。

5 「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.2 of 3」をDVD-ROMドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。

再セットアップの続きが始まります。

6 「システム リカバリ CD-ROM」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。

ちょっと一言

「システム リカバリ CD-ROM Vol.3 of 3」には、ドライバなどが収められています。本機を再セットアップする際は使用しません。

7 「Windows 2000を準備する」（49ページ）の手順に従って、Windows 2000をセットアップする。

次のページへつづく

パーティションサイズを変更する（つづき）

8 Windows 2000のセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をDVD-ROMドライブに入れる。

OK をクリックするとソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、
OK をクリックしてください。

9 本機を再セットアップする前にインターネットに接続していた場合は、別冊の「はじめてのインターネット！」の手順に従ってインターネットへの接続の設定を行う。

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- CD-RW／CD-Rにデータを記録中に振動や衝撃を与えないでください。
- 直射日光が当たる場所、暖房器具の近くなど、異常な高温になる場所には置かないでください。故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- ほこりが多い場所では使用しないでください。
- 湿気が多い場所では使用しないでください。
- 風通しが悪い場所では使用しないでください。

結露について

結露とは空気中の水分が金属の板などに付着し、水滴となる現象です。本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。そのままご使用になると故障の原因となります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、本来はほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。
ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- 振動や衝撃を与えないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

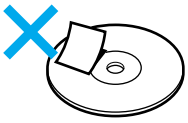
バックアップをとる

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップをとることをおすすめします。ソフトウェアはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 2000のヘルプをお読みください。

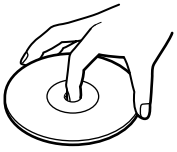
DVD-ROM／CD-ROM／CD-RW／CD-Rの取り扱いについて

DVD-ROM／CD-ROM／CD-RW／CD-Rに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。CD-RW／CD-Rは記録面が汚れると、データの書き込みができなくなります。記録面には触れないでください。

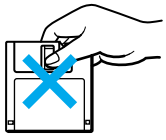


- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- 直射日光が当たって高温になった自動車の中に長時間放置しないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。
- CD-RWやCD-Rのレーベル面に文字などを書くときは、油性のフェルトペンをお使いください。ボールペンなどで文字を書くと、記録面を傷つけ、データの書き込みができなくなることがあります。

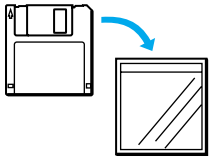
フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。



コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピュータウイルスに侵入されると…」に見られるような被害が起きてしまいます。
コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピュータウイルスに侵入されると…

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

コンピュータウイルスを侵入させないためには

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書は必ずウイルスチェックをしてください。
- 本機にはコンピュータウイルス検査／ウイルス除去用ソフトウェアとして、「VirusScan」ソフトウェアが付属しています。本機をコンピュータウイルスから守るため、定期的なウイルスチェックをおすすめします。なお、本機には「VirusScan」ソフトウェアはあらかじめインストールされていません。

  「コンピュータウイルスについて」（112ページ）の手順に従って「VirusScan」ソフトウェアをインストールする必要があります。
- コンピュータウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がることがありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。
- 新種のウイルスに対応するため、ウイルスに関するデータファイルは常に更新することをおすすめします。インターネット上で、下記のURLより最新のデータファイルを入手できます。

  http://www.nai.com/japan/
- ウイルスデータファイルの更新や「VirusScan」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VirusScan」のヘルプをご覧になるか、下記にお問い合わせください。

  日本ネットワークアソシエイツ株式会社

  テクニカルサポート

  電話番号：(03) 3379-7770

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書の控えをとる習慣をつけましょう。

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。
また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは原則として禁じられています。ソフトウェアの使用許諾契約書をよくお読みのうえ、お使いください。

DVD-ROMドライブの地域番号（リージョンコード）書き換えについて

お買い上げ時、本機のDVD-ROMドライブの地域番号は「2」（日本）に設定されています。Windows 2000および一部のソフトウェアにはこの地域番号を書き換える機能がありますが、お使いにならないでください。この機能をお使いになった結果生じた不具合につきましては、保証期間内でも有償修理とさせていただきます。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 2000用、DOS/V用、PC/AT互換機用などと表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。
ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。
市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

お手入れ

本機やディスプレイのお手入れ

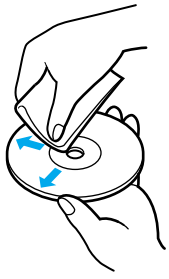
本機やディスプレイについたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機やディスプレイの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてからお手入れをしてください。
- 濡れたもので本機やディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

DVD-ROM／CD-ROMのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読み取りエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。



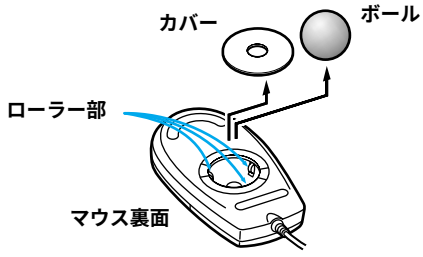
- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

CD-RW／CD-Rのお手入れ

- CD-RW／CD-Rは、データを記録する前には絶対にクリーナーで拭かないでください。ほこりなどの汚れは、ブロワーを使って吹き飛ばしてください。
- ベンジンやシンナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。
- CD-RW／CD-Rの未記録部分にキズやほこりがあると正しいデータが記録できないことがあります。取り扱いには充分ご注意ください。
- CD-RW／CD-Rは直射日光を避けて保存してください。

マウスを掃除する

マウスは長く使っていると、内部にゴミやほこりなどがたまり、画面上のポインタが思うように動かなくなります。この場合は、マウスの裏面のカバーを取りはずし、ボールを取り出して内部を掃除します。



- 乾いた布で内部のゴミやほこりなどを取り除いてから綿棒でローラー部のゴミをこすり取ってください。
- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、マウスを本機から取りはずしてからマウスを掃除してください。
- 濡れたものでマウスを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

キーボードを掃除する

キーボードは長く使っていると、キーが汚れたり、キーの間にゴミやほこりがたまります。キーの間にゴミやほこりがたまると、キーを押しても目的の文字を入力できなくなったり、押したキーがへこんだまま元に戻らなくなることがあります。この場合は、キーボードを掃除します。

- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- キーの側面は、綿棒でこすり取ってください。
- キーの間は、エア・スプレーなどでゴミやほこりを散らしてください。

ご注意

- 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、キーボードを本機から取りはずしてからキーボードを掃除してください。
- 濡れたものでキーボードを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3か月間です。カスタマー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOカスタマーリンクへご連絡ください

VAIOカスタマーリンクについては、別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
ただし、故障の原因が不当な分解や改造であると判明した場合は、保証期間内であっても、有償修理とさせていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではパーソナルコンピュータの修理は引取修理を行っています。
当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。弊社の修理により、ハードディスクなどのプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルコンピュータの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご相談ください。
ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- お客様のカスタマーID
- 型名：PCV-RX71K／RX61K
- 製造番号：
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

部品の交換について

この製品は修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

索引

五十音順

ア

アクティブスピーカー ..... 31、46、47、95
アンテナコネクタ ..... 25、26、32
インターネット ..... 41、80、105
ウイルス ..... 55、112、133
エラーメッセージ 107
映像入力／出力コネクタ ..... 24、25、26、38
オンラインマニュアル ..... 66、68

カ

各部のなまえ ..... 24、60
カスタマー登録 80
キーボード
　お手入れ 136
　接続 39
　トラブル 96
クリック
　クリック 62
　ダブルクリック 62
　右クリック 63
結露 131
コンピュータウイルス ..... 55、112、133

サ

再セットアップ 118
サイバーサポート 77
シリアルコネクタ ..... 25、26
受光ユニット 40
接続
　ISDN回線 43
　アクティブスピーカー ..... 31、46
　アンテナ 32
　キーボード 39
　受光ユニット 40
　ディスプレイ ..... 30、31
　電話回線 41
　電源コード 45
　ビデオデッキ 38
　マウス 39
設置 28
ソフトウェアの不正コピー禁止 134

タ

ダブルクリック 62
断片化 126
チルダ 97
ディスプレイ
　お手入れ 135
　接続 ..... 30、31
　トラブル 94
デフラグ（最適化） 126
電源
　電源を入れる 47
　電源を切る 56
　電源ボタン ..... 24、47
　電源ランプ ..... 24、47
　トラブル 91
電話回線
　電話回線ジャック ..... 25、26、42
　電話機ジャック ..... 25、26、41
動画系ソフトウェアの操作の流れ 110
トピック 69
ドラッグ 63
ドラッグアンドドロップ 64
トラブルの解決方法 90

ハ

ハードディスク
　トラブル 99
　取り扱いについて 131
　バックアップをとる 131
ハードディスクアクセスランプ 24
パーティション 126
パームレスト ..... 28、39
付属品 20
フロッピーディスク
　アクセスランプ 24
　イジェクトボタン 24
　トラブル 99
　取り扱いについて 132
フロッピーディスクドライブ 24
ヘッドホンコネクタ ..... 25、26、30
ヘルプ ..... 75、78
ポインタ 61
ポイントする 62

マ

マイクロホンコネクタ ..... 25、26、31
マウス
　お手入れ 135
　接続 39
　トラブル 98
　ホイールボタン 60
　マウスコネクタ ..... 25、26
　マウスを使う 60
右クリック 63
モニタコネクタ ..... 25、26、30、31

ラ

ライン入力コネクタ ..... 25、26
リカバリ CD 118
リモコン ..... 27、44、96

アルファベット順

A

AC電源入力 ..... 25、26、45
Adobe Acrobat Reader 73

B

BIOS ..... 93、118、125

C

CD-R
　お手入れ 135
　トラブル 100
　取り扱いについて 132
CD-ROM
　お手入れ 135
　トラブル 100
　取り扱いについて 132
CD-RW
　お手入れ 135
　トラブル 100
　取り扱いについて 132
CD-RWドライブ 24
CyberCodeラベル 23
CyberSupport for VAIO 77

D

DVD-ROM
　お手入れ 135
　トラブル 101
　取り扱いについて 132
DVD-ROMドライブ 24

I

i.LINK ..... 24、25、26、102
Internet Explorer 68
ISDN回線 43

O

OS 55

P

PCカードスロット 24

U

USBコネクタ ..... 24、25、26、40

V

VAIOカスタマーご登録 80
VAIOカスタマーリンク 88
VirusScan 112

W

Windows 2000
　Windows 2000のヘルプ 75
　準備する 49

MEMO

本機をお使いになる前に、必ずお買い上げのコンピュータに添付のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

商標について

- VAIO はソニー株式会社の商標です。
- i.LINKは、IEEE1394-1995およびその拡張仕様を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ" i " は商標です。
- CyberCodeはソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、MS-DOSおよびWindowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Adobe®、Adobe® Photoshop®、Adobe® PhotoDeluxe®、Adobe Premiere®およびAdobe® Acrobat® Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の商標です。
- Sonic、Sonic Solutions、DVDit!は米国Sonic Solutions社の米国およびその他の国における登録商標です。
- VirusScanは日本ネットワークアソシエイツ株式会社の商標です。
- IBMおよびPC/AT、PS/2は米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。
  なお、本文中では™、®マークは明記していません。

VAIOホームページ
VAIOを楽しく使っていただくための情報をご案内します。
● http://www.vaio.sony.co.jp/

VAIOカスタマーリンク ホームページ
VAIOの最新サポート情報をご案内します。
● http://vcl.vaio.sony.co.jp/

Sony online http://www.world.sony.com/
「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

Printed in Japan